

第4章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住年数
 - (2) 定住・転出意向
 - (3) 定住意向理由
 - (4) 転出意向理由
-

1 定住性

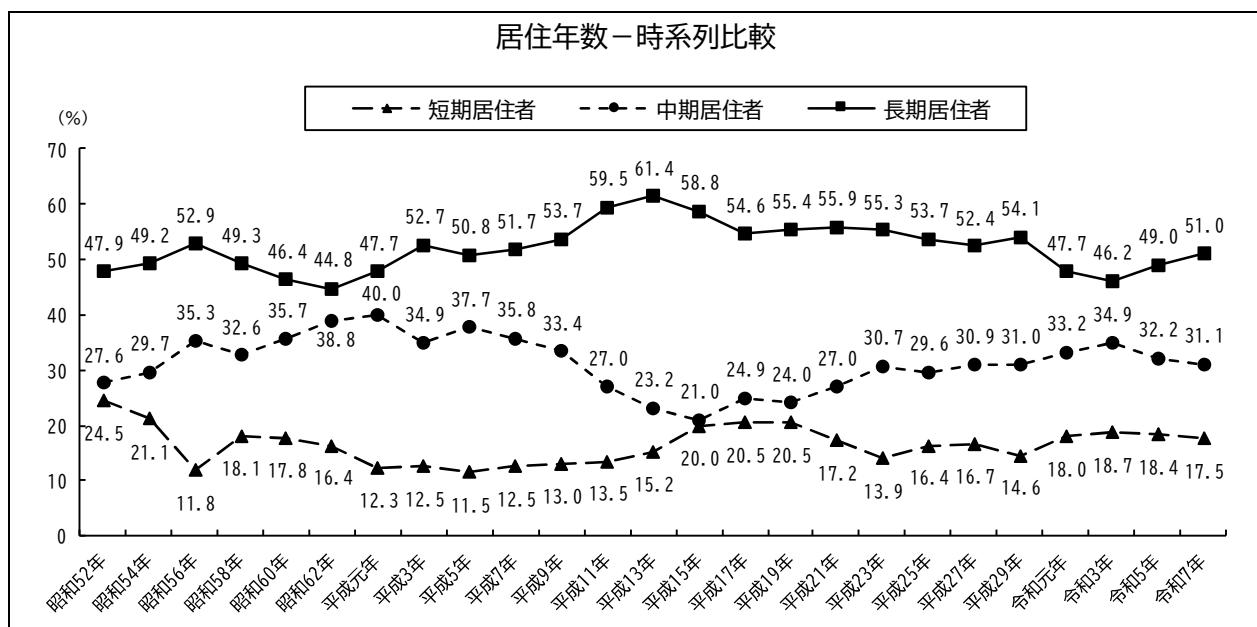
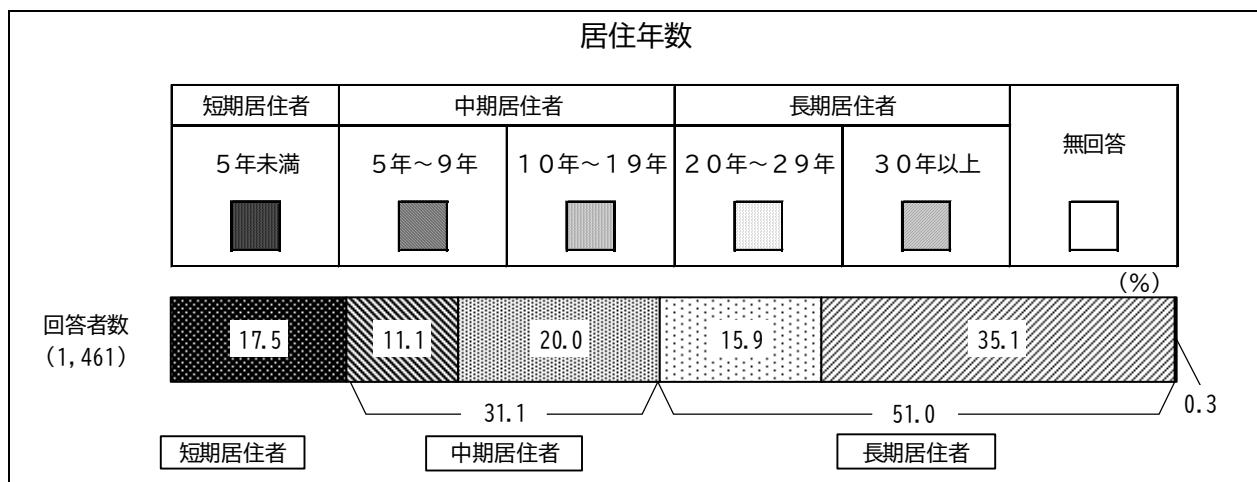
(1) 居住年数

◇「長期居住者」は5割を超える

問1	あなたは、江東区に住んで何年になりますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,461)				
1 5年未満	17.5%	4 20年～29年	15.9%		
2 5年～9年	11.1%	5 30年以上	35.1%		
3 10年～19年	20.0%	無回答	0.3%		

居住年数については、「20年～29年」(15.9%)と「30年以上」(35.1%)の2つを合わせた「長期居住者」(51.0%)が5割を超えており、「5年～9年」(11.1%)と「10年～19年」(20.0%)の2つを合わせた「中期居住者」(31.1%)は3割を超え、「5年未満」の「短期居住者」(17.5%)は2割近くとなっている。

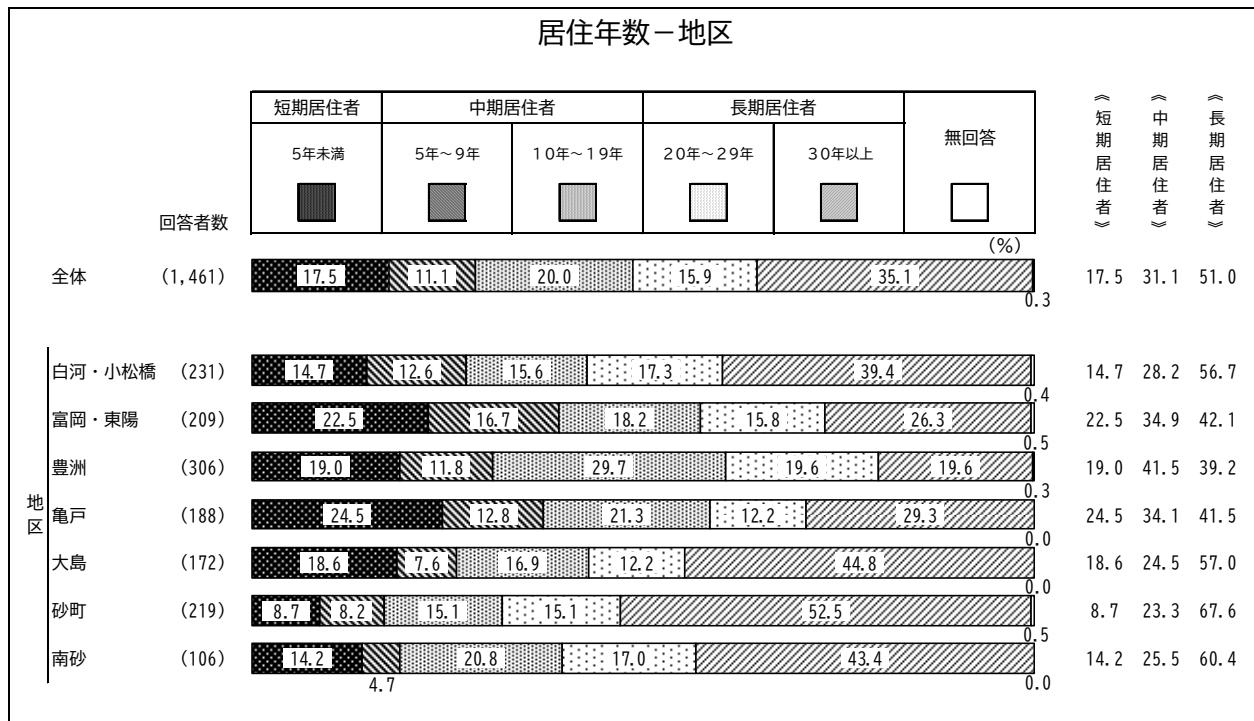
時系列の変化をみると、「短期居住者」、「中期居住者」は令和5年より減少し、「長期居住者」は令和5年より増加している。



第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

居住年数－地区

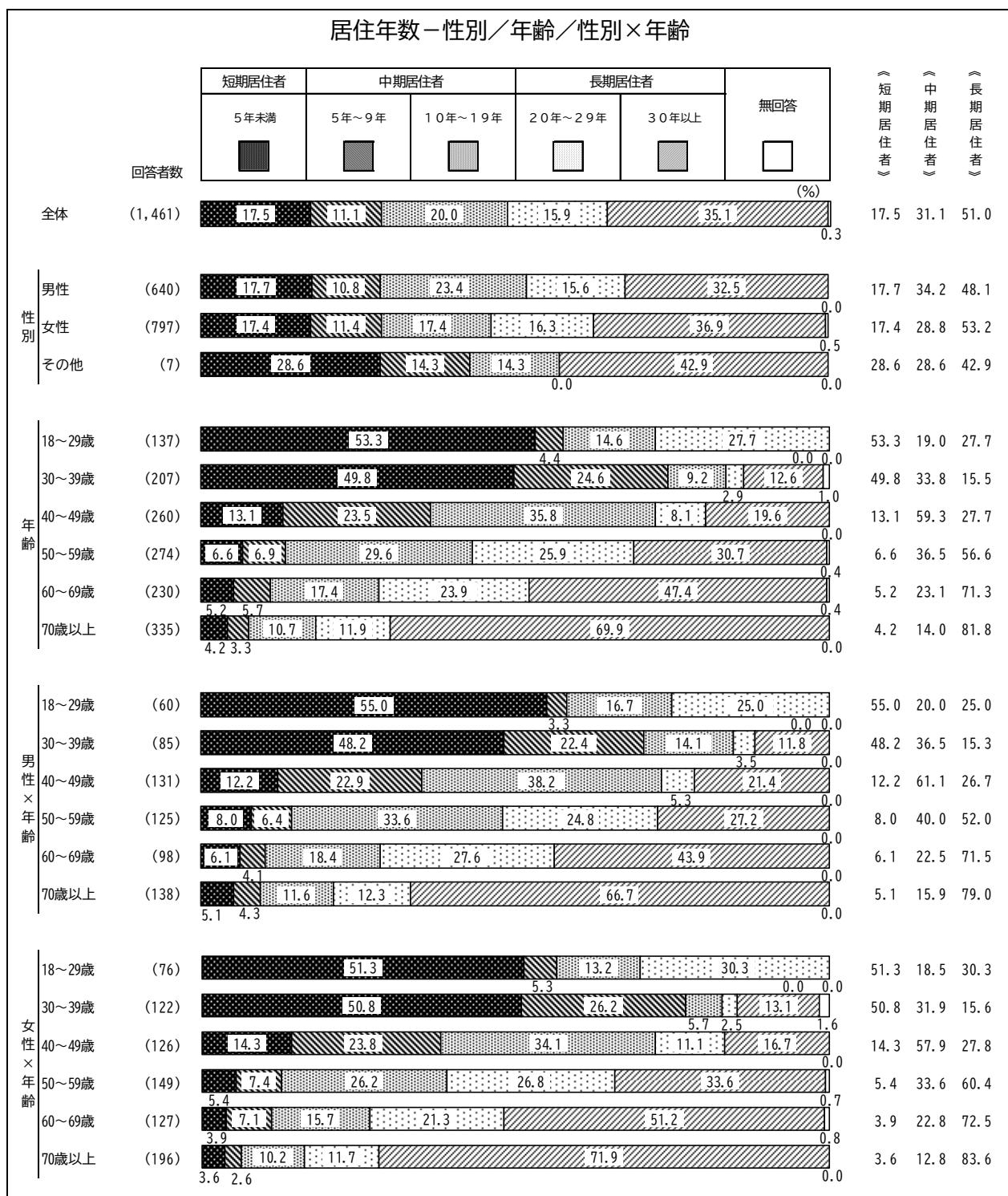
地区でみると、『長期居住者』は砂町地区で7割近くとなっている。『中期居住者』は豊洲地区で4割を超え、『短期居住者』は亀戸地区で2割台半ばとなっている。



居住年数－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、『長期居住者』は女性で5割を超え、男性で5割近くとなっている。

性別×年齢でみると、『短期居住者』は男性18～29歳で5割半ばとなっている。『中期居住者』は男性40～49歳で6割を超え、『長期居住者』は女性70歳以上で8割を超えていている。



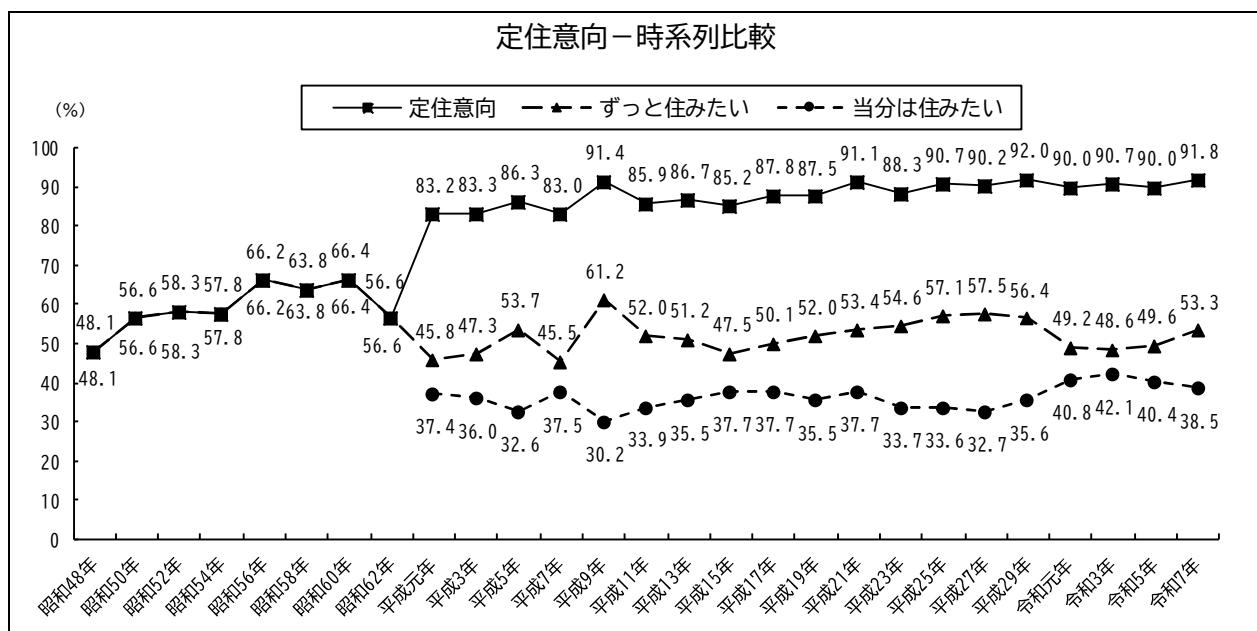
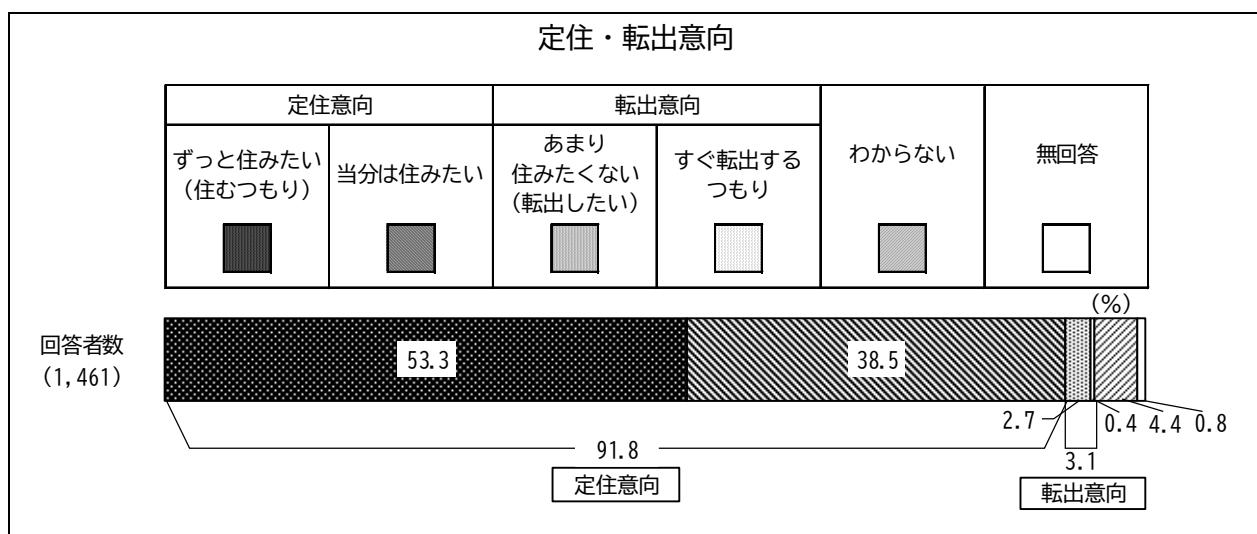
(2) 定住・転出意向

◇「定住意向」は9割を超える

問2	あなたは、これからも江東区に住みたいと思いますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,461)			
1 ずっと住みたい(住むつもり)	53.3%	4 すぐ転出するつもり	0.4%	
2 当分は住みたい	38.5%	5 わからない	4.4%	
3 あまり住みたくない(転出したい)	2.7%	無回答	0.8%	

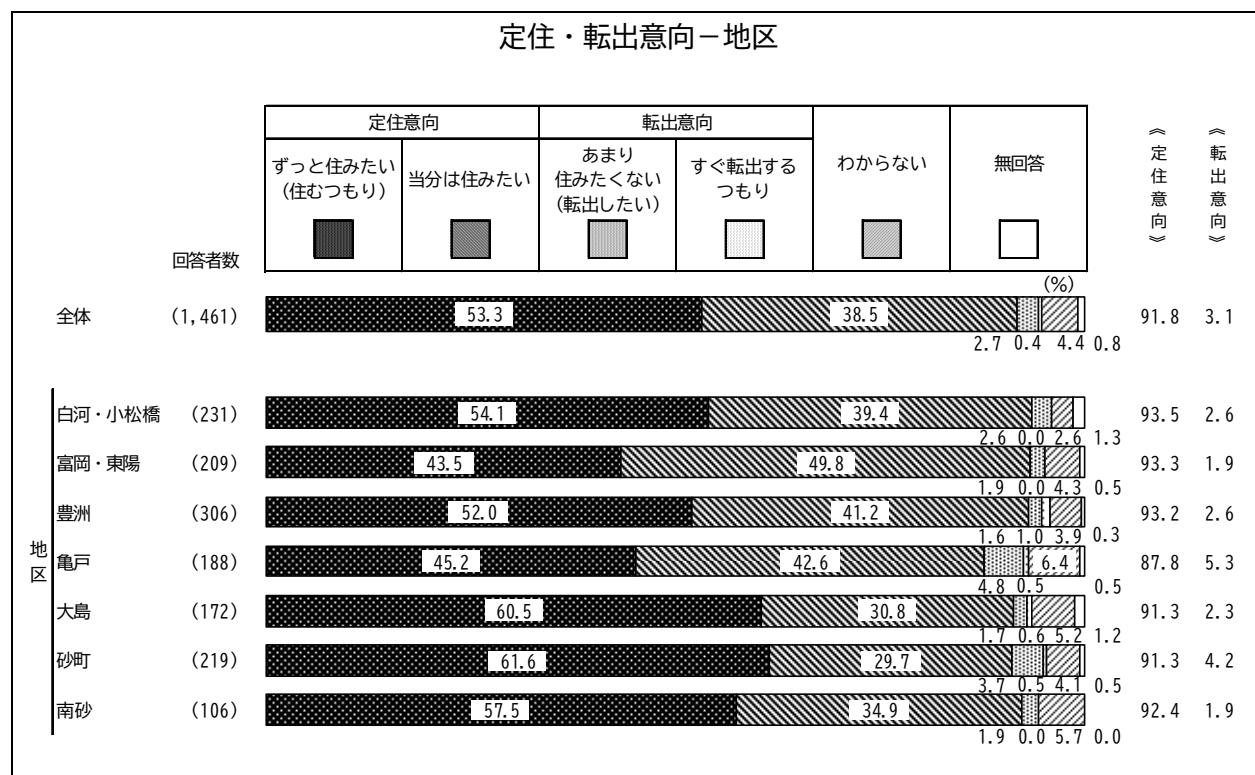
定住・転出意向については、「ずっと住みたい（住むつもり）」（53.3%）と「当分は住みたい」（38.5%）の2つを合わせた「定住意向」（91.8%）は9割を超えており、一方、「あまり住みたくない（転出したい）」（2.7%）、「すぐ転出するつもり」（0.4%）はわずかである。

時系列の変化をみると、「定住意向」は平成25年以降9割以上となっている。



定住・転出意向－地区

地区でみると、『定住意向』は亀戸地区が9割近く、その他の地区は9割台となっている。一方、『転出意向』は最も多い亀戸地区が1割未満、その他の地区はわずかとなっている。

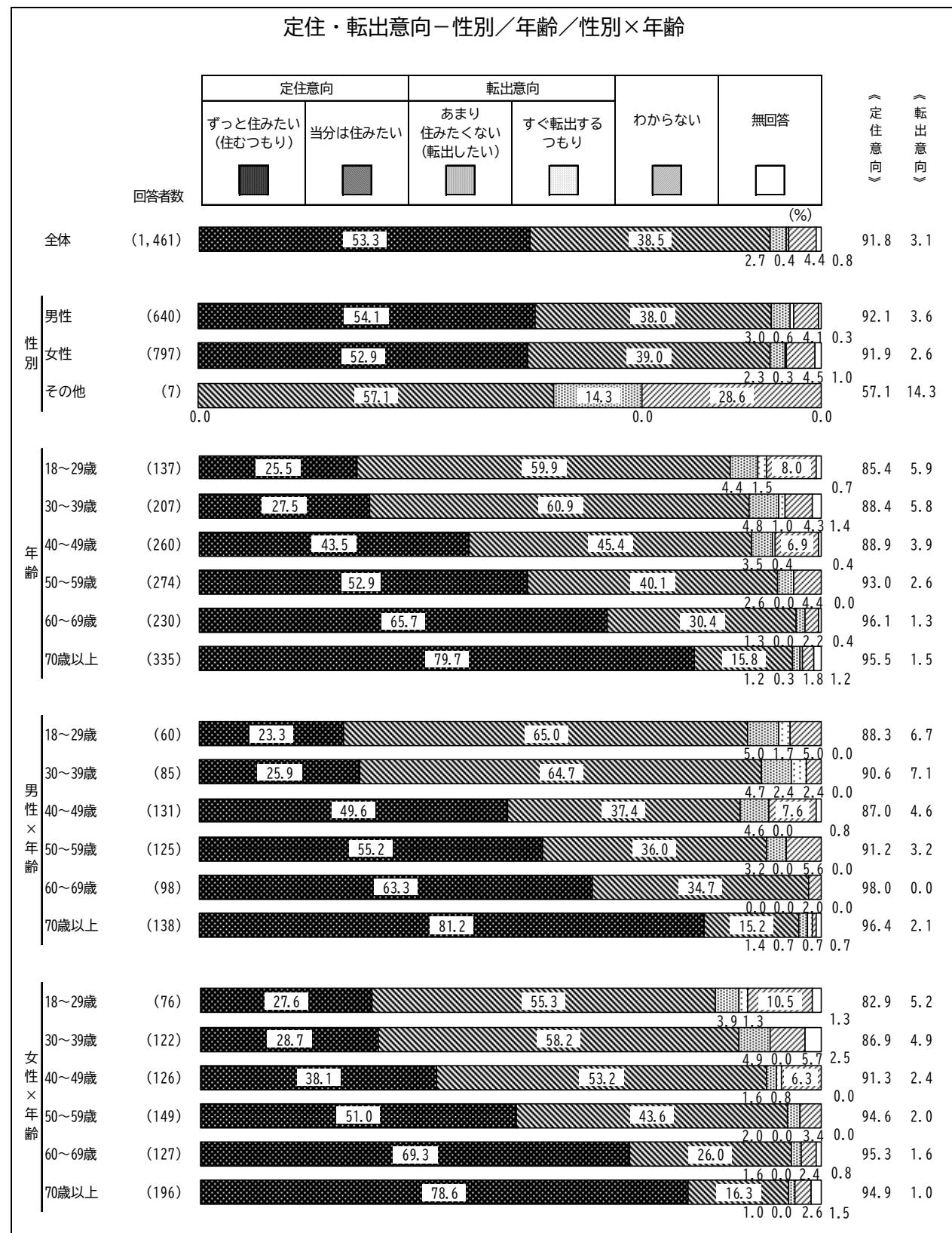


第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

定住・転出意向－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男性と女性で大きな差はみられない。

性別×年齢でみると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は男女ともおおむね高い年齢ほど割合が高く、男女とも70歳以上で8割前後となっている。

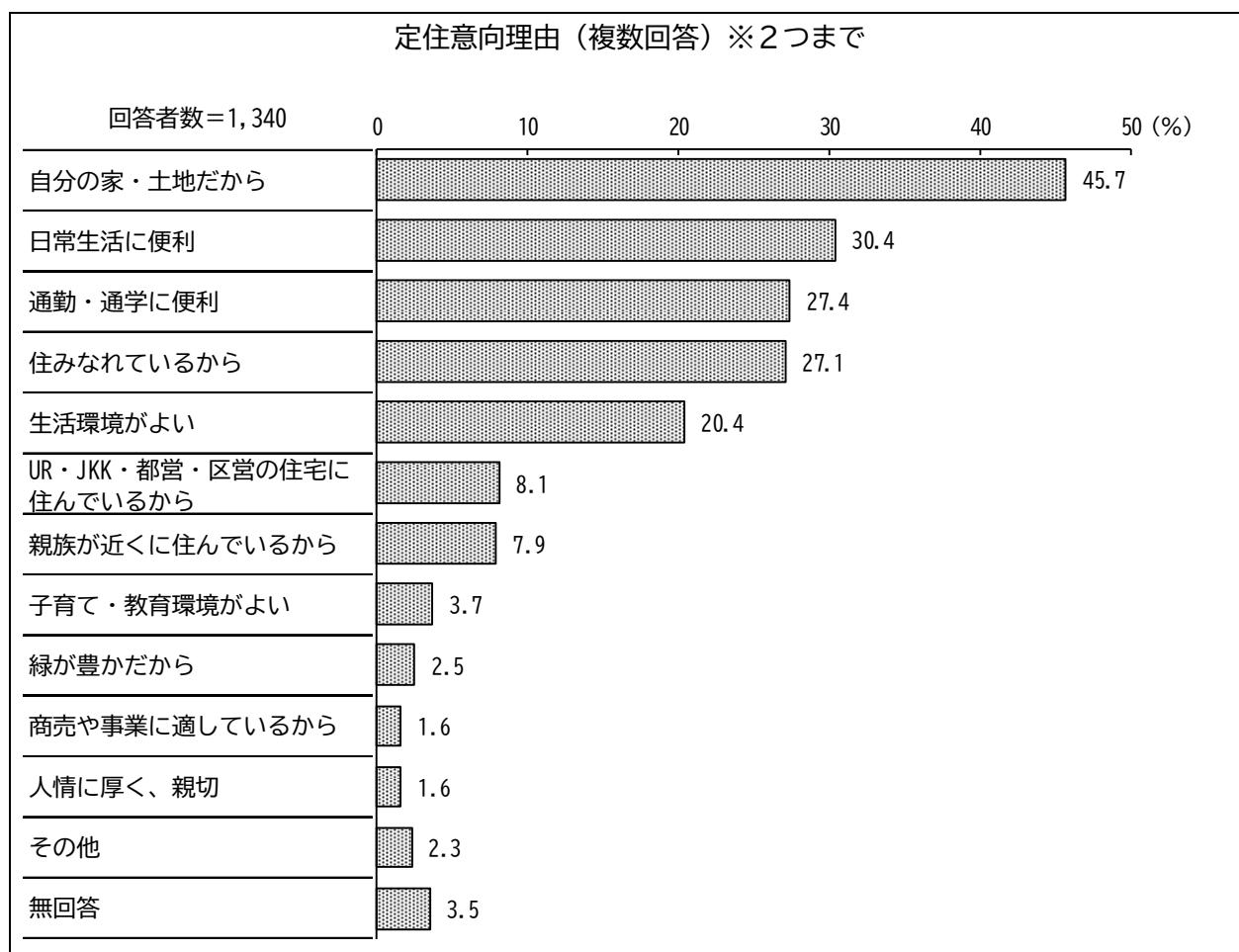


(3) 定住意向理由

◇「自分の家・土地だから」が4割台半ば

問2-1	(問2で、「1 ずっと住みたい（住むつもり）」か「2 当分は住みたい」とお答えの方に) あなたが、これからも江東区に住みたい理由は何ですか。次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。 (回答者数=1,340)			
	1 自己の家・土地だから	45.7%	8 住みなれているから	27.1%
	2 商売や事業に適しているから	1.6%	9 親族が近くに住んでいるから	7.9%
	3 通勤・通学に便利	27.4%	10 緑が豊かだから	2.5%
	4 生活環境がよい	20.4%	11 UR・JKK・都営・区営の住宅に 住んでいるから	8.1%
	5 子育て・教育環境がよい	3.7%	12 その他	2.3%
	6 日常生活に便利	30.4%	無回答	3.5%
	7 人情に厚く、親切	1.6%		

定住意向理由については、「自分の家・土地だから」(45.7%)が4割台半ばで最も多く、次いで「日常生活に便利」(30.4%)、「通勤・通学に便利」(27.4%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

定住意向理由－地区

地区でみると、「自分の家・土地だから」はすべての地区で上位2位以内に入っている。「日常生活に便利」は亀戸地区で4割近くとなっている。「通勤・通学に便利」は富岡・東陽地区で4割となっている。

定住意向理由－地区（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,340	自分の家・土地 だから 45.7	日常生活に便利 30.4	通勤・通学に便利 27.4	住みなれているから 27.1	生活環境がよい 20.4	
地区	白河・小松橋	216	自分の家・土地 だから 51.4	通勤・通学に便利 31.9	日常生活に便利 28.2	住みなれているから 25.5	生活環境がよい 20.8	
	富岡・東陽	195	通勤・通学に便利 40.0	自分の家・土地 だから 34.4	日常生活に便利 33.3	住みなれているから 25.6	生活環境がよい 14.4	
	豊洲	285	自分の家・土地 だから 44.2	日常生活に便利 32.3	生活環境がよい 31.6	通勤・通学に便利 26.3	住みなれているから 17.2	
	亀戸	165	自分の家・土地 だから 41.8	日常生活に便利 37.0	通勤・通学に便利 33.3	住みなれているから 29.1	生活環境がよい 20.6	
	大島	157	自分の家・土地 だから 47.8	日常生活に便利/住みなれているから 28.0	通勤・通学に便利 21.7	通勤・通学に便利 15.3	生活環境がよい 15.3	
	砂町	200	自分の家・土地 だから 49.5	住みなれているから 40.5	日常生活に便利 21.0	通勤・通学に便利 16.5	生活環境がよい 14.5	
	南砂	98	自分の家・土地 だから 59.2	日常生活に便利 34.7	住みなれているから 29.6	通勤・通学に便利 19.4	生活環境がよい 17.3	

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男性は「通勤・通学に便利」が3割、「日常生活に便利」が3割近く、女性は「日常生活に便利」が3割を超え、「住みなれているから」が3割近くとなっている。

性別×年齢でみると、「自分の家・土地だから」は男女ともおむね高い年齢ほど割合が高くなっている。「通勤・通学に便利」は男女とも39歳以下で第1位となっている。

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

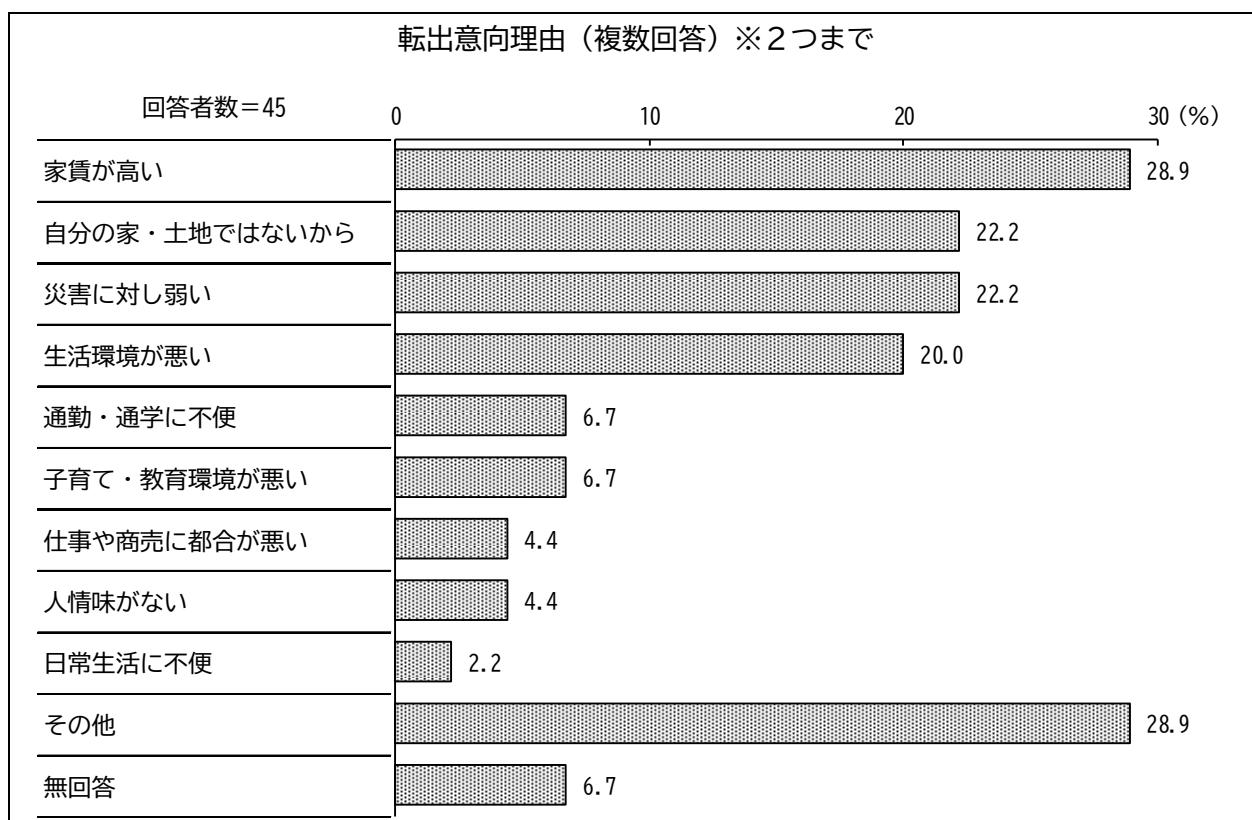
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,340	自分の家・土地だから 45.7	日常生活に便利 30.4	通勤・通学に便利 27.4	住みなれているから 27.1	生活環境がよい 20.4	
性別	男性	589	自分の家・土地だから 47.7	通勤・通学に便利 29.5	日常生活に便利 28.4	住みなれているから 26.0	生活環境がよい 21.2	
	女性	733	自分の家・土地だから 44.3	日常生活に便利 31.9	住みなれているから 28.1	通勤・通学に便利 26.1	生活環境がよい 19.8	
	その他	4	通勤・通学に便利/生活環境がよい 50.0		日常生活に便利/親族が近くに住んでいるから/UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 50.0			25.0
年齢	18～29歳	117	通勤・通学に便利 53.8	日常生活に便利 34.2	生活環境がよい 33.3	住みなれているから 21.4	自分の家・土地だから 14.5	
	30～39歳	183	通勤・通学に便利 49.7	生活環境がよい 32.8	自分の家・土地だから 32.2	日常生活に便利 29.0	住みなれているから 13.7	
	40～49歳	231	自分の家・土地だから 46.8	通勤・通学に便利 34.2	日常生活に便利 24.7	生活環境がよい 21.6	住みなれているから 21.2	
	50～59歳	255	自分の家・土地だから 49.8	通勤・通学に便利 32.2	住みなれているから 29.8	日常生活に便利 26.7	生活環境がよい 17.3	
	60～69歳	221	自分の家・土地だから 58.8	日常生活に便利 34.4	住みなれているから 30.8	生活環境がよい 15.8	通勤・通学に便利 14.5	
	70歳以上	320	自分の家・土地だから 51.9	住みなれているから 36.6	日常生活に便利 33.8	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 15.6	生活環境がよい 13.4	
男性×年齢	18～29歳	53	通勤・通学に便利 56.6	生活環境がよい 35.8	日常生活に便利 24.5	自分の家・土地だから/住みなれているから 17.0		
	30～39歳	77	通勤・通学に便利 53.2	生活環境がよい 32.5	日常生活に便利 31.2	自分の家・土地だから 28.6	住みなれているから 16.9	
	40～49歳	114	自分の家・土地だから 57.0	通勤・通学に便利 35.1	生活環境がよい/日常生活に便利 20.2		住みなれているから 15.8	
	50～59歳	114	自分の家・土地だから 50.9	通勤・通学に便利 31.6	日常生活に便利 29.8	住みなれているから 27.2	生活環境がよい 20.2	
	60～69歳	96	自分の家・土地だから 58.3	住みなれているから 33.3	日常生活に便利 30.2	通勤・通学に便利 19.8	生活環境がよい 14.6	
	70歳以上	133	自分の家・土地だから 52.6	住みなれているから 37.6	日常生活に便利 32.3	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 16.5	生活環境がよい 15.8	
女性×年齢	18～29歳	63	通勤・通学に便利 50.8	日常生活に便利 42.9	生活環境がよい 30.2	住みなれているから 25.4	自分の家・土地だから/親族が近くに住んでいるから 12.7	
	30～39歳	106	通勤・通学に便利 47.2	自分の家・土地だから 34.9	生活環境がよい 33.0	日常生活に便利 27.4	親族が近くに住んでいるから 13.2	
	40～49歳	115	自分の家・土地だから 37.4	通勤・通学に便利 33.0	日常生活に便利 29.6	住みなれているから 27.0	生活環境がよい 22.6	
	50～59歳	141	自分の家・土地だから 48.9	通勤・通学に便利 32.6	住みなれているから 31.9	日常生活に便利 24.1	生活環境がよい 14.9	
	60～69歳	121	自分の家・土地だから 60.3	日常生活に便利 37.2	住みなれているから 28.1	生活環境がよい 17.4	通勤・通学に便利/UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 10.7	
	70歳以上	186	自分の家・土地だから 51.1	住みなれているから 36.0	日常生活に便利 34.9	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 15.1	生活環境がよい 11.8	

(4) 転出意向理由

◇「家賃が高い」が3割近く

問2-2	(問2で、「3 あまり住みたくない（転出したい）」か「4 すぐ転出するつもり」とお答えの方に) あなたが、江東区に住みたくない理由は何ですか。 次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。(回答者数=45)				
1	自分の家・土地ではないから	22.2%	6	日常生活に不便	2.2%
2	仕事や商売に都合が悪い	4.4%	7	人情味がない	4.4%
3	通勤・通学に不便	6.7%	8	災害に対し弱い	22.2%
4	生活環境が悪い	20.0%	9	家賃が高い	28.9%
5	子育て・教育環境が悪い	6.7%	10	その他	28.9%
				無回答	6.7%

転出意向理由としては、「家賃が高い」(28.9%)が3割近くで最も多く、次いで「自分の家・土地ではないから」(22.2%)、「災害に対し弱い」(22.2%)、「生活環境が悪い」(20.0%)と続いている。



2 防 災 対 策

-
- (1) 震災時の不安
 - (2) 大地震の際の防災対策への要望
 - (3) 大規模水害時の避難場所
 - (4) 大規模水害の際の広域避難について
 - (5) 大規模水害の際の防災対策への要望
 - (6) 家庭内で準備している防災用品・用具
-

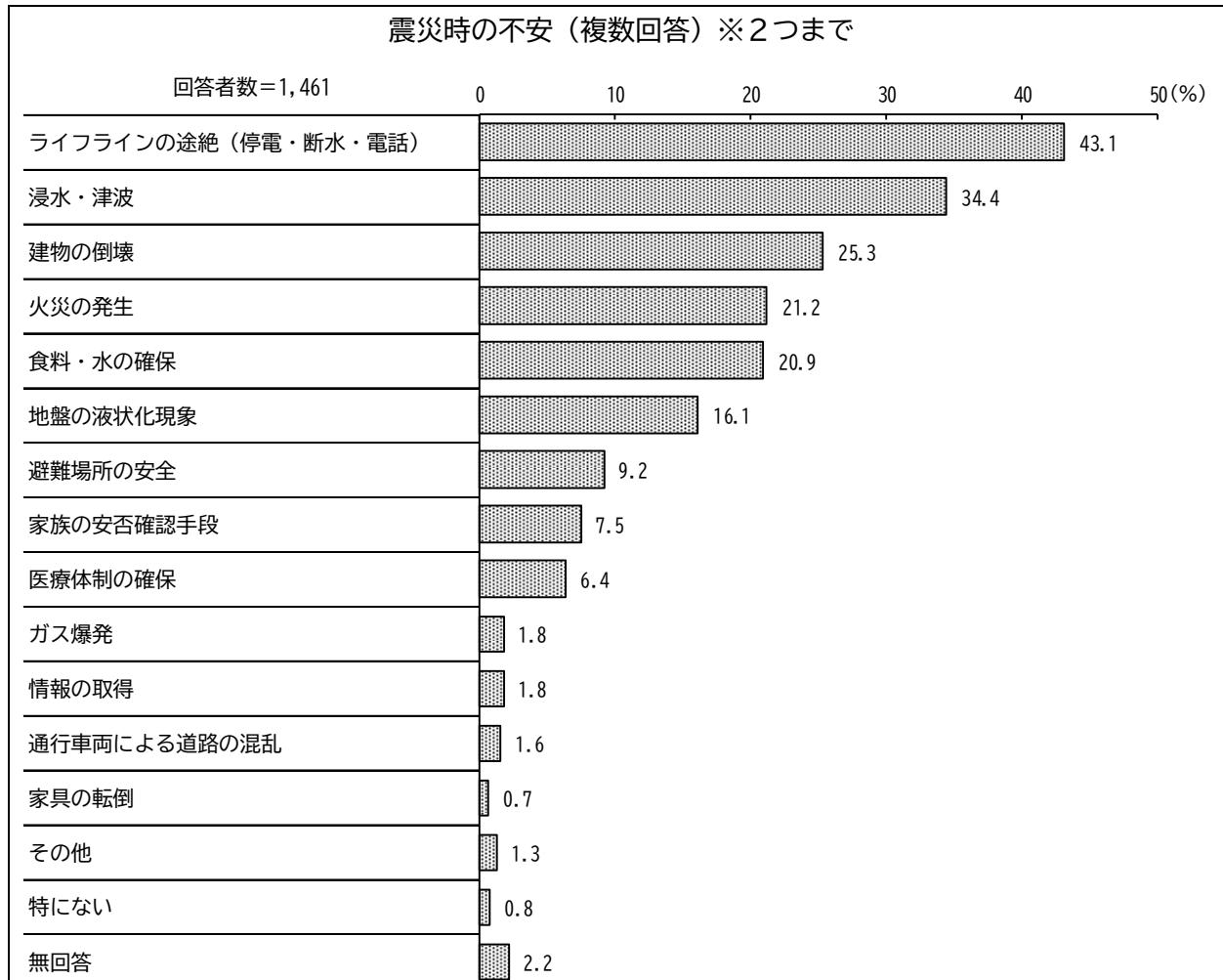
2 防災対策

(1) 震災時の不安

◇「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」が4割を超える

問3	今後、東京に大地震が発生した場合に、あなたが特に不安だと思うことは何ですか。 次の中から2つまで選んでください。（回答者数=1,461）			
1 火災の発生	21.2%	9 避難場所の安全	9.2%	
2 ガス爆発	1.8%	10 家族の安否確認手段	7.5%	
3 浸水・津波	34.4%	11 食料・水の確保	20.9%	
4 地盤の液状化現象	16.1%	12 医療体制の確保	6.4%	
5 建物の倒壊	25.3%	13 家具の転倒	0.7%	
6 通行車両による道路の混乱	1.6%	14 その他	1.3%	
7 ライフラインの途絶 (停電・断水・電話)	43.1%	15 特にない	0.8%	
8 情報の取得	1.8%	無回答	2.2%	

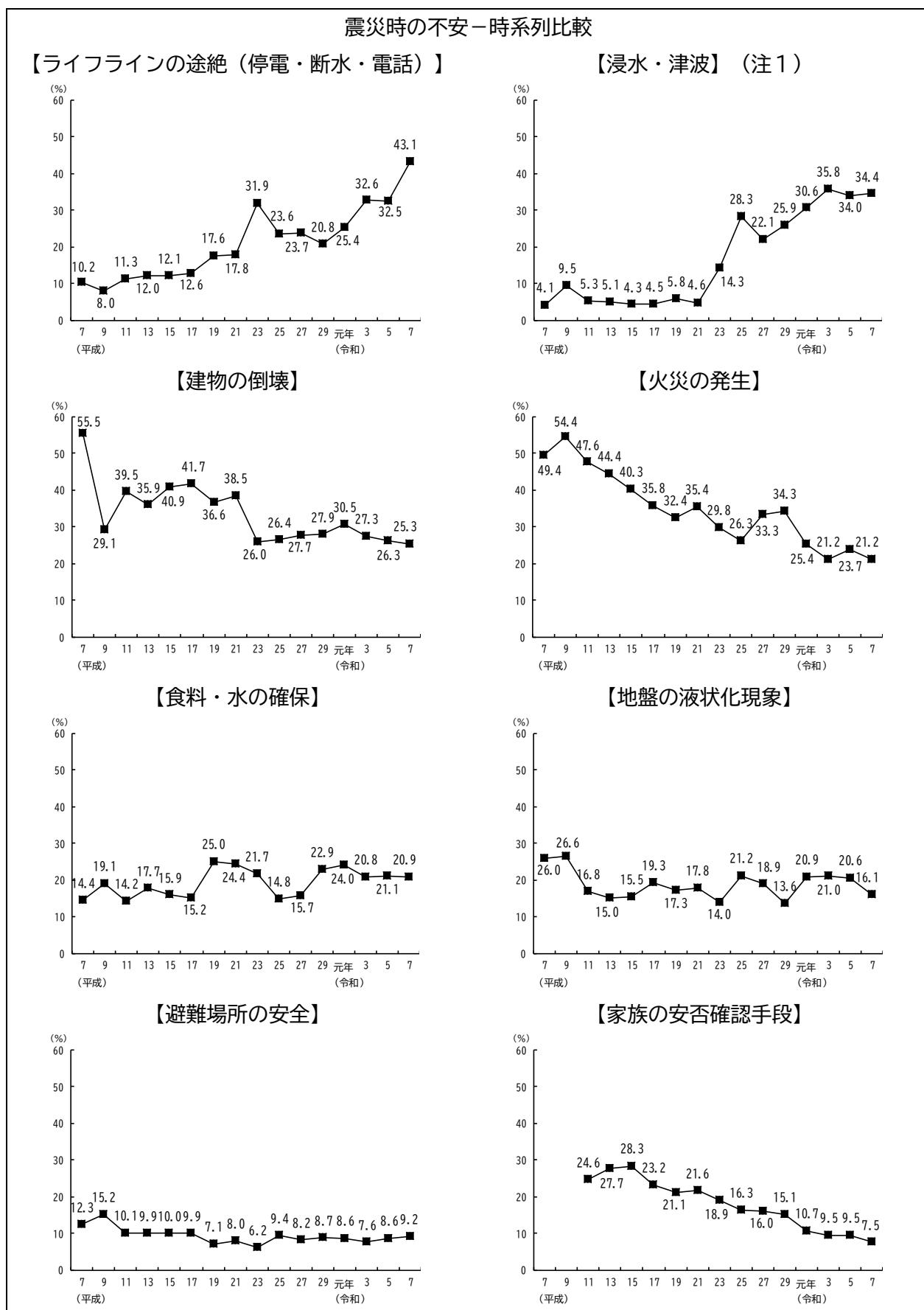
大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」（43.1%）が4割を超えて最も多く、次いで「浸水・津波」（34.4%）、「建物の倒壊」（25.3%）と続いている。



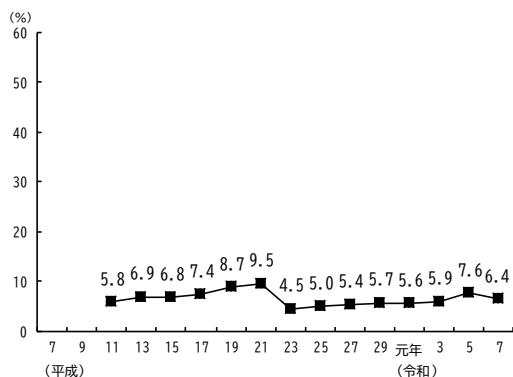
第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

震災時の不安－時系列比較

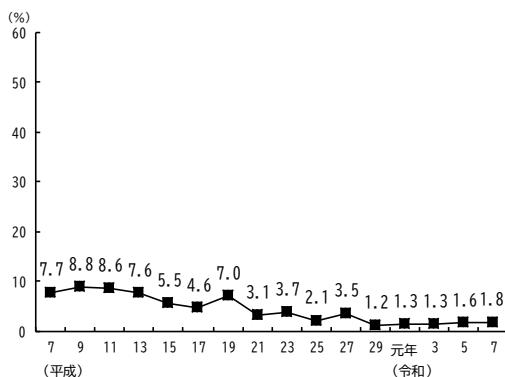
時系列の変化をみると、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」は前回調査より 10.6 ポイント高くなっている。



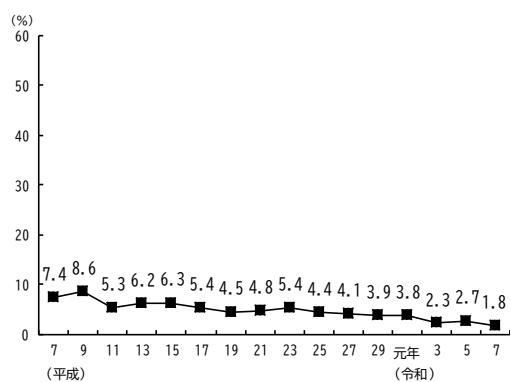
【医療体制の確保】



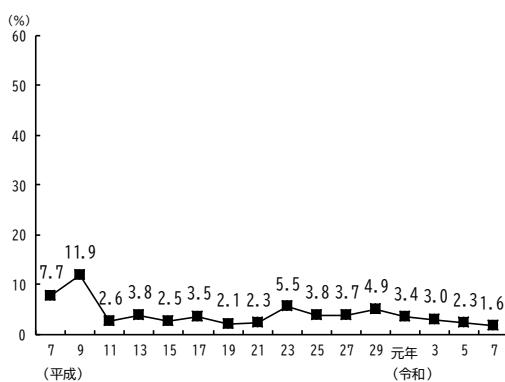
【ガス爆発】



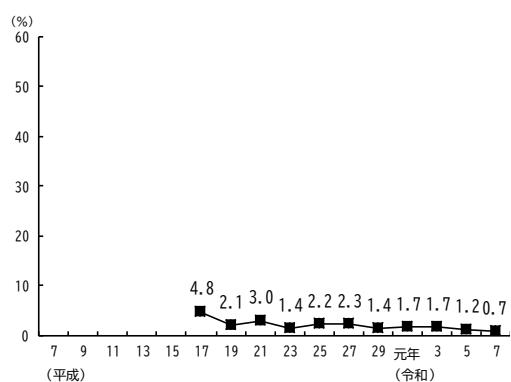
【情報の取得】（注2）



【通行車両による道路の混乱】



【家具の転倒】



(注1) 平成 21 年までは「浸水」

(注2) 平成 21 年までは「情報の提供」

第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

震災時の不安－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」は女性の方が男性より7.1ポイント高くなっている。また、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」は男女ともに第1位となっている。

性別×年齢でみると、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」は男性の60歳以上、女性の30歳以上で第1位、「浸水・津波」は男性の59歳以下、女性の18～29歳で第1位となっている。「建物の倒壊」は女性の70歳以上で3割台半ばとなっている。

震災時の不安－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,461	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 43.1	浸水・津波 34.4	建物の倒壊 25.3	火災の発生 21.2	食料・水の確保 20.9
性別	男性	640	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 39.2	浸水・津波 38.3	食料・水の確保 23.3	建物の倒壊 22.3	火災の発生 22.0
	女性	797	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 46.3	浸水・津波 31.6	建物の倒壊 27.5	火災の発生 20.7	食料・水の確保 19.2
	その他	7	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 57.1	浸水・津波/建物の倒壊 28.6		地盤の液状化現象/食料・水の確保 /医療体制の確保	14.3
年齢	18～29歳	137	浸水・津波 51.1	建物の倒壊 27.7	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 24.1	地盤の液状化現象 23.4	食料・水の確保 22.6
	30～39歳	207	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 44.9	浸水・津波 37.2	食料・水の確保 28.0	地盤の液状化現象 22.7	建物の倒壊 19.8
	40～49歳	260	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 41.2	浸水・津波 37.7	建物の倒壊 22.7	食料・水の確保 22.3	火災の発生 20.8
	50～59歳	274	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 49.6	浸水・津波 36.9	建物の倒壊 24.1	食料・水の確保 23.0	火災の発生 20.8
	60～69歳	230	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 51.7	浸水・津波 34.8	建物の倒壊 25.7	火災の発生 24.3	食料・水の確保 14.8
	70歳以上	335	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 41.2	建物の倒壊 30.7	火災の発生 26.6	浸水・津波 22.4	食料・水の確保 17.3
	18～29歳	60	浸水・津波 60.0	地盤の液状化現象 28.3	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 23.3	建物の倒壊/食料・水の確保	21.7
男性×年齢	30～39歳	85	浸水・津波 42.4	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 40.0	食料・水の確保 30.6	地盤の液状化現象 23.5	建物の倒壊 20.0
	40～49歳	131	浸水・津波 38.9	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 36.6	建物の倒壊 26.0	食料・水の確保 22.1	地盤の液状化現象 21.4
	50～59歳	125	浸水・津波 44.8	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 44.0	食料・水の確保 23.2	火災の発生 22.4	建物の倒壊 16.8
	60～69歳	98	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 52.0	浸水・津波 32.7	火災の発生/建物の倒壊 23.5		食料・水の確保 20.4
	70歳以上	138	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 35.5	火災の発生 30.4	浸水・津波/建物の倒壊 24.6		食料・水の確保 22.5
	18～29歳	76	浸水・津波 44.7	建物の倒壊 31.6	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) /食料・水の確保 23.7	地盤の液状化現象	19.7
女性×年齢	30～39歳	122	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 48.4	浸水・津波 33.6	食料・水の確保 26.2	地盤の液状化現象 22.1	建物の倒壊 19.7
	40～49歳	126	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 44.4	浸水・津波 36.5	食料・水の確保 22.2	火災の発生 21.4	建物の倒壊 19.8
	50～59歳	149	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 54.4	浸水・津波/建物の倒壊 30.2	食料・水の確保 22.8	火災の発生 19.5	
	60～69歳	127	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 52.8	浸水・津波 35.4	建物の倒壊 26.0	火災の発生 25.2	医療体制の確保 13.4
	70歳以上	196	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 44.9	建物の倒壊 34.7	火災の発生 24.0	浸水・津波 20.9	食料・水の確保 13.8

震災時の不安－住居形態

住居形態でみると、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」は持ち家集合住宅、賃貸集合住宅（民間）、賃貸集合住宅（都営等）で第1位となっている。「浸水・津波」は持ち家一戸建（自己所有地）、寮・社宅で第1位、「火災の発生」は持ち家一戸建て（借地）、賃貸一戸建てで第1位となっている。

震災時の不安－住居形態（上位5項目）

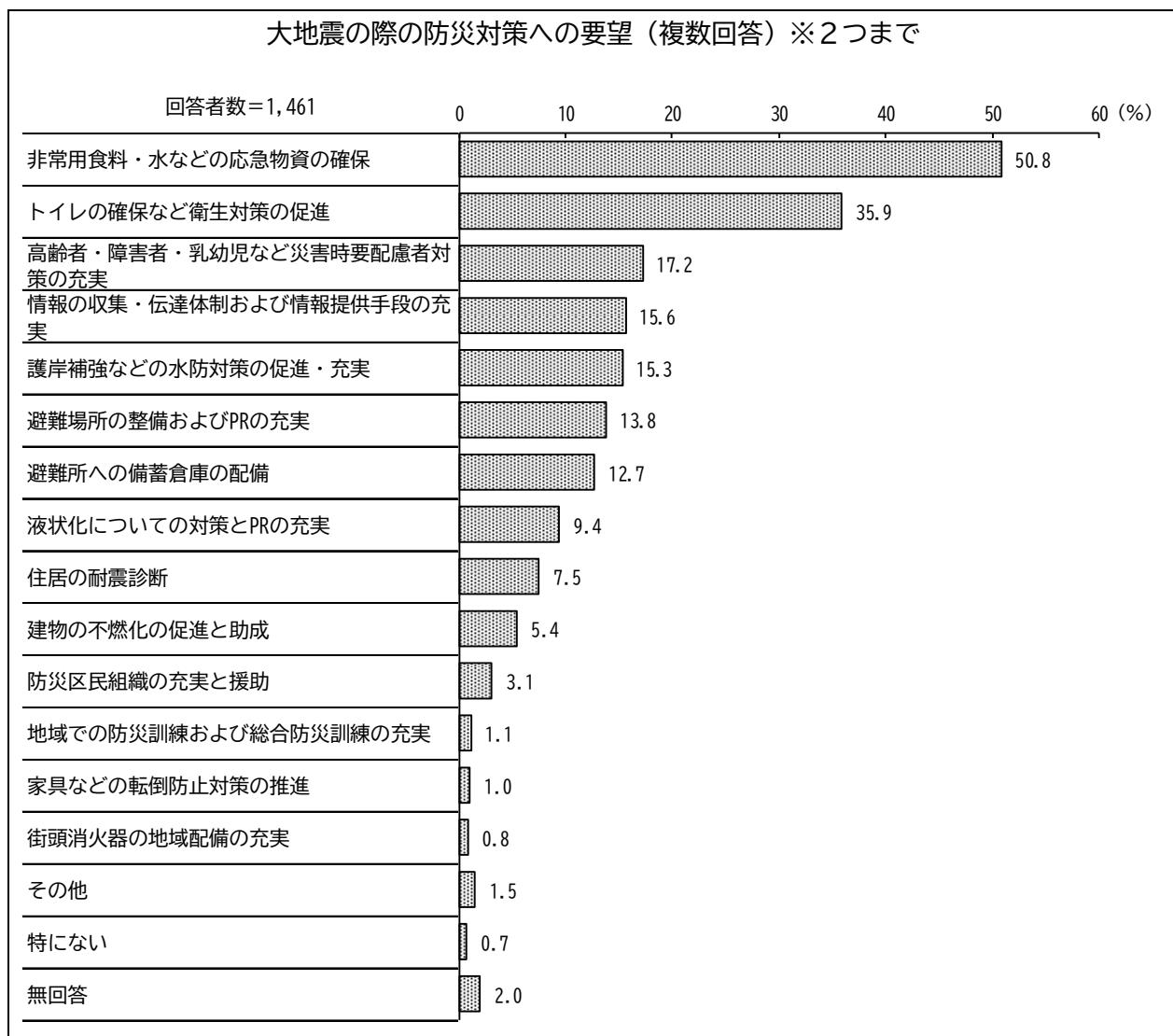
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,461	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 43.1	浸水・津波 34.4	建物の倒壊 25.3	火災の発生 21.2	食料・水の確保 20.9	
住居形態	一戸建て	187	浸水・津波 47.6	火災の発生 33.7	建物の倒壊 27.3	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 25.1	食料・水の確保 15.5	
	借地	32	火災の発生 43.8	浸水・津波 31.3	避難場所の安全 25.0	建物の倒壊 21.9	医療体制の確保 15.6	
	集合住宅	619	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 50.9	浸水・津波 32.6	建物の倒壊 25.4	食料・水の確保 20.7	火災の発生 19.1	
	一戸建て	17	火災の発生 41.2	浸水・津波/ライフラインの途絶（停電 ・断水・電話） 35.3	建物の倒壊 23.5	建物の倒壊 23.5	避難場所の安全 17.6	
	賃貸集合住宅	325	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 41.5	浸水・津波 39.1	食料・水の確保 24.9	建物の倒壊 22.8	火災の発生/地盤の 液状化現象 17.8	
	都営等	205	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 47.3	建物の倒壊 25.9	食料・水の確保 23.4	浸水・津波 22.0	火災の発生 17.6	
寮・社宅		33	浸水・津波 51.5	建物の倒壊 42.4	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 30.3	地盤の液状化現象/食料・水の確保 33.3		18.2
間借り・住み込み		3	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 66.7	地盤の液状化現象/食料・水の確保/医療体制の確保				
その他		7	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 42.9	浸水・津波/建物の倒壊/医療体制の確保			地盤の液状化現象/通行車 両による道路の混乱/家族 の安否確認手段 28.6	14.3

(2) 大地震の際の防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」がほぼ5割

問4	あなたが、 <u>大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことは何ですか。</u> 次のの中から <u>2つまで選んでください。</u> (回答者数=1,461)	
1	非常用食料・水などの応急物資の確保	50.8%
2	住居の耐震診断	7.5%
3	家具などの転倒防止対策の推進	1.0%
4	避難所への備蓄倉庫の配備	12.7%
5	防災区民組織の充実と援助	3.1%
6	情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実	15.6%
7	建物の不燃化の促進と助成	5.4%
8	地域での防災訓練および総合防災訓練の充実	1.1%
9	街頭消火器の地域配備の充実	0.8%
10	液状化についての対策とPRの充実	9.4%
11	護岸補強などの水防対策の促進・充実	15.3%
12	避難場所の整備およびPRの充実	13.8%
13	高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実	17.2%
14	トイレの確保など衛生対策の促進	35.9%
15	その他	1.5%
16	特にない	0.7%
	無回答	2.0%

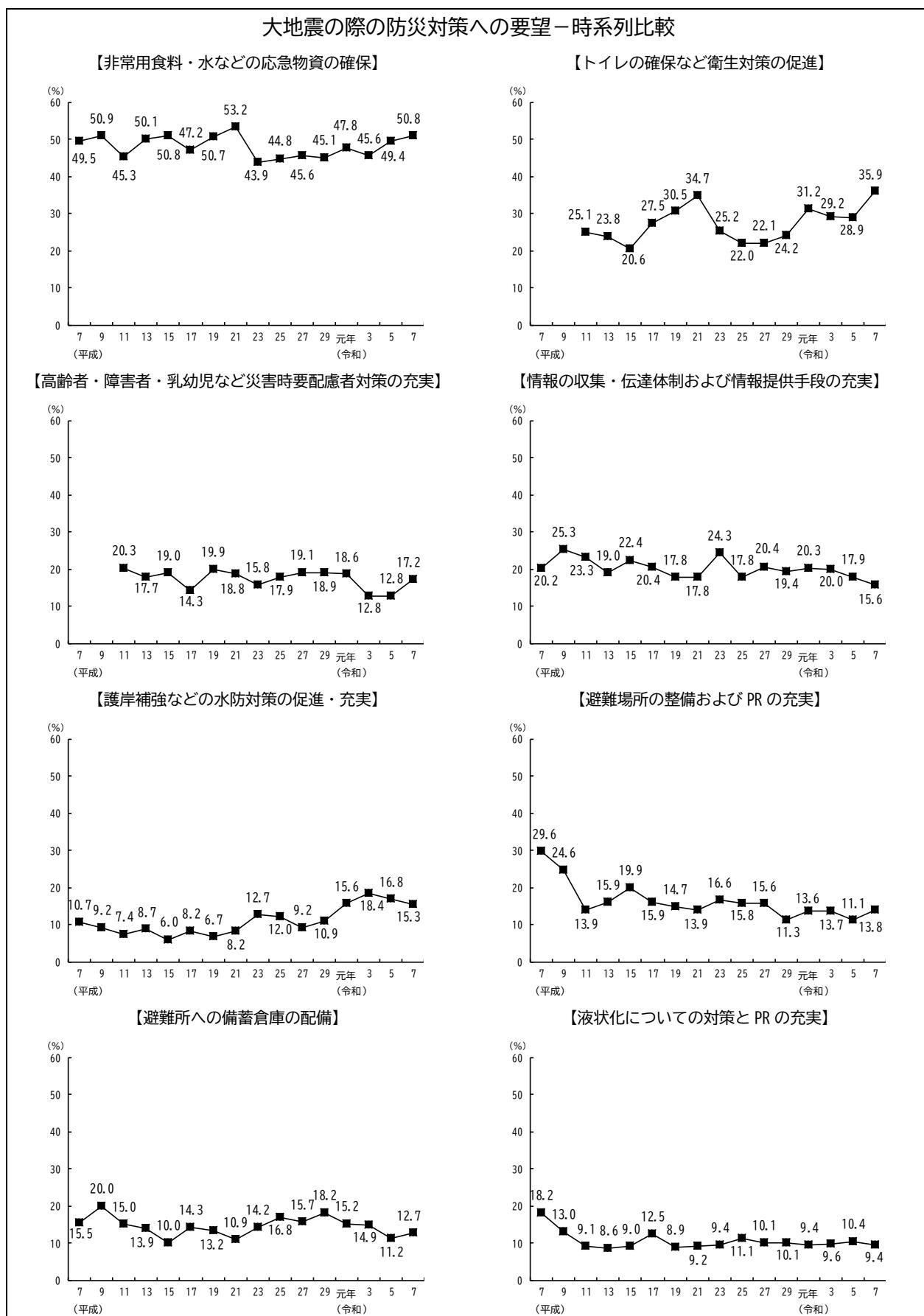
大地震の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(50.8%)がほぼ5割で最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(35.9%)、「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」(17.2%)と続いている。



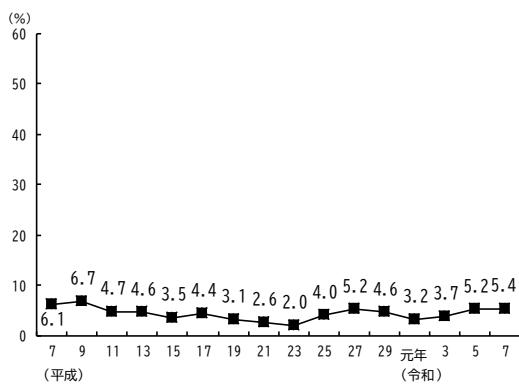
第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大地震の際の防災対策への要望－時系列比較

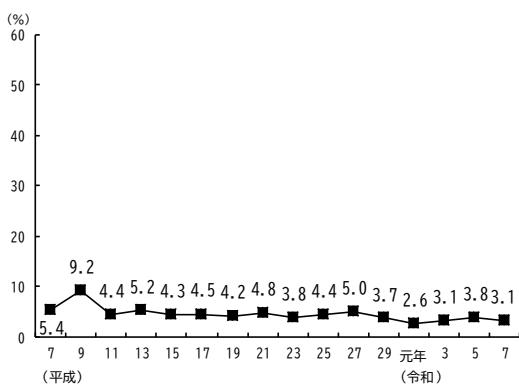
時系列の変化をみると、「トイレの確保など衛生対策の促進」は前回調査より 7.0 ポイント高くなっている。一方で「住居の耐震診断」は前回調査より 5.9 ポイント低くなっている。



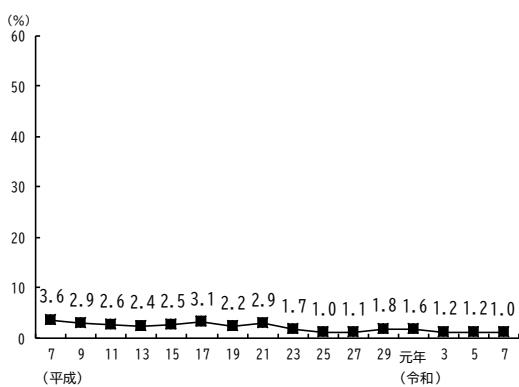
【建物の不燃化の促進と助成】



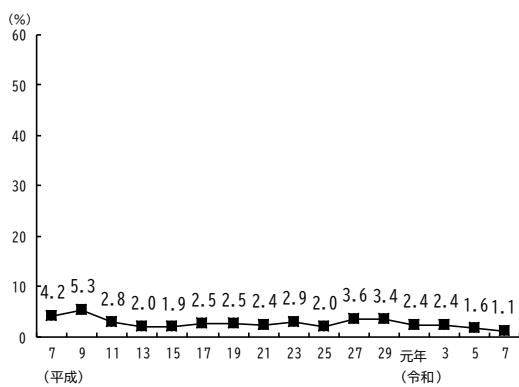
【防災区民組織の充実と援助】



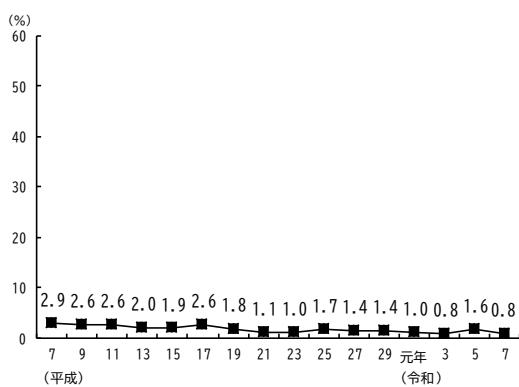
【家具などの転倒防止対策の推進】



【地域での防災訓練および総合防災訓練の充実】



【街頭消火器の地域配備の充実】



(注) 令和元年までは「居住の耐震診断」、令和3～5年度は「建物の耐震化の促進」

第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大地震の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、第1位の「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性の方が女性より1.4ポイント高く、第2位の「トイレの確保など衛生対策の促進」は女性の方が男性より9.6ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、女性の50～59歳、70歳以上を除くすべての性別×年齢で「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割以上で第1位となっている。女性の50～59歳、70歳以上は「トイレの確保など衛生対策の促進」が第1位となっている。

大地震の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,461	応急物資の確保 50.8	衛生対策の促進 35.9	要配慮者対策の充実 17.2	情報の収集等の充実 15.6	水防対策の促進・充実 15.3
性別	男性	640	応急物資の確保 51.6	衛生対策の促進 30.8	水防対策の促進・充実 17.0	情報の収集等の充実 15.3	要配慮者対策の充実 15.2
	女性	797	応急物資の確保 50.2	衛生対策の促進 40.4	要配慮者対策の充実 18.6	情報の収集等の充実 15.7	水防対策の促進・充実 14.3
	その他	7	応急物資の確保/衛生対策の促進	建物の不燃化の促進と助成/要配慮者対策の充実 42.9		備蓄倉庫の配備/情報の収集等の充実/避難場所の整備・PR 28.6	14.3
年齢	18～29歳	137	応急物資の確保 52.6	備蓄倉庫の配備/衛生対策の促進 21.9	水防対策の促進・充実 20.4	液状化対策とPRの充実 16.1	
	30～39歳	207	応急物資の確保 53.6	衛生対策の促進 32.4	水防対策の促進・充実 19.8	備蓄倉庫の配備 17.4	要配慮者対策の充実 13.5
	40～49歳	260	応急物資の確保 53.8	衛生対策の促進 32.3	情報の収集等の充実 15.0	備蓄倉庫の配備 14.6	水防対策の促進・充実 13.1
	50～59歳	274	応急物資の確保 52.9	衛生対策の促進 42.3	情報の収集等の充実 19.3	水防対策の促進・充実 17.2	避難場所の整備・PR 15.0
	60～69歳	230	応急物資の確保 54.8	衛生対策の促進 40.0	情報の収集等の充実 19.6	要配慮者対策の充実 18.7	避難場所の整備・PR 16.5
	70歳以上	335	応急物資の確保 41.5	衛生対策の促進 38.8	要配慮者対策の充実 34.0	情報の収集等の充実 14.9	避難場所の整備・PR 13.4
性別×年齢	18～29歳	60	応急物資の確保 43.3	水防対策の促進・充実 31.7	備蓄倉庫の配備 26.7	液状化対策とPRの充実 20.0	衛生対策の促進 16.7
	30～39歳	85	応急物資の確保 48.2	衛生対策の促進 27.1	水防対策の促進・充実 23.5	備蓄倉庫の配備 21.2	情報の収集等の充実 14.1
	40～49歳	131	応急物資の確保 53.4	衛生対策の促進 26.7	住居の耐震診断/備蓄倉庫の配備/建物の不燃化の促進と助成/液状化対策とPRの充実 19.2		14.5
	50～59歳	125	応急物資の確保 60.8	衛生対策の促進 32.8	情報の収集等の充実 19.2	水防対策の促進・充実 17.6	避難場所の整備・PR 14.4
	60～69歳	98	応急物資の確保 56.1	衛生対策の促進 35.7	避難場所の整備・PR 20.4	情報の収集等の充実 17.3	要配慮者対策の充実 16.3
	70歳以上	138	応急物資の確保 43.5	衛生対策の促進 36.2	要配慮者対策の充実 29.7	情報の収集等の充実 15.9	水防対策の促進・充実 15.2
性別×年齢	18～29歳	76	応急物資の確保 60.5	衛生対策の促進 26.3	備蓄倉庫の配備 18.4	避難場所の整備・PR 15.8	液状化対策とPRの充実 13.2
	30～39歳	122	応急物資の確保 57.4	衛生対策の促進 36.1	水防対策の促進・充実 17.2	備蓄倉庫の配備 14.8	要配慮者対策の充実 13.9
	40～49歳	126	応急物資の確保 55.6	衛生対策の促進 37.3	情報の収集等の充実 19.0	備蓄倉庫の配備/水防対策の促進・充実/避難場所の整備・PR 16.8	14.3
	50～59歳	149	衛生対策の促進 50.3	応急物資の確保 46.3	情報の収集等の充実 19.5	水防対策の促進・充実 16.8	避難場所の整備・PR 15.4
	60～69歳	127	応急物資の確保 52.0	衛生対策の促進 44.1	要配慮者対策の充実 21.3	情報の収集等の充実 20.5	水防対策の促進・充実 17.3
	70歳以上	196	衛生対策の促進 40.8	応急物資の確保 39.8	要配慮者対策の充実 36.7	避難場所の整備・PR 14.8	情報の収集等の充実 14.3

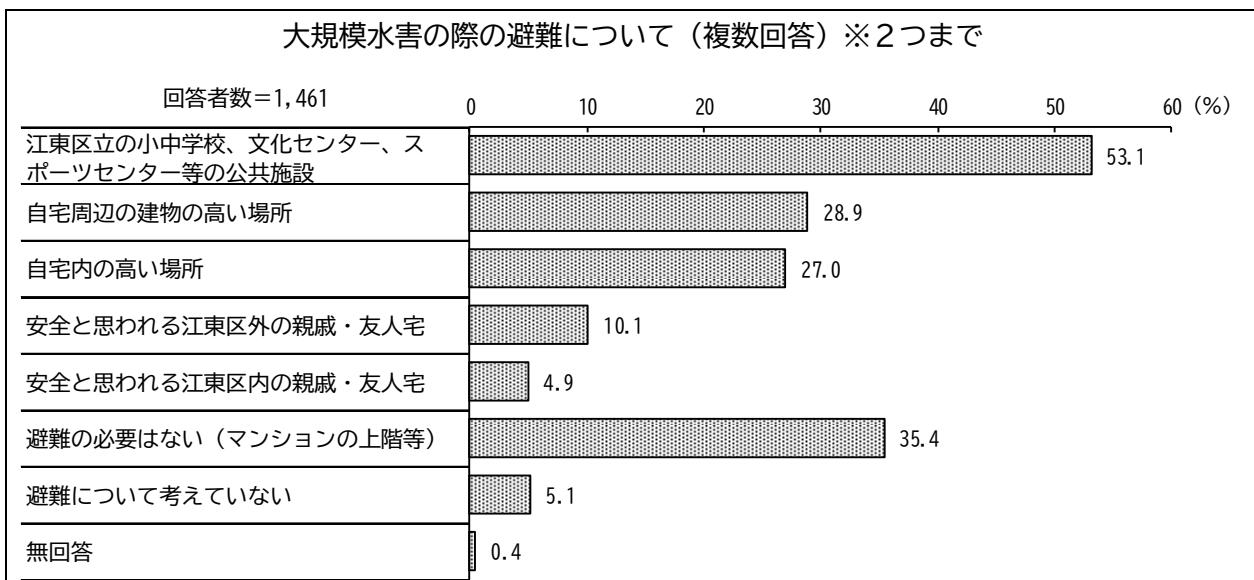
(3) 大規模水害の際の避難について

新規

◇「江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設」が5割を超える

問5	あなたは洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の危険性が高まったとき、あなたはどのような避難を考えていますか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,461)
1	江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設 53.1%
2	安全と思われる江東区内の親戚・友人宅 4.9%
3	安全と思われる江東区外の親戚・友人宅 10.1%
4	自宅内の高い場所 27.0%
5	自宅周辺の建物の高い場所 28.9%
6	避難の必要はない(マンションの上階等) 35.4%
7	避難について考えていない 5.1%
	無回答 0.4%

洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の危険性が高まったときの避難について聞いたところ、「江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設」(53.1%)が5割を超えて最も多く、次いで「自宅周辺の建物の高い場所」(28.9%)、「自宅内の高い場所」(27.0%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大規模水害の際の避難について－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、第1位の「江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設」は男性の方が女性より0.7ポイント高くなっている。また「避難の必要はない（マンションの上階等）」は男性の方が女性より3.9ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、すべての性別×年齢で「江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設」が4割以上で第1位となっている。

大規模水害の際の避難について－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		(%)							
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	避難の必要はない	避難について 考えていない
全体		1,461	江東区立の公共施設 53.1	自宅周辺の建物の 高い場所 28.9	自宅内の高い場所 27.0	江東区外の親戚・ 友人宅 10.1	江東区内の親戚・ 友人宅 4.9	35.4	5.1
性別	男性	640	江東区立の公共施設 53.4	自宅周辺の建物の 高い場所 29.7	自宅内の高い場所 26.4	江東区外の親戚・ 友人宅 10.8	江東区内の親戚・ 友人宅 4.5	37.8	4.4
	女性	797	江東区立の公共施設 52.7	自宅周辺の建物の 高い場所 28.1	自宅内の高い場所 27.2	江東区外の親戚・ 友人宅 9.8	江東区内の親戚・ 友人宅 5.3	33.9	5.5
	その他	7	江東区立の公共施設	自宅内の高い場所 42.9	自宅周辺の建物の 高い場所 28.6	自宅周辺の建物の 高い場所 14.3		28.6	28.6
年齢	18～29歳	137	江東区立の公共施設 71.5	自宅周辺の建物の 高い場所 28.5	自宅内の高い場所 25.5	江東区外の親戚・ 友人宅 12.4	江東区内の親戚・ 友人宅 3.6	14.6	4.4
	30～39歳	207	江東区立の公共施設 49.8	自宅内の高い場所 24.6	自宅周辺の建物の 高い場所 23.2	江東区外の親戚・ 友人宅 16.4	江東区内の親戚・ 友人宅 4.3	40.6	3.9
	40～49歳	260	江東区立の公共施設 50.4	自宅内の高い場所 29.6	自宅周辺の建物の 高い場所 22.7	江東区外の親戚・ 友人宅 14.2	江東区内の親戚・ 友人宅 6.9	35.8	3.8
	50～59歳	274	江東区立の公共施設 48.5	自宅周辺の建物の 高い場所 32.1	自宅内の高い場所 27.0	江東区外の親戚・ 友人宅 9.9	江東区内の親戚・ 友人宅 5.8	36.5	3.3
	60～69歳	230	江東区立の公共施設 50.4	自宅周辺の建物の 高い場所 33.0	自宅内の高い場所 27.0	江東区外の親戚・ 友人宅 8.3	江東区内の親戚・ 友人宅 3.5	38.3	5.7
	70歳以上	335	江東区立の公共施設 55.5	自宅周辺の建物の 高い場所 31.6	自宅内の高い場所 26.9	江東区外の親戚・ 友人宅 4.5	江東区内の親戚・ 友人宅 3.9	37.9	8.1
	18～29歳	60	江東区立の公共施設 71.7	自宅内の高い場所 30.0	自宅周辺の建物の 高い場所 28.3	江東区外の親戚・ 友人宅 15.0	江東区内の親戚・ 友人宅 5.0	15.0	1.7
性別 × 年齢	30～39歳	85	江東区立の公共施設 47.1	自宅周辺の建物の 高い場所 28.2	自宅内の高い場所 23.5	江東区外の親戚・ 友人宅 16.5	江東区内の親戚・ 友人宅 4.7	40.0	4.7
	40～49歳	131	江東区立の公共施設 51.1	自宅内の高い場所 22.9	自宅周辺の建物の 高い場所 22.1	江東区外の親戚・ 友人宅 13.0	江東区内の親戚・ 友人宅 6.1	40.5	4.6
	50～59歳	125	江東区立の公共施設 56.8	自宅周辺の建物の 高い場所 37.6	自宅内の高い場所 27.2	江東区外の親戚・ 友人宅 10.4	江東区内の親戚・ 友人宅 7.2	34.4	1.6
	60～69歳	98	江東区立の公共施設 49.0	自宅周辺の建物の 高い場所 29.6	自宅内の高い場所 27.6	江東区外の親戚・ 友人宅 9.2	江東区内の親戚・ 友人宅 1.0	46.9	5.1
	70歳以上	138	江東区立の公共施設 51.4	自宅周辺の建物の 高い場所 31.9	自宅内の高い場所 29.0	江東区外の親戚・ 友人宅 5.1	江東区内の親戚・ 友人宅 2.9	39.9	7.2
	18～29歳	76	江東区立の公共施設 71.1	自宅周辺の建物の 高い場所 28.9	自宅内の高い場所 22.4	江東区外の親戚・ 友人宅 10.5	江東区内の親戚・ 友人宅 2.6	13.2	6.6
女性 × 年齢	30～39歳	122	江東区立の公共施設 51.6	自宅内の高い場所 25.4	自宅周辺の建物の 高い場所 19.7	江東区外の親戚・ 友人宅 16.4	江東区内の親戚・ 友人宅 4.1	41.0	3.3
	40～49歳	126	江東区立の公共施設 50.0	自宅内の高い場所 36.5	自宅周辺の建物の 高い場所 23.0	江東区外の親戚・ 友人宅 15.9	江東区内の親戚・ 友人宅 7.9	31.0	2.4
	50～59歳	149	江東区立の公共施設 41.6	自宅周辺の建物の 高い場所 27.5	自宅内の高い場所 26.8	江東区外の親戚・ 友人宅 9.4	江東区内の親戚・ 友人宅 4.7	38.3	4.7
	60～69歳	127	江東区立の公共施設 50.4	自宅周辺の建物の 高い場所 35.4	自宅内の高い場所 26.8	江東区外の親戚・ 友人宅 7.9	江東区内の親戚・ 友人宅 5.5	33.1	6.3
	70歳以上	196	江東区立の公共施設 58.2	自宅周辺の建物の 高い場所 31.6	自宅内の高い場所 25.0	江東区外の親戚・ 友人宅 5.6	江東区内の親戚・ 友人宅 3.1	36.7	8.7

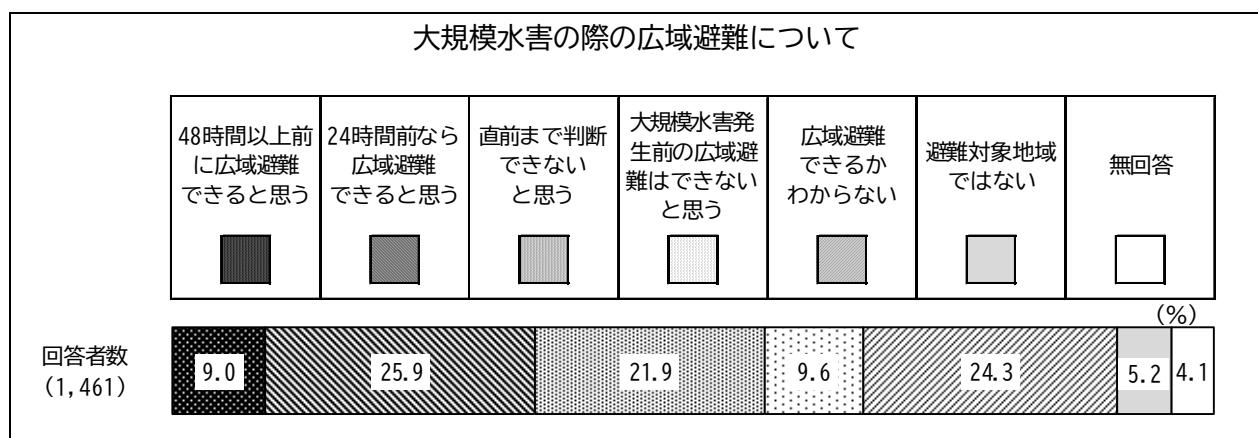
(4) 大規模水害の際の広域避難について

新規

◇「24時間前なら広域避難できると思う」が2割台半ば

問6	大規模水害時にあなたは江東区の臨海部や区外の浸水しない地域へ広域避難ができますか。次の中からもっとも近いものを <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,461)
1	48時間以上前に広域避難できると思う 9.0%
2	24時間前なら広域避難できると思う 25.9%
3	直前まで判断できないと思う 21.9%
4	大規模水害発生前の広域避難はできないと思う 9.6%
5	広域避難できるかわからない 24.3%
6	避難対象地域ではない 5.2%
	無回答 4.1%

大規模水害時にあなたは江東区の臨海部や区外の浸水しない地域へ広域避難ができるか聞いたところ、「24時間前なら広域避難できると思う」(25.9%)が2割台半ばで最も多く、次いで「広域避難できるかわからない」(24.3%)、「直前まで判断できないと思う」(21.9%)と続いている。



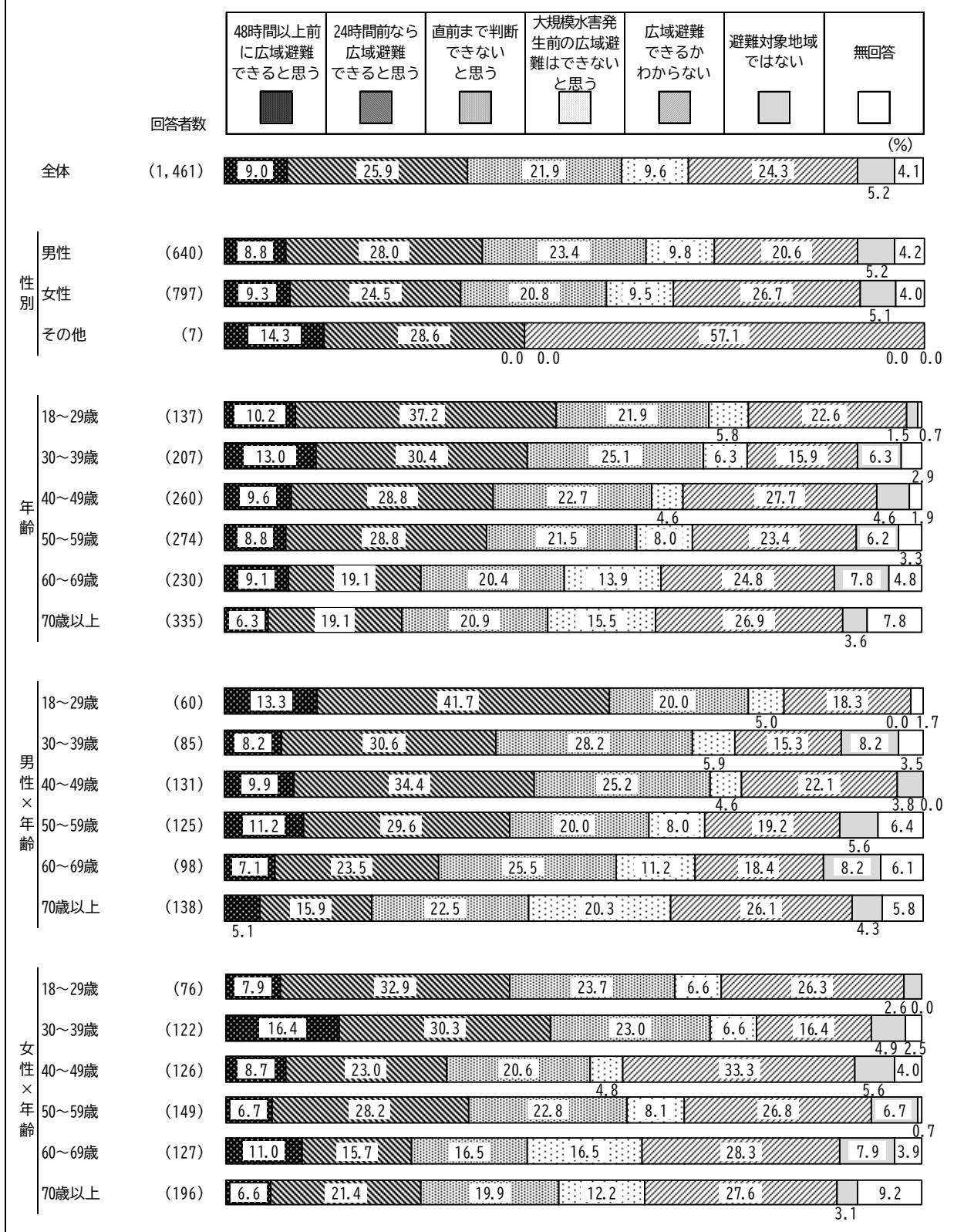
第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大規模水害の際の広域避難について－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、第1位の「24時間前なら広域避難できると思う」は男性の方が女性より3.5ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「24時間前なら広域避難できると思う」は男性の59歳以下、女性の39歳以下と50～59歳で第1位、「広域避難できるかわからない」は男性の70歳以上、女性の40～49歳、60歳以上で第1位となっている。

大規模水害の際の広域避難について－性別／年齢／性別×年齢

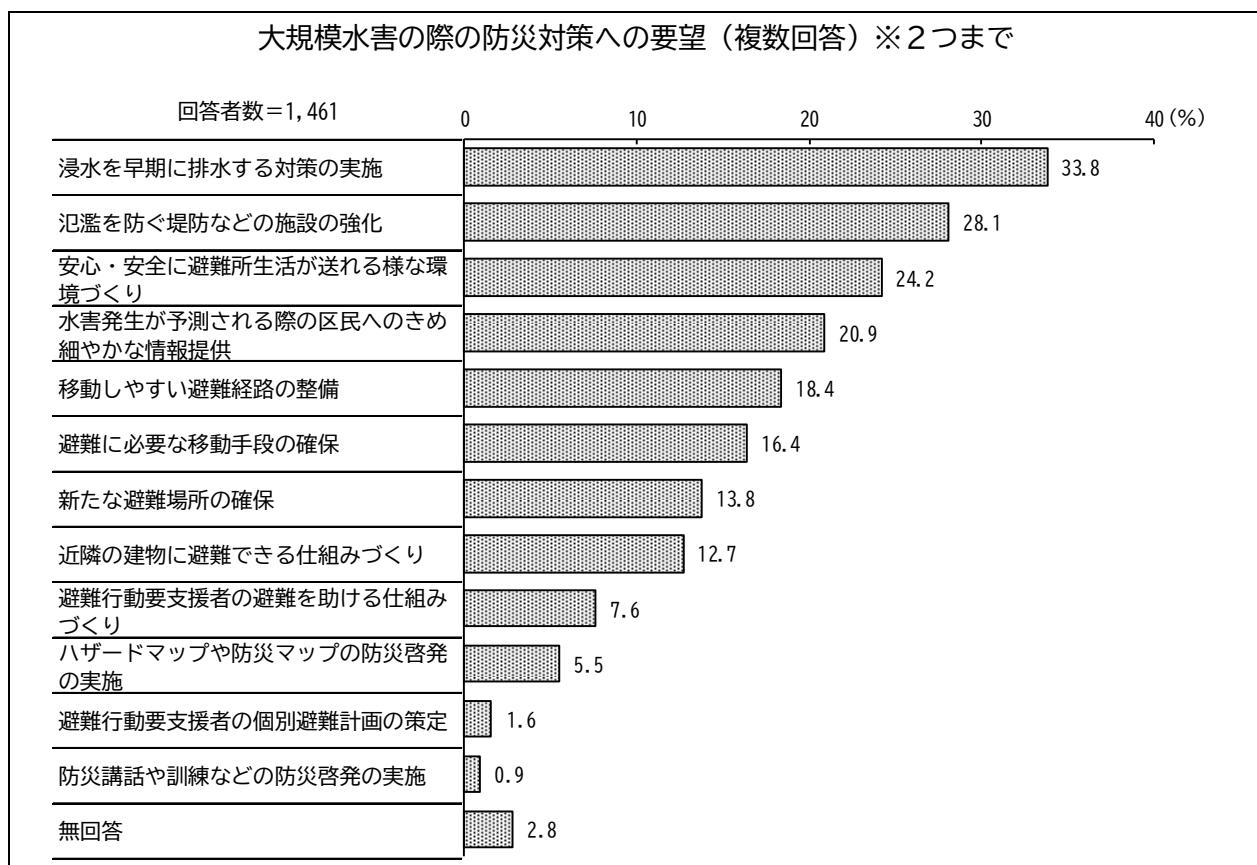


(5) 大規模水害の際の防災対策への要望

◇「浸水を早期に排水する対策の実施」が3割を超える

問7	あなたが、洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,461)
1 新たな避難場所の確保	13.8%
2 移動しやすい避難経路の整備	18.4%
3 避難に必要な移動手段の確保	16.4%
4 気象を防ぐ堤防などの施設の強化	28.1%
5 浸水を早期に排水する対策の実施	33.8%
6 防災講話や訓練などの防災啓発の実施	0.9%
7 ハザードマップや防災マップの防災啓発の実施	5.5%
8 避難行動要支援者の避難を助ける仕組みづくり	7.6%
9 避難行動要支援者の個別避難計画の策定	1.6%
10 近隣の建物に避難できる仕組みづくり	12.7%
11 安心・安全に避難所生活が送れる様な環境づくり	24.2%
12 水害発生が予測される際の区民へのきめ細やかな情報提供	20.9%
無回答	2.8%

洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「浸水を早期に排水する対策の実施」(33.8%)が3割を超えて最も多く、次いで「気象を防ぐ堤防などの施設の強化」(28.1%)、「安心・安全に避難所生活が送れる様な環境づくり」(24.2%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

大規模水害の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化」は男性の方が女性より3.9ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「浸水を早期に排水する対策の実施」は男性の30～69歳、女性の30～69歳で第1位、「氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化」は男性の18～29歳、40～49歳で第1位となっている。「安心・安全に避難所生活が送れる様な環境づくり」は男性の70歳以上、女性の70歳以上で第1位となっている。

大規模水害の際の防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

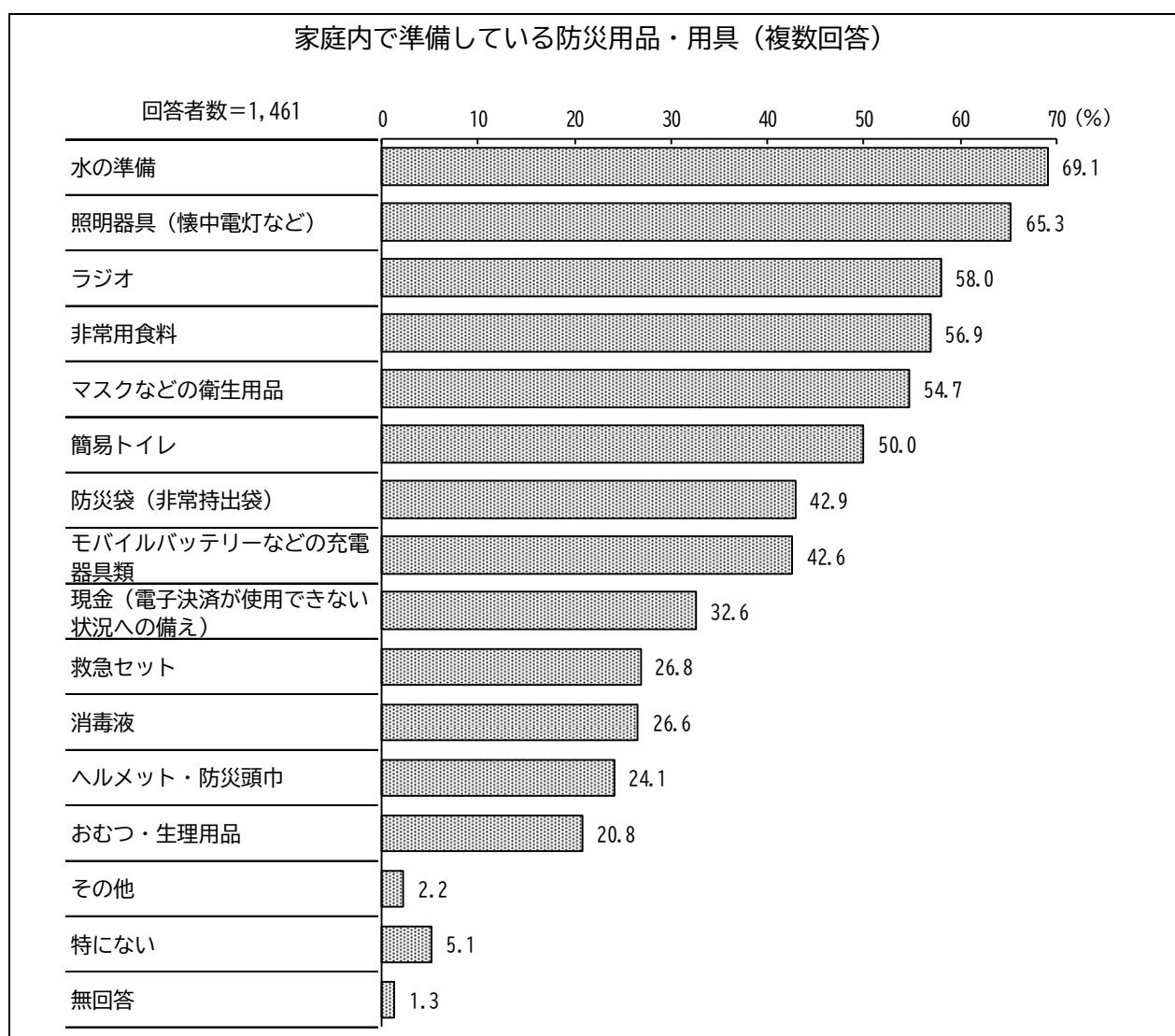
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
性別	年齢	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
			浸水を早期に排水する対策の実施 33.8	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 28.1	安心・安全な避難所生活の環境づくり 24.2	水害発生予測の区民への情報提供 20.9	移動しやすい避難経路の整備 18.4
性別×年齢	18～29歳	640	浸水を早期に排水する対策の実施 35.3	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 30.6	安心・安全な避難所生活の環境づくり 21.4	水害発生予測の区民への情報提供 20.5	移動しやすい避難経路の整備 18.6
	30～39歳	797	浸水を早期に排水する対策の実施 33.0	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 26.7	安心・安全な避難所生活の環境づくり 26.0	水害発生予測の区民への情報提供 21.3	移動しやすい避難経路の整備 18.2
	40～49歳	7	浸水を早期に排水する対策の実施 57.1	移動しやすい避難経路の整備/安心・安全な避難所生活の環境づくり 28.6	避難に必要な移動手段の確保/氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化/避難行動要支援者の避難を助ける仕組みづくり 14.3		
	50～59歳	137	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 38.7	移動しやすい避難経路の整備 33.6	浸水を早期に排水する対策の実施 32.1	新たな避難場所の確保 17.5	避難に必要な移動手段の確保 13.9
	60～69歳	207	浸水を早期に排水する対策の実施 38.2	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 31.4	移動しやすい避難経路の整備 24.6	安心・安全な避難所生活の環境づくり 19.8	避難に必要な移動手段の確保 17.9
	70歳以上	260	浸水を早期に排水する対策の実施 36.9	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 32.7	移動しやすい避難経路の整備 22.7	安心・安全な避難所生活の環境づくり 18.5	水害発生予測の区民への情報提供 16.5
性別×年齢	18～29歳	274	浸水を早期に排水する対策の実施 44.2	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 28.1	水害発生予測の区民への情報提供 25.9	安心・安全な避難所生活の環境づくり 25.2	避難に必要な移動手段の確保 15.0
	30～39歳	230	浸水を早期に排水する対策の実施 33.5	安心・安全な避難所生活の環境づくり 29.6	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 25.7	水害発生予測の区民への情報提供 24.8	避難に必要な移動手段の確保 15.7
	40～49歳	335	安心・安全な避難所生活の環境づくり 30.7	水害発生予測の区民への情報提供 24.8	浸水を早期に排水する対策の実施 22.4	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 21.2	避難に必要な移動手段の確保 18.8
	50～59歳	60	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 50.0	浸水を早期に排水する対策の実施 36.7	移動しやすい避難経路の整備 31.7	新たな避難場所の確保 16.7	ハザードマップや防災マップの防災啓発の実施 13.3
	60～69歳	85	浸水を早期に排水する対策の実施 37.6	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 31.8	移動しやすい避難経路の整備 24.7	避難に必要な移動手段の確保 18.8	新たな避難場所の確保/安心・安全な避難所生活の環境づくり 16.5
	70歳以上	131	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化/浸水を早期に排水する対策の実施 42.4	移動しやすい避難経路の整備 35.9	新たな避難場所の確保 26.0	安心・安全な避難所生活の環境づくり 16.8	安心・安全な避難所生活の環境づくり 16.0
性別×年齢	18～29歳	125	浸水を早期に排水する対策の実施 42.4	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 28.0	水害発生予測の区民への情報提供 25.6	安心・安全な避難所生活の環境づくり 23.2	移動しやすい避難経路の整備 15.2
	30～39歳	98	浸水を早期に排水する対策の実施 36.7	安心・安全な避難所生活の環境づくり 29.6	水害発生予測の区民への情報提供 28.6	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 24.5	新たな避難場所の確保/移動しやすい避難経路の整備 14.3
	40～49歳	138	安心・安全な避難所生活の環境づくり 26.1	浸水を早期に排水する対策の実施 25.4	水害発生予測の区民への情報提供 24.6	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 23.9	避難に必要な移動手段の確保 19.6
	50～59歳	76	移動しやすい避難経路の整備 35.5	氾濫を防ぐ堤防などの施設強化 30.3	浸水を早期に排水する対策の実施 27.6	新たな避難場所の確保/避難に必要な移動手段の確保 22.1	新たな避難場所の確保/避難に必要な移動手段の確保 18.4
	60～69歳	122	浸水を早期に排水する対策の実施 38.5	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化 31.1	移動しやすい避難経路の整備 24.6	安心・安全な避難所生活の環境づくり 19.0	水害発生予測の区民への情報提供 18.3
	70歳以上	149	浸水を早期に排水する対策の実施 45.6	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化 28.2	安心・安全な避難所生活の環境づくり 26.8	水害発生予測の区民への情報提供 26.2	避難に必要な移動手段の確保 17.4
性別×年齢	18～29歳	127	浸水を早期に排水する対策の実施 32.3	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化/安心・安全な避難所生活の環境づくり 27.6	水害発生予測の区民への情報提供 22.0	避難に必要な移動手段の確保 18.1	避難に必要な移動手段の確保 18.4
	30～39歳	196	安心・安全な避難所生活の環境づくり 34.2	水害発生予測の区民への情報提供 24.5	浸水を早期に排水する対策の実施 20.4	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化 19.4	避難に必要な移動手段の確保 18.4
	40～49歳	126	浸水を早期に排水する対策の実施 36.5	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化 29.4	安心・安全な避難所生活の環境づくり 21.4	水害発生予測の区民への情報提供 19.0	水害発生予測の区民への情報提供 18.3
	50～59歳	149	浸水を早期に排水する対策の実施 45.6	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化 28.2	安心・安全な避難所生活の環境づくり 26.8	水害発生予測の区民への情報提供 26.2	避難に必要な移動手段の確保 17.4
	60～69歳	149	浸水を早期に排水する対策の実施 32.3	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化/安心・安全な避難所生活の環境づくり 27.6	水害発生予測の区民への情報提供 22.0	避難に必要な移動手段の確保 18.1	避難に必要な移動手段の確保 18.4
	70歳以上	149	安心・安全な避難所生活の環境づくり 34.2	水害発生予測の区民への情報提供 24.5	浸水を早期に排水する対策の実施 20.4	汜濫を防ぐ堤防などの施設強化 19.4	避難に必要な移動手段の確保 18.4

(6) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「水の準備」がほぼ7割

問8	あなたの家庭で、災害に備えて現在準備している防災用品および用具は何ですか。 次の中からすべて選んでください。(回答者数=1,461)			
1 非常用食料	56.9%	9 ヘルメット・防災頭巾	24.1%	
2 水の準備	69.1%	10 おむつ・生理用品	20.8%	
3 マスクなどの衛生用品	54.7%	11 救急セット	26.8%	
4 消毒液	26.6%	12 防災袋(非常持出袋)	42.9%	
5 簡易トイレ	50.0%	13 現金(電子決済が使用できない状況への備え)	32.6%	
6 ラジオ	58.0%	14 その他	2.2%	
7 照明器具(懐中電灯など)	65.3%	15 特にない	5.1%	
8 モバイルバッテリーなどの充電器具類	42.6%	無回答	1.3%	

災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「水の準備」(69.1%)がほぼ7割と最も多く、次いで「照明器具(懐中電灯など)」(65.3%)、「ラジオ」(58.0%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、上位5項目すべて女性の方が男性より高く、特に「マスクなどの衛生用品」は11.8ポイント、「水の準備」は9.4ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「水の準備」は男性の30～39歳、50～59歳で、「照明器具（懐中電灯など）」は男性の40～49歳、60歳以上で第1位になっている。「水の準備」は女性の69歳以下で、「照明器具（懐中電灯など）」は女性の70歳以上で第1位になっている。

家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,461	水の準備 69.1	照明器具 65.3	ラジオ 58.0	非常用食料 56.9	マスクなどの衛生用品 54.7
性別	男性	640	水の準備 64.1	照明器具 63.1	ラジオ 56.3	非常用食料 55.8	マスクなどの衛生用品 48.3
	女性	797	水の準備 73.5	照明器具 67.8	マスクなどの衛生用品 60.1	ラジオ 59.6	非常用食料/簡易トイレ 58.3
	その他	7	マスクなどの衛生用品/モバイルバッテリーなどの充電器具類 42.9		非常用食料/水の準備/簡易トイレ/ラジオ/照明器具（懐中電灯など）/救急セット		28.6
年齢	18～29歳	137	水の準備 59.1	非常用食料 54.7	モバイルバッテリーなどの充電器具類 50.4	マスクなどの衛生用品 49.6	照明器具 44.5
	30～39歳	207	水の準備 67.6	マスクなどの衛生用品 58.0	非常用食料 55.6	照明器具 52.2	簡易トイレ 48.3
	40～49歳	260	水の準備 69.6	照明器具 67.3	非常用食料 65.0	ラジオ 60.8	マスクなどの衛生用品 56.5
	50～59歳	274	水の準備 73.7	ラジオ/照明器具（懐中電灯など） 69.7	マスクなどの衛生用品 58.0		簡易トイレ 56.9
	60～69歳	230	水の準備/照明器具（懐中電灯など） 69.6	ラジオ 65.7	非常用食料 57.8	マスクなどの衛生用品 52.6	
	70歳以上	335	照明器具 74.6	ラジオ 72.8	水の準備 69.6	非常用食料 53.7	マスクなどの衛生用品 52.5
性別×年齢	18～29歳	60	非常用食料 61.7	水の準備 60.0	マスクなどの衛生用品 51.7	照明器具 50.0	モバイルバッテリーなどの充電器具類 46.7
	30～39歳	85	水の準備 62.4	マスクなどの衛生用品 57.6	非常用食料 56.5	モバイルバッテリーなどの充電器具類 50.6	照明器具 47.1
	40～49歳	131	照明器具 67.2	非常用食料 66.4	水の準備 64.9	ラジオ 59.5	マスクなどの衛生用品 48.9
	50～59歳	125	水の準備/ラジオ 66.4	照明器具 62.4	非常用食料 53.6		モバイルバッテリーなどの充電器具類 50.4
	60～69歳	98	照明器具 69.4	水の準備/ラジオ 64.3	非常用食料 50.0		防災袋 46.9
	70歳以上	138	照明器具 71.0	ラジオ 70.3	水の準備 63.8	非常用食料 49.3	防災袋 45.7
性別×年齢	18～29歳	76	水の準備 59.2	モバイルバッテリーなどの充電器具類 52.6	非常用食料 50.0	マスクなどの衛生用品 48.7	照明器具 39.5
	30～39歳	122	水の準備 71.3	マスクなどの衛生用品 58.2	簡易トイレ 57.4	照明器具 55.7	非常用食料 54.9
	40～49歳	126	水の準備 75.4	照明器具 68.3	非常用食料/マスクなどの衛生用品 64.3		ラジオ 61.9
	50～59歳	149	水の準備 79.9	照明器具 75.8	ラジオ 72.5	簡易トイレ 67.1	マスクなどの衛生用品 65.1
	60～69歳	127	水の準備 74.8	照明器具 71.7	ラジオ 66.9	簡易トイレ 66.1	非常用食料 65.4
	70歳以上	196	照明器具 77.0	ラジオ 74.5	水の準備 73.5	マスクなどの衛生用品 59.2	簡易トイレ 58.2

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態

住居形態でみると、持ち家集合住宅では「水の準備」が8割近く、「照明器具（懐中電灯など）」が7割を超えております。

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位 (%)
全体		1,461	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 43.1	浸水・津波 34.4	建物の倒壊 25.3	火災の発生 21.2	食料・水の確保 20.9
住居形態	一戸建て	自己所有地	187	浸水・津波 47.6	火災の発生 33.7	建物の倒壊 27.3	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 25.1 食料・水の確保 15.5
	一戸建て	借地	32	火災の発生 43.8	浸水・津波 31.3	避難場所の安全 25.0	建物の倒壊 21.9 医療体制の確保 15.6
	集合住宅		619	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 50.9	浸水・津波 32.6	建物の倒壊 25.4	食料・水の確保 20.7 火災の発生 19.1
	賃貸集合住宅		17	火災の発生 41.2	浸水・津波/ライフラインの途絶（停電・断水・電話） 35.3	建物の倒壊 23.5	避難場所の安全 17.6
	都営等		325	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 41.5	浸水・津波 39.1	食料・水の確保 24.9	火災の発生/地盤の液状化現象 22.8 17.8
	寮・社宅		205	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 47.3	建物の倒壊 25.9	食料・水の確保 23.4	浸水・津波 22.0 火災の発生 17.6
間借り・住み込み		33	浸水・津波 51.5	建物の倒壊 42.4	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 30.3	地盤の液状化現象/食料・水の確保 33.3	18.2
その他		7	ライフラインの途絶 (停電・断水・電話) 66.7	地盤の液状化現象/食料・水の確保/医療体制の確保 42.9	浸水・津波/建物の倒壊/医療体制の確保 30.3	地盤の液状化現象/通行車両による道路の混亂/家族の安否確認手段 28.6	14.3

3 ごみ・リサイクル

-
- (1) ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいこと
 - (2) 利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み
 - (3) 食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと
-

3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいこと

新規

◇取り組んでいることでは、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が8割を超える

◇取り組みたいことでは、「スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している」が2割台半ば

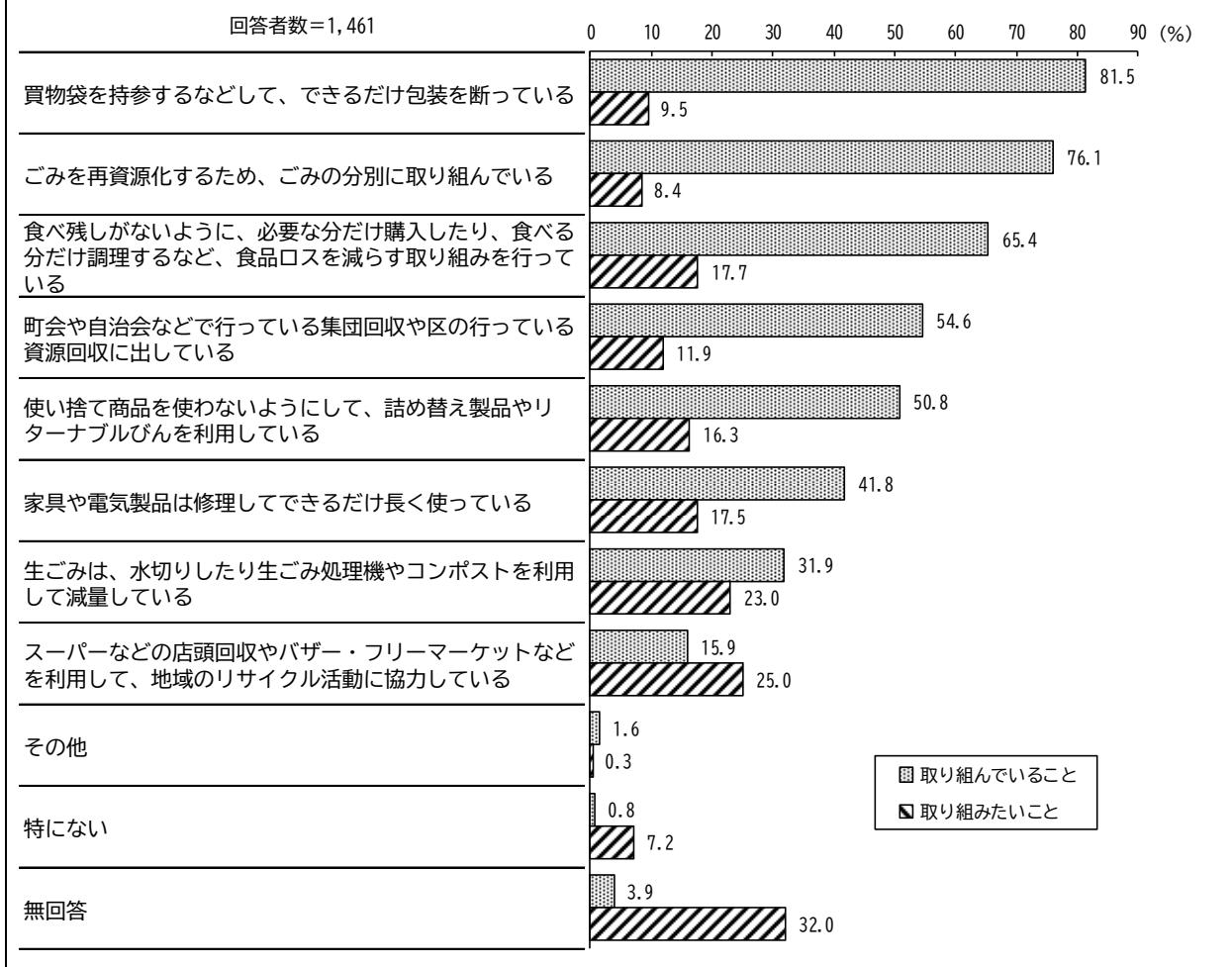
問9	あなたが、ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいことはありますか。 次のの中から、当てはまるものの欄にすべて○をつけてください。(回答者数=1,461)	取り組んで いること	取り組み たいこと
1	買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている	81.5%	9.5%
2	食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている	65.4%	17.7%
3	使い捨て商品を使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している	50.8%	16.3%
4	町会や自治会などで行っている集団回収や区の行っている資源回収に出している	54.6%	11.9%
5	家具や電気製品は修理してできるだけ長く使っている	41.8%	17.5%
6	生ごみは、水切りしたり生ごみ処理機やコンポストを利用して減量している	31.9%	23.0%
7	スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している	15.9%	25.0%
8	ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる	76.1%	8.4%
9	その他	1.6%	0.3%
10	特はない	0.8%	7.2%
	無回答	3.9%	32.0%

ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいことはあるか聞いたところ、取り組んでいることでは、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(81.5%)が8割を超えて最も多く、次いで「ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる」(76.1%)、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(65.4%)と続いている。

一方、取り組みたいことでは、「スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している」(25.0%)が2割台半ばで最も多く、次いで「生ごみは、水切りしたり生ごみ処理機やコンポストを利用して減量している」(23.0%)、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(17.7%)と続いている。

第4章 調査結果の分析〈3 ごみ・リサイクル〉

ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいこと（複数回答）



取り組んでいるごみを減らす活動－地区

地区でみると、取り組んでいることでは、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は白河・小松橋地区が9割近く、豊洲地区、大島地区、南砂地区が8割を超えている。

取り組んでいるごみを減らす活動－地区（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)	
全体	1,461	買物袋を持参で包装を断る	81.5	再資源化のためにごみを分別する	76.1	食品ロス削減の取り組みを行う	65.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する	54.6
地区	白河・小松橋	231	買物袋を持参で包装を断る	88.3	再資源化のためにごみを分別する	80.5	食品ロス削減の取り組みを行う/集団回収や区の資源回収に出す	63.6	
	富岡・東陽	209	買物袋を持参で包装を断る	76.1	再資源化のためにごみを分別する	74.2	食品ロス削減の取り組みを行う	67.9	
	豊洲	306	買物袋を持参で包装を断る	82.4	再資源化のためにごみを分別する	74.8	集団回収や区の資源回収に出す	51.7	
	亀戸	188	買物袋を持参で包装を断る	80.3	再資源化のためにごみを分別する	73.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する	68.6	
	大島	172	買物袋を持参で包装を断る	82.0	再資源化のためにごみを分別する	75.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する	59.3	
	砂町	219	買物袋を持参で包装を断る	79.9	再資源化のためにごみを分別する	77.2	集団回収や区の資源回収に出す	65.8	
	南砂	106	買物袋を持参で包装を断る	83.0	再資源化のためにごみを分別する	80.2	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する	67.0	

取り組みたいと思うごみを減らす活動－地区

地区でみると、取り組みたいと思うことでは、「生ごみは、水切りしたり生ごみ処理機やコンポストを利用して減量している」は白河・小松橋地区で3割を超え、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」は白河・小松橋地区で2割を超え、大島地区で2割となっている。

取り組みたいと思うごみを減らす活動－地区（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)	
全体	1,461	地域のリサイクル活動に協力する	25.0	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	23.0	食品ロス削減の取り組みを行う	17.7	修理してできるだけ長く使用する	17.5
地区	白河・小松橋	231	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	31.2	地域のリサイクル活動に協力する	27.3	修理してできるだけ長く使用する	22.1	
	富岡・東陽	209	地域のリサイクル活動に協力する	26.3	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	21.5	修理してできるだけ長く使用する	17.2	
	豊洲	306	地域のリサイクル活動に協力する	25.5	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	18.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する	16.3	
	亀戸	188	地域のリサイクル活動に協力する	25.5	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	23.9	食品ロス削減の取り組みを行う	16.3	
	大島	172	地域のリサイクル活動に協力する	30.8	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	22.1	修理してできるだけ長く使用する	20.3	
	砂町	219	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	23.3	地域のリサイクル活動に協力する	20.5	修理してできるだけ長く使用する	17.4	
	南砂	106	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する	25.5	修理してできるだけ長く使用する	19.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する	18.9	

第4章 調査結果の分析〈3 ごみ・リサイクル〉

取り組んでいるごみを減らす活動－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、取り組んでいることでは、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」は女性の方が男性より 11.5 ポイント高くなっている。また、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」も女性の方が男性より 10.0 ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、取り組んでいることでは、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は男性 18～29 歳、40～69 歳、女性 49 歳以下、70 歳以上で第 1 位となっている。

取り組んでいるごみを減らす活動－性別／年齢／性別×年齢（上位 5 項目）

		回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	(%)
全体		1,461	買物袋を持参で包装を断る 81.5	再資源化のためにごみを分別する 76.1	食品ロス削減の取り組みを行う 65.4	集団回収や区の資源回収に出す 54.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 50.8	
性別	男性	640	買物袋を持参で包装を断る 76.3	再資源化のためにごみを分別する 72.7	食品ロス削減の取り組みを行う 59.1	集団回収や区の資源回収に出す 50.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 44.5	
	女性	797	買物袋を持参で包装を断る 86.3	再資源化のためにごみを分別する 78.8	食品ロス削減の取り組みを行う 70.6	集団回収や区の資源回収に出す 58.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 56.0	
	その他	7	再資源化のためにごみを分別する 85.7	買物袋を持参で包装を断る/食品ロス削減の取り組みを行う 71.4		集団回収や区の資源回収に出す 57.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 42.9	
年齢	18～29歳	137	買物袋を持参で包装を断る 74.5	食品ロス削減の取り組みを行う 70.1	再資源化のためにごみを分別する 52.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 47.4	修理してできるだけ長く使用する 32.8	
	30～39歳	207	買物袋を持参で包装を断る 75.4	食品ロス削減の取り組みを行う/再資源化のためにごみを分別する 63.3		詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 46.4	集団回収や区の資源回収に出す 34.3	
	40～49歳	260	買物袋を持参で包装を断る 82.3	再資源化のためにごみを分別する 74.2	食品ロス削減の取り組みを行う 65.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 55.4	集団回収や区の資源回収に出す 47.3	
	50～59歳	274	買物袋を持参で包装を断る/再資源化のためにごみを分別する 84.7		食品ロス削減の取り組みを行う 68.6	集団回収や区の資源回収に出す 62.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 53.3	
	60～69歳	230	買物袋を持参で包装を断る 87.4	再資源化のためにごみを分別する 85.2	食品ロス削減の取り組みを行う 67.0	集団回収や区の資源回収に出す 63.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 54.3	
	70歳以上	335	買物袋を持参で包装を断る/再資源化のためにごみを分別する 82.4		食品ロス削減の取り組みを行う 72.2	食品ロス削減の取り組みを行う 62.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 47.8	
	18～29歳	60	買物袋を持参で包装を断る/食品ロス削減の取り組みを行う 65.0	再資源化のためにごみを分別する 45.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 40.0	修理してできるだけ長く使用する 36.7		
性別×年齢	30～39歳	85	食品ロス削減の取り組みを行う 63.5	買物袋を持参で包装を断る 61.2	再資源化のためにごみを分別する 60.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 36.5	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する 31.8	
	40～49歳	131	買物袋を持参で包装を断る 78.6	再資源化のためにごみを分別する 73.3	食品ロス削減の取り組みを行う 55.7	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 55.0	集団回収や区の資源回収に出す 48.1	
	50～59歳	125	買物袋を持参で包装を断る 80.8	再資源化のためにごみを分別する 80.0	食品ロス削減の取り組みを行う 62.4	集団回収や区の資源回収に出す 56.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 45.6	
	60～69歳	98	買物袋を持参で包装を断る 86.7	再資源化のためにごみを分別する 78.6	食品ロス削減の取り組みを行う/集団回収や区の資源回収に出す 57.1		詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 48.0	
	70歳以上	138	再資源化のためにごみを分別する 80.4	買物袋を持参で包装を断る 76.8	集団回収や区の資源回収に出す 65.9	食品ロス削減の取り組みを行う 55.1	修理してできるだけ長く使用する 39.9	
	18～29歳	76	買物袋を持参で包装を断る 81.6	食品ロス削減の取り組みを行う 73.7	再資源化のためにごみを分別する 57.9	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 52.6	修理してできるだけ長く使用する 30.3	
	30～39歳	122	買物袋を持参で包装を断る 85.2	再資源化のためにごみを分別する 65.6	食品ロス削減の取り組みを行う 63.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 53.3	集団回収や区の資源回収に出す 36.9	
女性×年齢	40～49歳	126	買物袋を持参で包装を断る 86.5	食品ロス削減の取り組みを行う/再資源化のためにごみを分別する 74.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 56.3	集団回収や区の資源回収に出す 46.8		
	50～59歳	149	再資源化のためにごみを分別する 88.6	買物袋を持参で包装を断る 87.9	食品ロス削減の取り組みを行う 73.8	集団回収や区の資源回収に出す 67.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 59.7	
	60～69歳	127	再資源化のためにごみを分別する 89.8	買物袋を持参で包装を断る 88.2	食品ロス削減の取り組みを行う 74.8	集団回収や区の資源回収に出す 68.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 59.1	
	70歳以上	196	買物袋を持参で包装を断る 86.2	再資源化のためにごみを分別する 83.7	集団回収や区の資源回収に出す 76.5	食品ロス削減の取り組みを行う 66.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 54.1	

取り組みたいと思うごみを減らす活動－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、取り組みたいと思うことでは、「生ごみは、水切りしたり生ごみ処理機やコンポストを利用して減量している」は女性の方が男性より6.7ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、取り組みたいと思うことでは、「生ごみは、水切りしたり生ごみ処理機やコンポストを利用して減量している」は女性の30～39歳以外の年齢で第2位以内となっている。男性の59歳以下では年齢ごとに第1位となったものが異なっており、18～29歳では「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」、30～39歳では「使い捨て商品を使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」、50歳以上では「スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している」となっている。

取り組みたいと思うごみを減らす活動－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,461	地域のリサイクル活動に協力する 25.0	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する 23.0	食品ロス削減の取り組みを行う 17.7	修理してできるだけ長く使用する 17.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 16.3	
性別	男性	640	地域のリサイクル活動に協力する 21.4	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する 19.4	食品ロス削減の取り組みを行う 18.6	修理してできるだけ長く使用する 17.7	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 16.4	
	女性	797	地域のリサイクル活動に協力する 28.1	生ごみ処理機やコンポストを利用して減量する 26.1	修理してできるだけ長く使用する 17.3	食品ロス削減の取り組みを行う 17.2	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 16.7	
	その他	7	集団回収や区の資源回収に出す/修理してできるだけ長く使用する/生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する/地域のリサイクル活動に協力する/再資源化のためにごみを分別する					28.6
年齢	18～29歳	137	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 27.7	地域のリサイクル活動に協力する 19.7	買物袋を持参で包装を断る 19.0	食品ロス削減の取り組みを行う/集団回収や区の資源回収に出す 18.2		
	30～39歳	207	地域のリサイクル活動に協力する 23.2	食品ロス削減の取り組みを行う 19.8	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 17.9	修理してできるだけ長く使用する 16.9	集団回収や区の資源回収に出す 14.0	
	40～49歳	260	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 27.7	地域のリサイクル活動に協力する 22.3	食品ロス削減の取り組みを行う 21.9	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 15.0	修理してできるだけ長く使用する 14.6	
	50～59歳	274	地域のリサイクル活動に協力する 25.9	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 20.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 19.7	修理してできるだけ長く使用する 18.6	食品ロス削減の取り組みを行う 16.4	
	60～69歳	230	地域のリサイクル活動に協力する 30.9	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 26.1	修理してできるだけ長く使用する 22.6	食品ロス削減の取り組みを行う 17.0	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 13.0	
	70歳以上	335	地域のリサイクル活動に協力する 25.7	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 21.2	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 20.9	修理してできるだけ長く使用する 16.1	食品ロス削減の取り組みを行う 14.6	
	18～29歳	60	買物袋を持参で包装を断る 23.3	集団回収や区の資源回収に出す/再資源化のためにごみを分別する 18.3	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 16.7	修理してできるだけ長く使用する 11.7	食品ロス削減の取り組みを行う/修理してできるだけ長く使用する 11.7	
男性×年齢	30～39歳	85	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 18.8	地域のリサイクル活動に協力する 17.6	食品ロス削減の取り組みを行う 16.5	修理してできるだけ長く使用する 15.3	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 14.1	
	40～49歳	131	食品ロス削減の取り組みを行う/生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 25.2	地域のリサイクル活動に協力する 19.1	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 18.4	修理してできるだけ長く使用する 17.6	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する/修理してできるだけ長く使用する 11.5	
	50～59歳	125	地域のリサイクル活動に協力する 22.4	修理してできるだけ長く使用する 20.8	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 18.4	食品ロス削減の取り組みを行う 17.6	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 12.8	
	60～69歳	98	地域のリサイクル活動に協力する 28.6	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 26.5	修理してできるだけ長く使用する 24.5	食品ロス削減の取り組みを行う 18.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 13.3	
	70歳以上	138	地域のリサイクル活動に協力する 23.9	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 22.5	修理してできるだけ長く使用する 19.6	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 18.1	食品ロス削減の取り組みを行う 16.7	
	18～29歳	76	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 36.8	地域のリサイクル活動に協力する 26.3	食品ロス削減の取り組みを行う 23.7	修理してできるだけ長く使用する 19.7	集団回収や区の資源回収に出す 18.4	
女性×年齢	30～39歳	122	地域のリサイクル活動に協力する 27.0	食品ロス削減の取り組みを行う 22.1	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 20.5	修理してできるだけ長く使用する 18.0	集団回収や区の資源回収に出す/修理してできるだけ長く使用する 18.0	
	40～49歳	126	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 29.4	地域のリサイクル活動に協力する 25.4	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 19.0	食品ロス削減の取り組みを行う 18.3	修理してできるだけ長く使用する 17.5	
	50～59歳	149	地域のリサイクル活動に協力する 28.9	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 26.2	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 20.8	修理してできるだけ長く使用する 16.8	食品ロス削減の取り組みを行う 15.4	
	60～69歳	127	地域のリサイクル活動に協力する 33.9	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 26.0	修理してできるだけ長く使用する 21.3	食品ロス削減の取り組みを行う 15.7	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 13.4	
	70歳以上	196	地域のリサイクル活動に協力する 27.0	生ごみ処理機やコンポストを利用しても減量する 23.5	詰め替え製品やリターナブルびんを利用する 19.9	修理してできるだけ長く使用する 13.8	食品ロス削減の取り組みを行う 13.3	

(2) 利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み

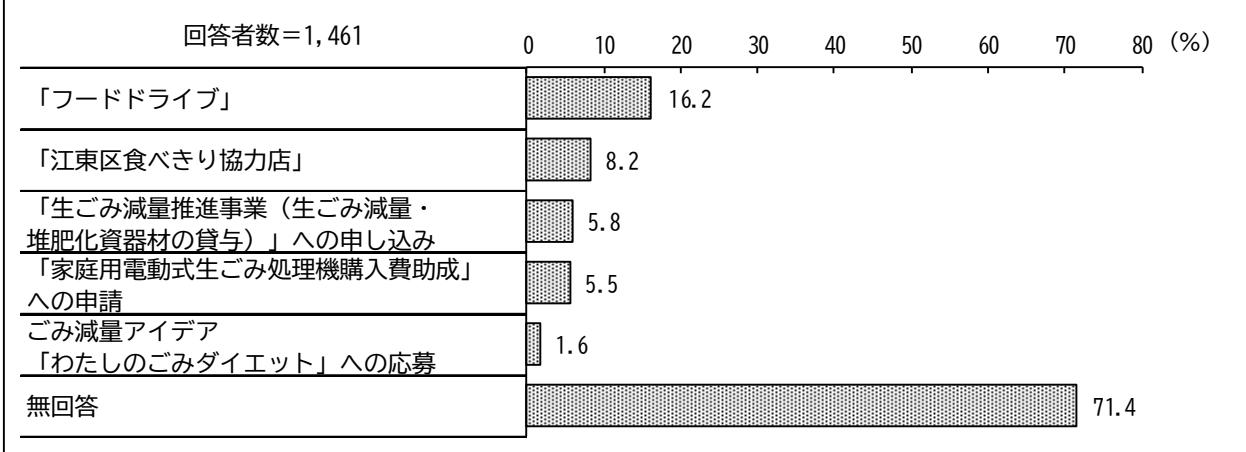
新規

◇「フードドライブ」が1割台半ば

問10	区では、食品ロスを減らすためにさまざまな取り組みを行っています。あなたが利用している、もしくは知っている区の取り組みはありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=1,461)
1	「江東区食べきり協力店」 8.2%
2	「フードドライブ」 16.2%
3	「生ごみ減量推進事業(生ごみ減量・堆肥化資器材の貸与)」への申し込み 5.8%
4	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.5%
5	ごみ減量アイデア「わたしのごみダイエット」への応募 1.6%
	無回答 71.4%

利用している、もしくは知っている区の食品ロスを減らす取り組みについて聞いたところ、「フードドライブ」(16.2%)が1割台半ばで最も多く、次いで「江東区食べきり協力店」(8.2%)、「生ごみ減量推進事業(生ごみ減量・堆肥化資器材の貸与)」への申し込み(5.8%)と続いている。

利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み（複数回答）



利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み－地区

地区でみると、「フードドライブ」は白河・小松橋地区が2割、大島地区がほぼ2割となっており、全ての地区で第1位となっている。

利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み－地区（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
地区	全体	1,461	フードドライブ 16.2	江東区食べきり協力店 8.2	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 5.8	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.5	「わたしのごみダイエット」への応募 1.6	
	白河・小松橋	231	フードドライブ 19.9	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 6.9	江東区食べきり協力店 6.5	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 6.1	「わたしのごみダイエット」への応募 1.7	
	富岡・東陽	209	フードドライブ 17.2	江東区食べきり協力店 8.1	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 7.7	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 6.2	「わたしのごみダイエット」への応募 2.4	
	豊洲	306	フードドライブ 12.4	江東区食べきり協力店 7.2	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 4.9	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 4.6	「わたしのごみダイエット」への応募 1.0	
	亀戸	188	フードドライブ 17.6	江東区食べきり協力店 6.4	「生ごみ減量推進事業」への申請 4.8	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 2.1	「わたしのごみダイエット」への応募 1.6	
	大島	172	フードドライブ 19.2	江東区食べきり協力店 8.1	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 7.6	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 7.0	「わたしのごみダイエット」への応募 1.7	
	砂町	219	フードドライブ 14.6	江東区食べきり協力店 11.9	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 5.5	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 4.1	「わたしのごみダイエット」への応募 1.4	
	南砂	106	フードドライブ 14.2	江東区食べきり協力店 12.3	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 10.4	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 6.6	「わたしのごみダイエット」への応募 1.9	

第4章 調査結果の分析〈3 ごみ・リサイクル〉

利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「フードドライブ」は女性の方が男性より9.3ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「フードドライブ」は男性69歳以下、女性のすべての年齢で第1位となっている。

利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,461	フードドライブ 16.2	江東区食べきり協力店 8.2	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 5.8	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.5	「わたしのごみダイエット」への応募 1.6	
性別	男性	640	フードドライブ 11.3	江東区食べきり協力店 8.9	「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 4.7		「わたしのごみダイエット」への応募 1.7	
	女性	797	フードドライブ 20.6	江東区食べきり協力店 7.7	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 6.9	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 6.4	「わたしのごみダイエット」への応募 1.5	
	その他	7						
年齢	18～29歳	137	フードドライブ 8.8	江東区食べきり協力店 5.8	「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 3.6		「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 2.2	
	30～39歳	207	フードドライブ 14.5	江東区食べきり協力店/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.8		「生ごみ減量推進事業」への申し込み 2.4	「わたしのごみダイエット」への応募 1.4	
	40～49歳	260	フードドライブ 21.5	江東区食べきり協力店 11.9	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 10.0	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 4.6	「わたしのごみダイエット」への応募 3.5	
	50～59歳	274	フードドライブ 20.1	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 7.3	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 6.2	江東区食べきり協力店 5.1	「わたしのごみダイエット」への応募 0.7	
	60～69歳	230	フードドライブ 16.5	江東区食べきり協力店 10.4	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 5.2	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 3.0	「わたしのごみダイエット」への応募 0.4	
	70歳以上	335	フードドライブ 13.4	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 9.6	江東区食べきり協力店 9.0	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 4.8	「わたしのごみダイエット」への応募 0.9	
	18～29歳	60	フードドライブ 10.0	江東区食べきり協力店 8.3	「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.0		「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 1.7	
性別×年齢	30～39歳	85	フードドライブ 9.4	江東区食べきり協力店 8.2	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.9		「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「わたしのごみダイエット」への応募 2.4	
	40～49歳	131	江東区食べきり協力店/フードドライブ 12.2		「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 9.2	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 3.8	「わたしのごみダイエット」への応募 3.1	
	50～59歳	125	フードドライブ 16.0	江東区食べきり協力店 5.6	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 4.0	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 3.2	「わたしのごみダイエット」への応募 0.0	
	60～69歳	98	フードドライブ 11.2	江東区食べきり協力店 9.2	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 3.1	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 2.0	「わたしのごみダイエット」への応募 0.0	
	70歳以上	138	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 10.1	江東区食べきり協力店 9.4	フードドライブ 8.0	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 4.3	「わたしのごみダイエット」への応募 1.4	
	18～29歳	76	フードドライブ 7.9	江東区食べきり協力店 3.9	「生ごみ減量推進事業」への申し込み/「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請/「わたしのごみダイエット」への応募 2.6			
女性×年齢	30～39歳	122	フードドライブ 18.0	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.7	江東区食べきり協力店 4.1	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 2.5	「わたしのごみダイエット」への応募 0.8	
	40～49歳	126	フードドライブ 31.7	江東区食べきり協力店 11.9	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 11.1	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 5.6	「わたしのごみダイエット」への応募 4.0	
	50～59歳	149	フードドライブ 23.5	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 10.1	江東区食べきり協力店 8.7	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 4.7	「わたしのごみダイエット」への応募 1.3	
	60～69歳	127	フードドライブ 21.3	江東区食べきり協力店 11.0	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 7.1	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 3.9	「わたしのごみダイエット」への応募 0.8	
	70歳以上	196	フードドライブ 17.3	「生ごみ減量推進事業」への申し込み 9.2	江東区食べきり協力店 8.7	「家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成」への申請 5.1	「わたしのごみダイエット」への応募 0.5	

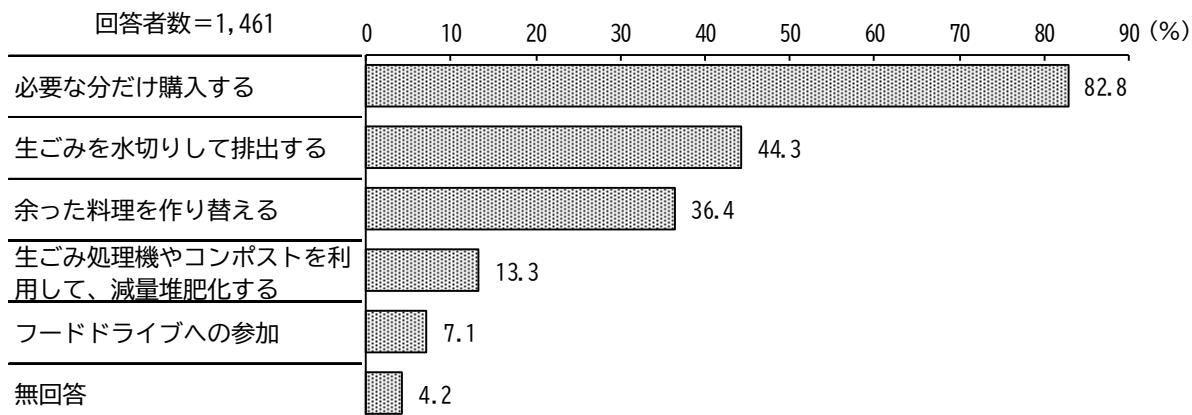
(3) 食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと

◇「必要な分だけ購入する」が8割を超える

問11	あなたが、食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいことはありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=1,461)
1	必要な分だけ購入する 82.8%
2	余った料理を作り替える 36.4%
3	フードドライブへの参加 7.1%
4	生ごみ処理機やコンポストを利用して、減量堆肥化する 13.3%
5	生ごみを水切りして排出する 44.3%
	無回答 4.2%

食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいことについて聞いたところ、「必要な分だけ購入する」(82.8%)が8割を超えて最も多く、次いで「生ごみを水切りして排出する」(44.3%)、「余った料理を作り替える」(36.4%)と続いている。

食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと（複数回答）



第4章 調査結果の分析〈3 ごみ・リサイクル〉

食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと－地区

地区でみると、すべての地区で同じ順位となっている。「必要な分だけ購入する」はすべての地区で8割台となっており、亀戸地区では9割近くとなっている。

食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと－地区（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
地区	全体	1,461	必要な分だけ購入する 82.8	生ごみを水切りしてから捨てる 44.3	余った料理を作り替える 36.4	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 13.3	フードドライブへの参加 7.1	
	白河・小松橋	231	必要な分だけ購入する 84.0	生ごみを水切りしてから捨てる 47.2	余った料理を作り替える 42.9	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 11.3	フードドライブへの参加 7.8	
	富岡・東陽	209	必要な分だけ購入する 84.7	生ごみを水切りしてから捨てる 42.6	余った料理を作り替える 34.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 12.9	フードドライブへの参加 6.7	
	豊洲	306	必要な分だけ購入する 80.1	生ごみを水切りしてから捨てる 39.9	余った料理を作り替える 36.6	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 18.3	フードドライブへの参加 6.5	
	亀戸	188	必要な分だけ購入する 86.7	生ごみを水切りしてから捨てる 40.4	余った料理を作り替える 33.0	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 16.5	フードドライブへの参加 8.0	
	大島	172	必要な分だけ購入する 80.8	生ごみを水切りしてから捨てる 49.4	余った料理を作り替える 32.6	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 12.2	フードドライブへの参加 5.8	
	砂町	219	必要な分だけ購入する 81.7	生ごみを水切りしてから捨てる 47.9	余った料理を作り替える 38.4	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 8.2	フードドライブへの参加 7.8	
	南砂	106	必要な分だけ購入する 82.1	生ごみを水切りしてから捨てる 39.6	余った料理を作り替える 36.8	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する 11.3	フードドライブへの参加 6.6	

食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「余った料理を作り替える」は女性の方が男性より16.4ポイント高くなっている。また、「生ごみを水切りして排出する」は女性の方が男性より12.4ポイント高くなっている。性別×年齢でみると、男女ともに「必要な分だけ購入する」はすべての年齢で第1位となっている。

食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと－性別／年齢／性別×年齢
(上位5項目)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,461	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	7.1
性別	男性	640	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	4.7
	女性	797	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	9.2
	その他	7	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える/生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する		28.6		
年齢	18～29歳	137	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	5.8
	30～39歳	207	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	5.8
	40～49歳	260	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	8.8
	50～59歳	274	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	8.8
	60～69歳	230	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	7.8
	70歳以上	335	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	5.1
	18～29歳	60	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える/生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	0.0	
男性×年齢	30～39歳	85	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	4.7
	40～49歳	131	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	5.3
	50～59歳	125	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	7.2
	60～69歳	98	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	余った料理を作り替える	フードドライブへの参加	4.1
	70歳以上	138	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	3.6
	18～29歳	76	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	フードドライブへの参加	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	7.9
	30～39歳	122	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	6.6
女性×年齢	40～49歳	126	必要な分だけ購入する	余った料理を作り替える	生ごみを水切りしてから捨てる	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	12.7
	50～59歳	149	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	10.1
	60～69歳	127	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	フードドライブへの参加	11.0
	70歳以上	196	必要な分だけ購入する	生ごみを水切りしてから捨てる	余った料理を作り替える	フードドライブへの参加	生ごみ処理機やコンポストでたい肥化する	5.1

4 交 通・まちづくり

-
- (1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること
 - (2) 移動手段で重視するもの
 - (3) 沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくり
 - (4) 自転車利用について区が取り組むべき施策
-

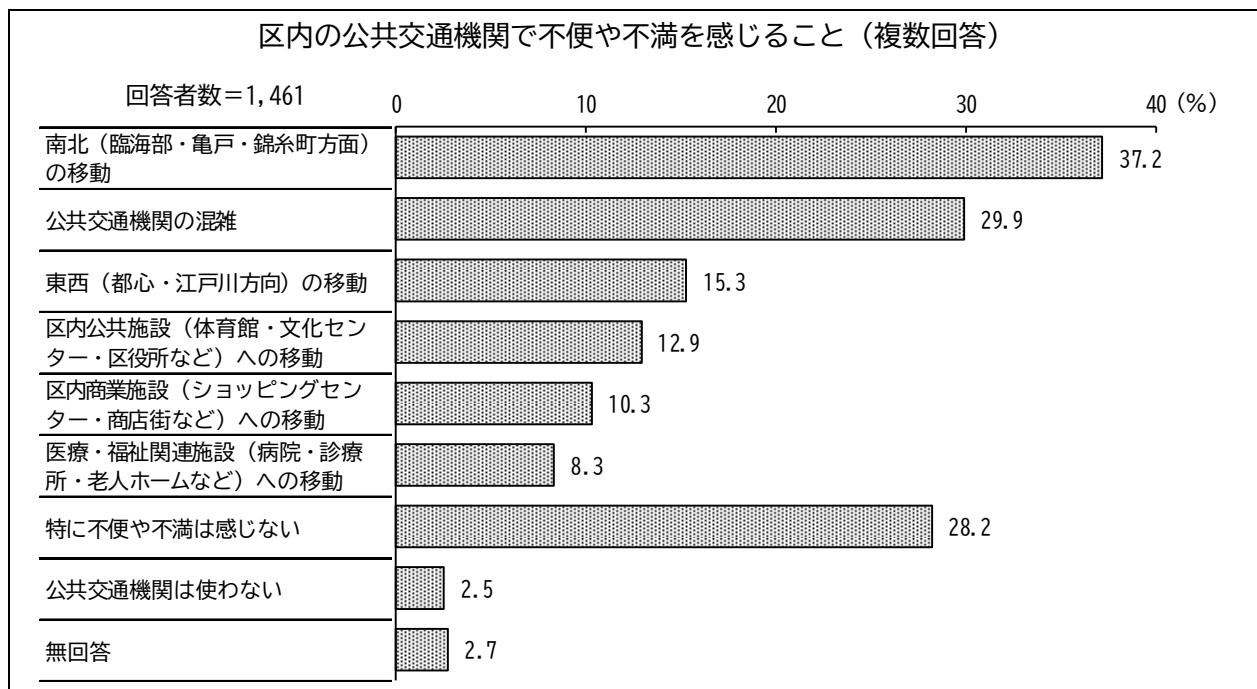
4 交通・まちづくり

(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が4割近く

問12	あなたは、区内の鉄道・バスなどの公共交通機関について不便や不満を感じことがありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。（回答者数=1,461）	
1	東西(都心・江戸川方向)の移動	15.3%
2	南北(臨海部・亀戸・錦糸町方面)の移動	37.2%
3	区内公共施設(体育館・文化センター・区役所など)への移動	12.9%
4	医療・福祉関連施設(病院・診療所・老人ホームなど)への移動	8.3%
5	区内商業施設(ショッピングセンター・商店街など)への移動	10.3%
6	公共交通機関の混雑	29.9%
7	特に不便や不満は感じない	28.2%
8	公共交通機関は使わない	2.5%
	無回答	2.7%

区内の鉄道・バスなどの公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（37.2%）が4割近くで最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（29.9%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動」（15.3%）と続いている。



第4章 調査結果の分析〈4 交通・まちづくり〉

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－地区

地区でみると、「公共交通機関の混雑」は南砂地区で5割となっている。「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は富岡・東陽地区と南砂地区以外の地区で第1位であり、豊洲地区で5割近くとなっている。「特に不便や不満は感じない」は白河・小松橋地区と大島地区で3割を超えていている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－地区（上位5項目）

(%)

	回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない
全体	1,461	南北の移動 37.2	公共交通機関の混雑 29.9	東西の移動 15.3	区内公共施設への移動 12.9	区内商業施設への移動 10.3	28.2	2.5
地区	白河・小松橋	南北の移動 28.6	公共交通機関の混雑 20.8	区内公共施設への移動 17.3	東西の移動/区内商業施設への移動 13.4	32.9	1.3	
	富岡・東陽	公共交通機関の混雑 34.4	南北の移動 31.6	区内商業施設への移動 12.9	東西の移動 9.6	区内公共施設への移動 7.2	29.7	2.4
	豊洲	南北の移動 48.4	公共交通機関の混雑 27.8	東西の移動 22.2	区内公共施設への移動 19.0	区内商業施設への移動 8.8	25.2	2.6
	亀戸	南北の移動 39.9	公共交通機関の混雑 30.9	区内公共施設への移動 14.4	東西の移動 10.6	区内商業施設への移動 6.9	26.6	4.3
	大島	南北の移動 37.8	公共交通機関の混雑 25.6	区内商業施設への移動 12.2	東西の移動 11.6	区内公共施設への移動 11.0	32.0	1.2
	砂町	南北の移動 32.9	公共交通機関の混雑 32.0	東西の移動 19.6	医療・福祉関連施設への移動 11.9	区内商業施設への移動 8.7	26.5	4.1
	南砂	公共交通機関の混雑 50.0	南北の移動 47.2	東西の移動 17.0	医療・福祉関連施設への移動 8.5	区内商業施設への移動 7.5	20.8	0.9

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は男性の方が女性より9.0ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」はすべての性別×年齢で上位2位以内に入っており、男性40～49歳で6割、男性30～39歳で5割を超えており、「公共交通機関の混雑」は男性30～39歳、女性30～39歳で4割台半ばとなっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

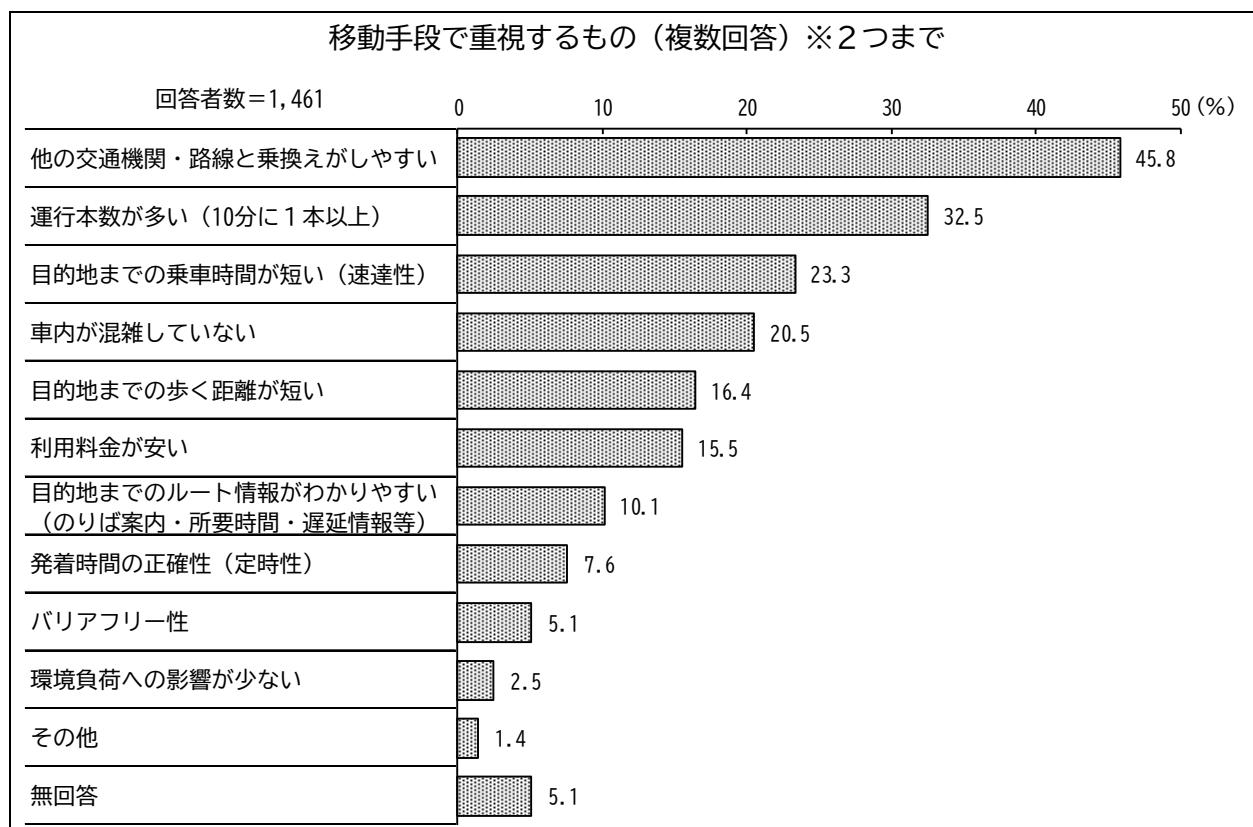
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満を感じない	公共交通機関は使わない
全体		1,461	南北の移動 37.2	公共交通機関の混雑 29.9	東西の移動 15.3	区内公共施設への移動 12.9	区内商業施設への移動 10.3	28.2	2.5
性別	男性	640	南北の移動 42.5	公共交通機関の混雑 28.4	東西の移動 13.6	区内公共施設への移動 11.1	区内商業施設への移動 8.6	27.2	2.8
	女性	797	南北の移動 33.5	公共交通機関の混雑 30.7	東西の移動 16.7	区内公共施設への移動 14.3	区内商業施設への移動 11.4	29.0	2.3
	その他	7	公共交通機関の混雑 42.9	南北の移動/区内公共施設への移動/区内商業施設への移動 42.9		東西の移動/医療・福祉関連施設への移動 28.6	医療・福祉関連施設への移動 14.3	28.6	0.0
年齢	18～29歳	137	南北の移動/公共交通機関の混雑 32.1	東西の移動 16.8	区内商業施設への移動 9.5	区内公共施設への移動 8.0	区内公共施設への移動 30.7	3.6	
	30～39歳	207	公共交通機関の混雑 45.9	南北の移動 45.4	東西の移動 18.4	区内公共施設への移動 14.0	区内商業施設への移動 12.1	15.9	1.0
	40～49歳	260	南北の移動 50.8	公共交通機関の混雑 36.2	東西の移動 18.5	区内公共施設への移動 9.6	区内商業施設への移動 6.5	21.2	1.5
	50～59歳	274	南北の移動 44.5	公共交通機関の混雑 32.1	東西の移動 15.3	区内公共施設への移動 12.8	区内商業施設への移動 12.4	24.5	3.6
	60～69歳	230	南北の移動 35.7	公共交通機関の混雑 29.6	東西の移動 18.3	区内公共施設への移動 16.1	医療・福祉関連施設への移動 10.9	30.4	2.2
	70歳以上	335	南北の移動 20.6	医療・福祉関連施設への移動 14.9	区内公共施設への移動 14.6	公共交通機関の混雑 13.1	区内商業施設への移動 10.1	41.2	3.0
	18～29歳	60	南北の移動 46.7	公共交通機関の混雑 33.3	東西の移動 15.0	区内公共施設への移動 13.3	区内商業施設への移動 8.3	25.0	3.3
性別×年齢	30～39歳	85	南北の移動 51.8	公共交通機関の混雑 45.9	東西の移動 12.9	区内商業施設への移動 9.4	区内公共施設への移動 7.1	16.5	0.0
	40～49歳	131	南北の移動 60.3	公共交通機関の混雑 32.8	東西の移動 16.0	区内公共施設への移動 6.1	区内商業施設への移動 4.6	17.6	1.5
	50～59歳	125	南北の移動 44.8	公共交通機関の混雑 30.4	東西の移動 14.4	区内公共施設への移動 10.4	区内商業施設への移動 7.2	24.8	5.6
	60～69歳	98	南北の移動 37.8	公共交通機関の混雑 28.6	東西の移動 15.3	区内公共施設への移動 13.3	区内商業施設への移動 11.2	31.6	1.0
	70歳以上	138	南北の移動 20.3	区内公共施設への移動 15.9	医療・福祉関連施設への移動 /区内商業施設への移動 10.9	公共交通機関の混雑 10.1	区内商業施設への移動 10.1	42.8	4.3
	18～29歳	76	公共交通機関の混雑 30.3	南北の移動 21.1	東西の移動 18.4	区内商業施設への移動 10.5	区内公共施設への移動 /医療・福祉関連施設への移動 3.9	35.5	3.9
	30～39歳	122	公共交通機関の混雑 45.9	南北の移動 41.0	東西の移動 22.1	区内公共施設への移動 18.9	区内商業施設への移動 13.9	15.6	1.6
女性×年齢	40～49歳	126	南北の移動 40.5	公共交通機関の混雑 38.9	東西の移動 20.6	区内公共施設への移動 11.9	区内商業施設への移動 7.9	25.4	1.6
	50～59歳	149	南北の移動 44.3	公共交通機関の混雑 33.6	東西の移動 16.8	区内公共施設への移動 16.1	区内公共施設への移動 14.8	24.2	2.0
	60～69歳	127	南北の移動 33.1	公共交通機関の混雑 29.1	東西の移動 19.7	区内公共施設への移動 18.9	医療・福祉関連施設への移動 12.6	29.9	3.1
	70歳以上	196	南北の移動 20.9	医療・福祉関連施設への移動 17.3	公共交通機関の混雑 15.3	区内公共施設への移動 13.8	区内商業施設への移動 9.2	40.3	2.0

(2) 移動手段で重視するもの

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が4割台半ば

問13	区では、「快適に移動できるネットワーク都市」をまちづくりのテーマの一つに掲げ、交通利便性の向上を目指し、区全域を対象とした移動手段のマスタープラン「江東区地域公共交通計画」の策定に取り組んでいます。 あなたが、移動手段に関して特に重視するものを、次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。 (回答者数=1,461)	
1	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい	45.8%
2	目的地までの乗車時間が短い(速達性)	23.3%
3	運行本数が多い(10分に1本以上)	32.5%
4	発着時間の正確性(定時性)	7.6%
5	利用料金が安い	15.5%
6	バリアフリー性	5.1%
7	環境負荷への影響が少ない	2.5%
8	目的地までの歩く距離が短い	16.4%
9	車内が混雑していない	20.5%
10	目的地までのルート情報がわかりやすい(のりば案内・所要時間・遅延情報等)	10.1%
11	その他	1.4%
	無回答	5.1%

移動手段に関して特に重視するものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(45.8%)が4割台半ばで最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(32.5%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(23.3%)と続いている。



移動手段で重視するものー地区

地区でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は白河・小松橋地区で5割となっている。

移動手段で重視するものー地区（上位5項目）

		回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	(%)
全体		1,461	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 45.8	運行本数が多い (10分に1本以上) 32.5	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 23.3	車内が混雑していない 20.5	目的地までの歩く距離が短い 16.4	
地区	白河・小松橋	231	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 50.2	運行本数が多い (10分に1本以上) 30.3	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 24.2	目的地までの歩く距離が短い 22.9	車内が混雑していない 18.2	
	富岡・東陽	209	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 41.1	運行本数が多い (10分に1本以上) 34.4	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 24.9	車内が混雑していない 23.4	利用料金が安い 14.4	
	豊洲	306	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 47.1	運行本数が多い (10分に1本以上) 32.7	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 24.8	車内が混雑していない 23.5	利用料金が安い 17.3	
	亀戸	188	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 47.9	運行本数が多い (10分に1本以上) 35.1	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 24.5	利用料金が安い 18.6	車内が混雑していない 17.6	
	大島	172	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 47.1	運行本数が多い (10分に1本以上) 32.0	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 23.8	利用料金が安い 18.0	車内が混雑していない 14.5	
	砂町	219	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 44.7	運行本数が多い (10分に1本以上) 32.9	車内が混雑していない 21.0	目的地までの歩く距離が短い 18.7	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 16.0	
	南砂	106	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 40.6	運行本数が多い (10分に1本以上) 33.0	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 29.2	車内が混雑していない 28.3	利用料金が安い /目的地までの歩く距離が短い 14.2	

第4章 調査結果の分析〈4 交通・まちづくり〉

移動手段で重視するもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「運行本数が多い（10分に1本以上）」は男性の方が女性より6.5ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は男性50～59歳で5割台半ば、男性60～69歳で5割を超える。「運行本数が多い（10分に1本以上）」は男性30～39歳で4割を超え、男性60～69歳で4割となっている。「目的地までの乗車時間が短い（速達性）」は女性30～39歳で4割となっている。

移動手段で重視するもの－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
性別	年齢	回答者数	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 45.8	運行本数が多い（10分に1本以上） 32.5	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 23.3	車内が混雑していない 20.5	目的地までの歩く距離が短い 16.4
			他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 46.9	運行本数が多い（10分に1本以上） 36.6	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 23.8	車内が混雑していない 21.9	利用料金が安い 14.4
性別×年齢	18～29歳	137	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 44.5	運行本数が多い（10分に1本以上） 38.0	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 31.4	利用料金が安い 21.9	車内が混雑していない 20.4
	30～39歳	207	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 44.4	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 35.7	運行本数が多い（10分に1本以上） 31.4	車内が混雑していない 26.1	目的地までの歩く距離が短い 18.4
	40～49歳	260	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 47.7	運行本数が多い（10分に1本以上） 33.8	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 32.3	車内が混雑していない 25.8	利用料金が安い 17.3
	50～59歳	274	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 51.1	運行本数が多い（10分に1本以上） 31.0	目的地までの乗車時間が短い（速達性） /車内が混雑していない 21.2	目的地までの歩く距離が短い 21.2	目的地までの歩く距離が短い 20.1
	60～69歳	230	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 49.6	運行本数が多い（10分に1本以上） 31.3	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 22.2	車内が混雑していない 21.7	目的地までの歩く距離が短い 14.3
	70歳以上	335	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 39.4	運行本数が多い（10分に1本以上） 33.4	目的地までの歩く距離が短い 17.3	目的地までのルート情報がわかりやすい 14.6	利用料金が安い /車内が混雑していない 12.5
性別×年齢	18～29歳	60	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 41.7	運行本数が多い（10分に1本以上） 38.3	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 31.7	車内が混雑していない 21.7	利用料金が安い 20.0
	30～39歳	85	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 45.9	運行本数が多い（10分に1本以上） 41.2	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 29.4	車内が混雑していない 25.9	目的地までの歩く距離が短い 17.6
	40～49歳	131	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 48.9	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 36.6	運行本数が多い（10分に1本以上） 31.3	車内が混雑していない 29.0	利用料金が安い 17.6
	50～59歳	125	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 54.4	運行本数が多い（10分に1本以上） 35.2	車内が混雑していない 25.6	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 20.0	目的地までの歩く距離が短い 12.8
	60～69歳	98	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 51.0	運行本数が多い（10分に1本以上） 39.8	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 21.4	車内が混雑していない 18.4	利用料金が安い 15.3
	70歳以上	138	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 39.1	運行本数が多い（10分に1本以上） 37.7	目的地までの歩く距離が短い/目的地までのルート情報がわかりやすい 14.5	発着時間の正確性（定時性） 13.8	
性別×年齢	18～29歳	76	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 47.4	運行本数が多い（10分に1本以上） 38.2	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 31.6	利用料金が安い 23.7	車内が混雑していない 18.4
	30～39歳	122	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 43.4	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 40.2	車内が混雑していない 26.2	運行本数が多い（10分に1本以上） 24.6	目的地までの歩く距離が短い 18.9
	40～49歳	126	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 47.6	運行本数が多い（10分に1本以上） 37.3	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 27.8	車内が混雑していない 21.4	利用料金が安い 16.7
	50～59歳	149	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 48.3	運行本数が多い（10分に1本以上） 27.5	目的地までの歩く距離が短い 26.2	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 22.1	利用料金が安い 21.5
	60～69歳	127	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 49.6	運行本数が多い（10分に1本以上） 26.0	車内が混雑していない 23.6	目的地までの乗車時間が短い（速達性） 22.8	目的地までの歩く距離が短い 15.0
	70歳以上	196	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 39.8	運行本数が多い（10分に1本以上） 30.6	目的地までの歩く距離が短い 19.4	目的地までのルート情報がわかりやすい 14.3	利用料金が安い 13.8

(3) 沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくり

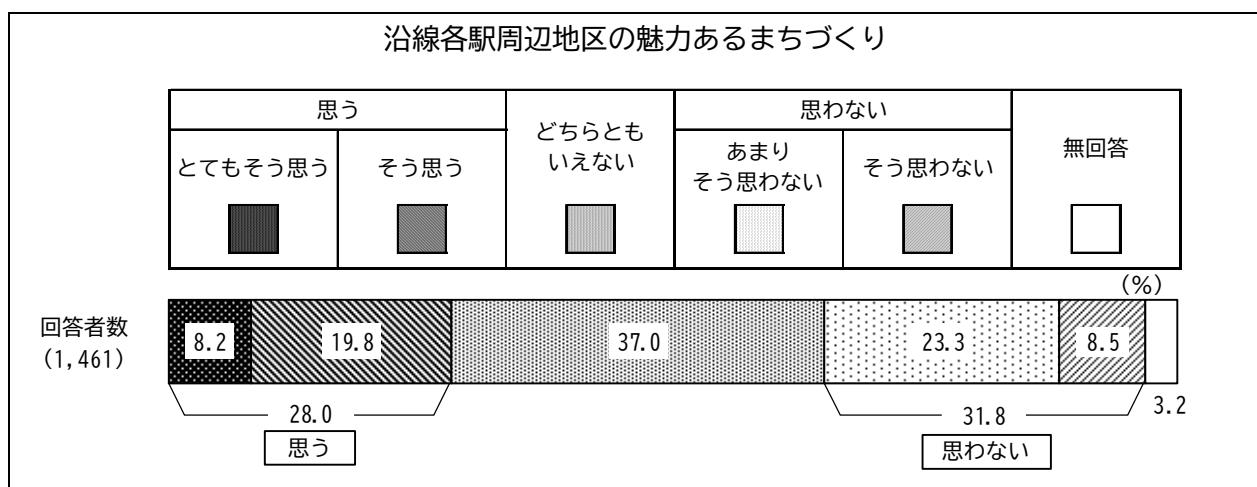
新規

◇「思う」は3割近く

問14	地下鉄8号線（有楽町線）豊洲～住吉間の延伸に伴い、沿線各駅（豊洲駅、（仮称）枝川駅、東陽町駅、（仮称）千石駅、住吉駅）周辺のまちづくりを順次進めています。あなたは沿線各駅周辺地区において魅力あるまちづくりが進んでいると思いますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。（回答者数=1,461）			
	1 とてもそう思う	8.2%	4 あまりそう思わない	23.3%

- | | | | |
|-------------|-------|----------|------|
| 2 そう思う | 19.8% | 5 そう思わない | 8.5% |
| 3 どちらともいえない | 37.0% | 無回答 | 3.2% |

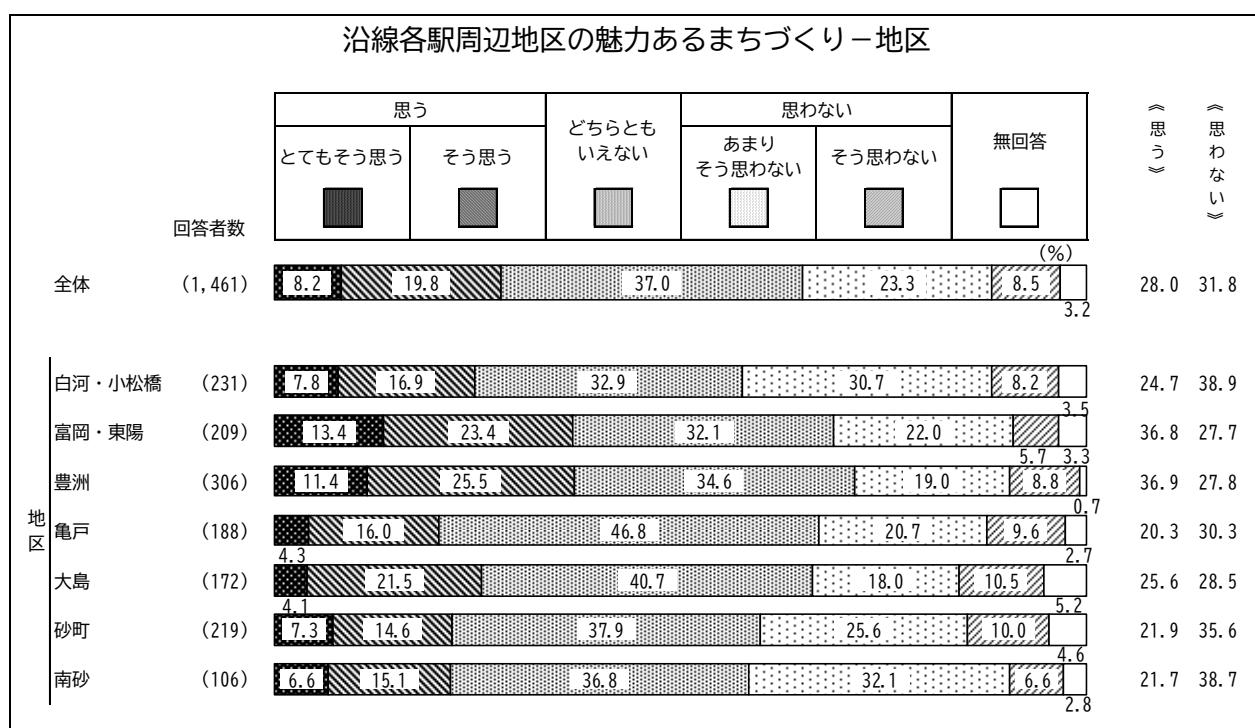
沿線各駅周辺地区において魅力あるまちづくりが進んでいると思うか聞いたところ、「とてもそう思う」（8.2%）と「そう思う」（19.8%）の2つを合わせた「思う」（28.0%）は3割近くとなっている。



第4章 調査結果の分析〈4 交通・まちづくり〉

沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくりー地区

地区でみると、《思う》は富岡・東陽地区と豊洲地区で4割近くとなっている。《思わない》は白河・小松橋地区と南砂地区で4割近くとなっている。

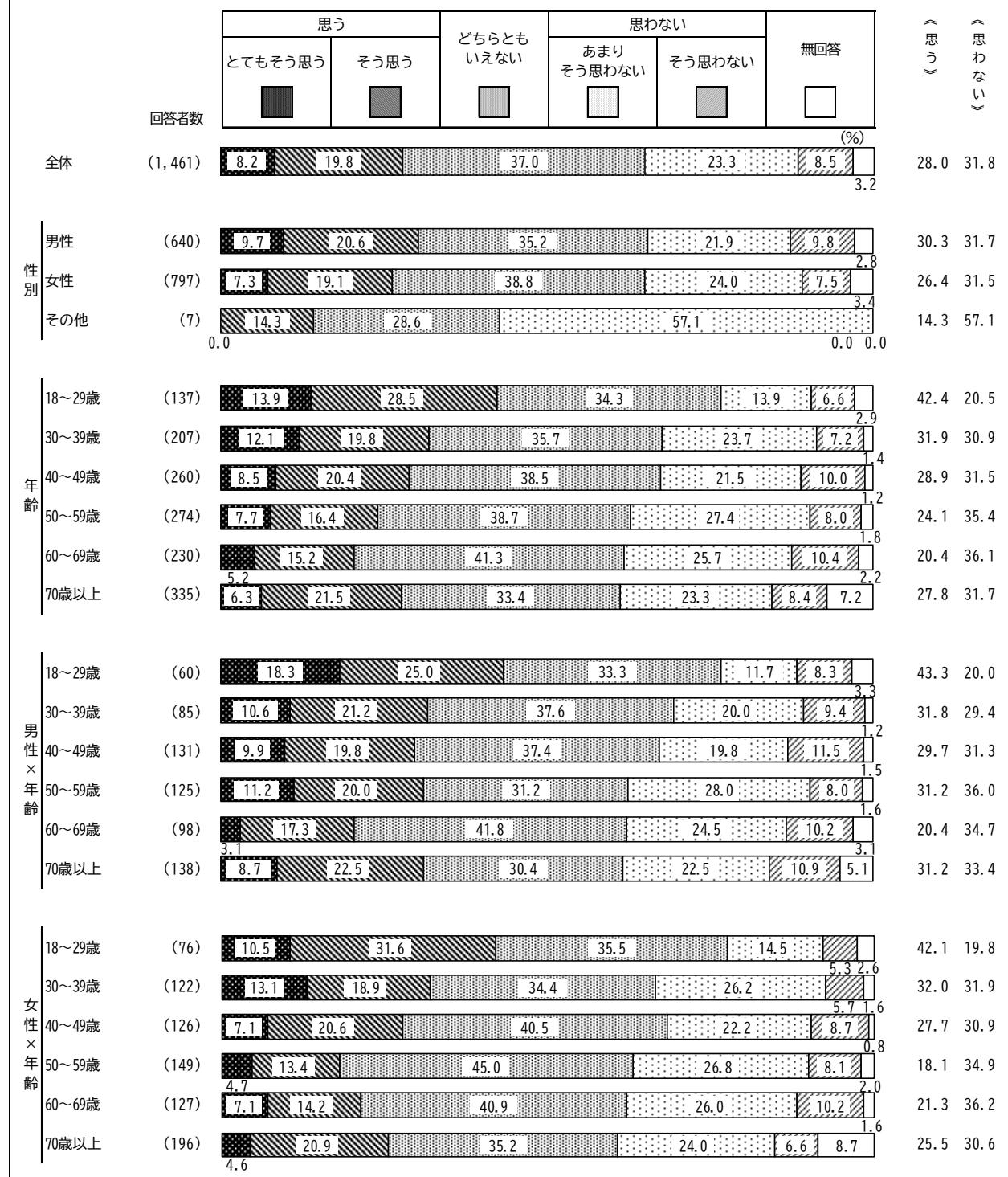


沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくり－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、『思う』は男性が3割、女性が2割台半ばとなっている。

性別×年齢でみると、『思う』は男性18～29歳、女性18～29歳で4割を超えており、

沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくり－性別／年齢／性別×年齢

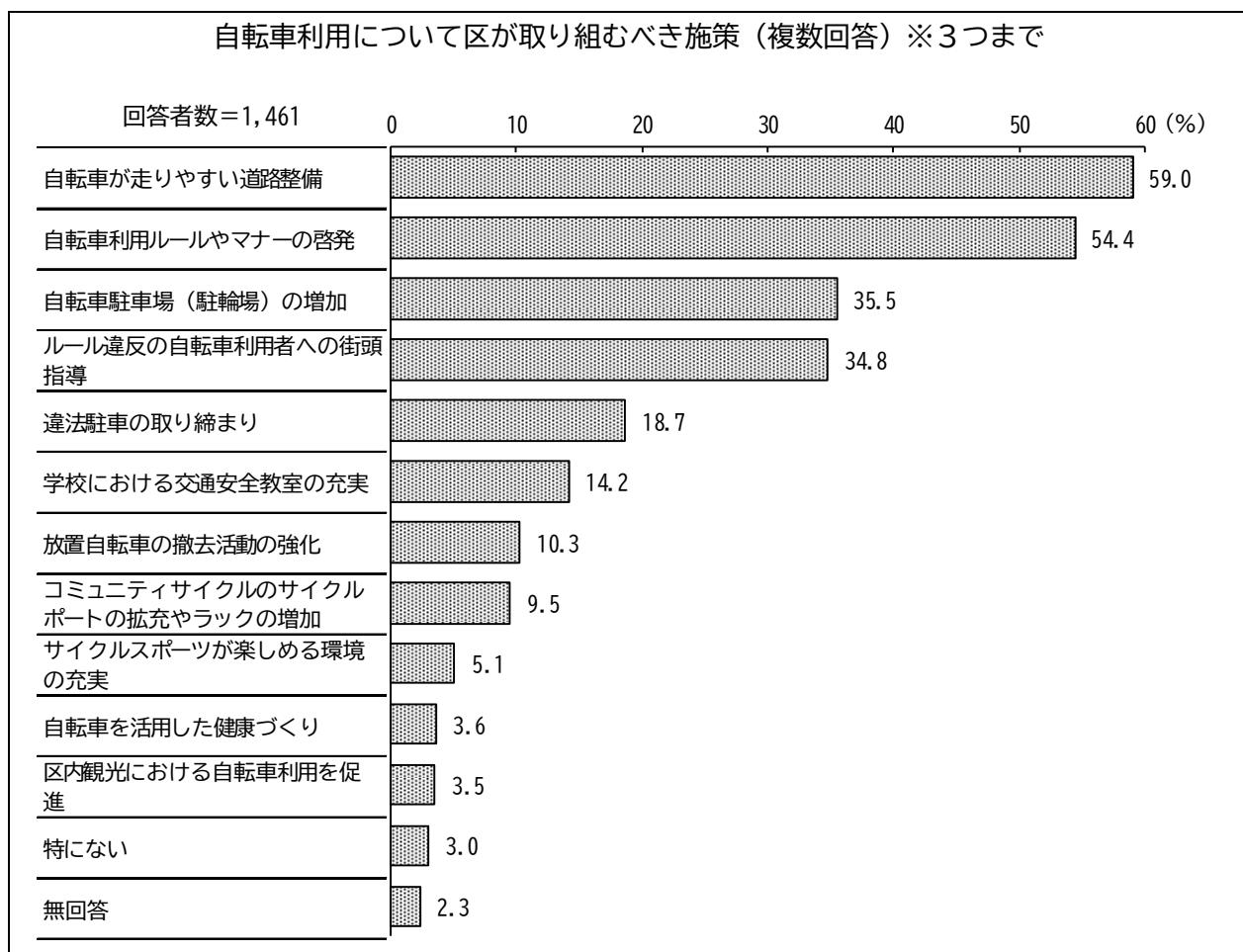


(4) 自転車利用について区が取り組むべき施策

◇「自転車が走りやすい道路整備」がほぼ6割

問15	あなたが、自転車利用に関して、区で重点的に取り組むべきだと思う施策は何ですか。 次の中から3つまで選んでください。(回答者数=1,461)		
1	自転車利用ルールやマナーの啓発	54.4%	8 コミュニティサイクルのサイクルポートの拡充やラックの増加 9.5%
2	学校における交通安全教室の充実	14.2%	9 自転車を活用した健康づくり 3.6%
3	ルール違反の自転車利用者への街頭指導	34.8%	10 サイクルスポーツが楽しめる環境の充実 5.1%
4	違法駐車の取り締まり	18.7%	11 区内観光における自転車利用を促進 3.5%
5	自転車が走りやすい道路整備	59.0%	12 特にない 3.0%
6	自転車駐車場(駐輪場)の増加	35.5%	無回答 2.3%
7	放置自転車の撤去活動の強化	10.3%	

自転車利用に関して区で重点的に取り組むべきだと思う施策について聞いたところ、「自転車が走りやすい道路整備」(59.0%)がほぼ6割で最も多く、次いで「自転車利用ルールやマナーの啓発」(54.4%)、「自転車駐車場(駐輪場)の増加」(35.5%)と続いている。



自転車利用について区が取り組むべき施策－地区

地区でみると、「自転車が走りやすい道路整備」はすべての地区で5割以上となっている。「自転車駐車場（駐輪場）の増加」は白河・小松橋地区で4割を超えていている。

自転車利用について区が取り組むべき施策－地区（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体	1,461	自転車が走りやすい 道路整備	59.0	自転車利用ルールや マナーの啓発	54.4	自転車駐車場（駐輪 場）の増加	35.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導
地区	白河・小松橋	231	自転車が走りやすい 道路整備	66.7	自転車利用ルールや マナーの啓発	51.5	自転車駐車場（駐輪 場）の増加	42.0
	富岡・東陽	209	自転車が走りやすい 道路整備	55.5	自転車利用ルールや マナーの啓発	54.5	自転車駐車場（駐輪 場）の増加	34.0
	豊洲	306	自転車利用ルールや マナーの啓発	55.2	自転車が走りやすい 道路整備	54.9	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導	39.2
	亀戸	188	自転車が走りやすい 道路整備	62.8	自転車利用ルールや マナーの啓発	54.8	自転車駐車場（駐輪 場）の増加	38.8
	大島	172	自転車利用ルールやマナーの啓発/自転車 が走りやすい道路整備	56.4	自転車駐車場（駐輪 場）の増加	32.0	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導	30.2
	砂町	219	自転車が走りやすい 道路整備	60.7	自転車利用ルールや マナーの啓発	57.1	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導	38.4
	南砂	106	自転車が走りやすい 道路整備	56.6	自転車利用ルールや マナーの啓発	51.9	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導	39.6

第4章 調査結果の分析〈4 交通・まちづくり〉

自転車利用について区が取り組むべき施策－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「自転車が走りやすい道路整備」は女性の方が男性より5.1ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「自転車が走りやすい道路整備」は男性30～39歳でほぼ7割となっている。また、「自転車利用ルールやマナーの啓発」は女性60～69歳で7割近くとなっている。

自転車利用について区が取り組むべき施策－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		(%)					
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,461	自転車が走りやすい 道路整備 59.0	自転車利用ルールや マナーの啓発 54.4	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 35.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 34.8	違法駐車の取り締まり 18.7
性別	男性	640	自転車が走りやすい 道路整備 56.4	自転車利用ルールや マナーの啓発 53.9	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 37.5	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 33.6	違法駐車の取り締まり 22.7
	女性	797	自転車が走りやすい 道路整備 61.5	自転車利用ルールや マナーの啓発 55.6	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 37.6	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 32.2	学校における交通安全 教室の充実 16.7
	その他	7	違法駐車の取り締まり/自転車が走りやす い道路整備 42.9	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 28.6	自転車駐車場（駐輪場）の増加/放置自転 車の撤去活動の強化/サイクルポートの拡 充やラックの増加 14.3		
年齢	18～29歳	137	自転車が走りやすい 道路整備 59.1	自転車利用ルールや マナーの啓発 41.6	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 31.4	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 21.9	違法駐車の取り締まり 19.0
	30～39歳	207	自転車が走りやすい 道路整備 68.6	自転車利用ルールや マナーの啓発 52.7	ルール違反の自転車利用者への街頭指導 /自転車駐車場（駐輪場）の増加 34.3		学校における交通安全 教室の充実/違法駐車 の取り締まり 19.3
	40～49歳	260	自転車が走りやすい 道路整備 64.6	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 48.5	自転車利用ルールや マナーの啓発 43.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 28.1	学校における交通安全 教室の充実/サイクルポートの 拡充やラックの増加 17.3
	50～59歳	274	自転車が走りやすい 道路整備 62.8	自転車利用ルールや マナーの啓発 56.2	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 47.1	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 29.9	違法駐車の取り締まり 18.6
	60～69歳	230	自転車利用ルールや マナーの啓発 65.2	自転車が走りやすい 道路整備 54.8	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 45.7	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 30.4	違法駐車の取り締まり 20.9
	70歳以上	335	自転車利用ルールや マナーの啓発 61.8	自転車が走りやすい 道路整備 49.0	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 42.1	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 22.4	違法駐車の取り締まり 17.9
	18～29歳	60	自転車が走りやすい 道路整備 53.3	自転車利用ルールや マナーの啓発 35.0	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 33.3	違法駐車の取り締まり 26.7	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 23.3
性別 × 年齢	30～39歳	85	自転車が走りやすい 道路整備 70.6	自転車利用ルールや マナーの啓発 48.2	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 34.1	違法駐車の取り締まり/自転車駐車場（駐 輪場）の増加 28.2	
	40～49歳	131	自転車が走りやすい 道路整備 61.8	自転車利用ルールや マナーの啓発 48.1	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 43.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 31.3	違法駐車の取り締まり /サイクルポートの拡充 16.8
	50～59歳	125	自転車利用ルールや マナーの啓発 59.2	自転車が走りやすい 道路整備 55.2	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 44.0	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 36.0	違法駐車の取り締まり 23.2
	60～69歳	98	自転車利用ルールや マナーの啓発 62.2	自転車が走りやすい 道路整備 52.0	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 46.9	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 32.7	違法駐車の取り締まり 24.5
	70歳以上	138	自転車利用ルールや マナーの啓発 60.9	自転車が走りやすい 道路整備 48.6	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 46.4	違法駐車の取り締まり 21.7	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 18.8
	18～29歳	76	自転車が走りやすい 道路整備 63.2	自転車利用ルールや マナーの啓発 47.4	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 28.9	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 21.1	違法駐車の取り締まり 13.2
女性 × 年齢	30～39歳	122	自転車が走りやすい 道路整備 67.2	自転車利用ルールや マナーの啓発 55.7	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 38.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 34.4	学校における交通安全 教室の充実 23.0
	40～49歳	126	自転車が走りやすい 道路整備 68.3	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 54.8	自転車利用ルールや マナーの啓発 39.7	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 23.8	学校における交通安全 教室の充実 19.0
	50～59歳	149	自転車が走りやすい 道路整備 69.1	自転車利用ルールや マナーの啓発 53.7	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 49.7	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 24.8	学校における交通安全 教室の充実/違法駐車 の取り締まり 14.8
	60～69歳	127	自転車利用ルールや マナーの啓発 67.7	自転車が走りやすい 道路整備 57.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 43.3	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 29.9	学校における交通安全 教室の充実 18.1
	70歳以上	196	自転車利用ルールや マナーの啓発 62.8	自転車が走りやすい 道路整備 49.5	ルール違反の自転車 利用者への街頭指導 39.3	自転車駐車場（駐輪 場）の増加 25.0	違法駐車の取り締まり 15.3

5 選挙

-
- (1) 東京都議会議員選挙の投票の有無
 - (2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの
 - (3) 投票しなかった理由
 - (4) 「選挙公報」の閲読状況
-

5 選挙

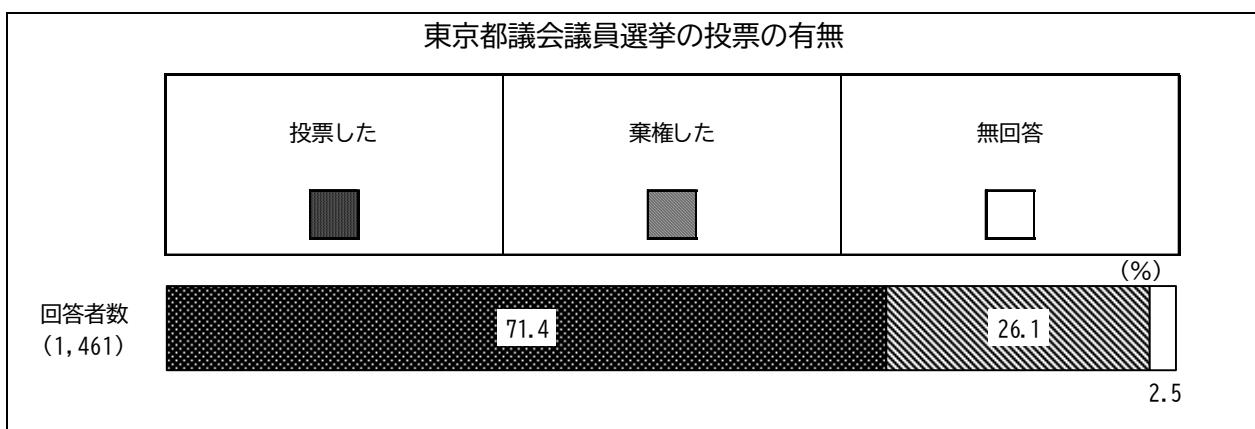
(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無

◇「投票した」が7割を超える

問16	令和7年6月22日は、東京都議会議員選挙の投票日でしたが、あなたは投票しましたか。 次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,461)		
1 投票した	71.4%	2 棄権した	26.1%

無回答 2.5%

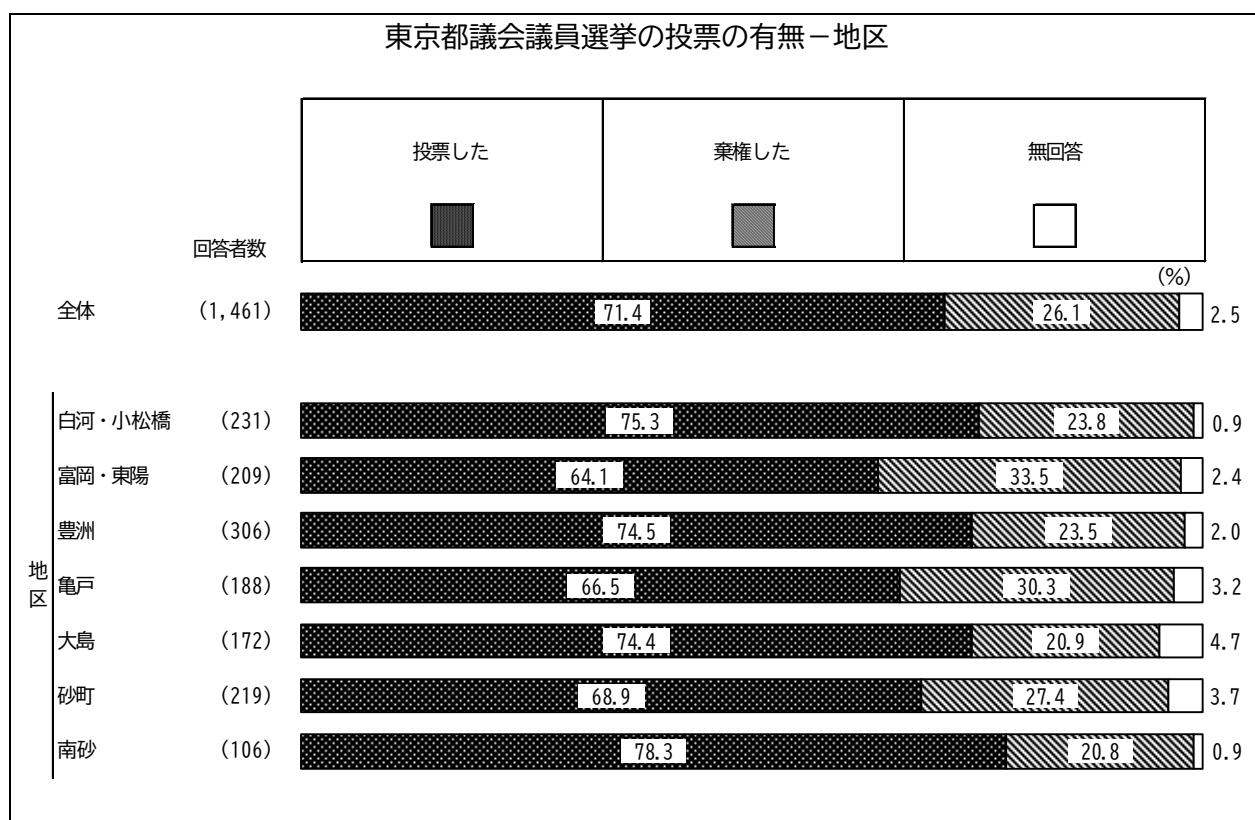
令和7年6月22日の東京都議会議員選挙に投票したかを聞いたところ、「投票した」(71.4%)は7割を超えており、なお、実際の東京都議会議員選挙の投票率は49.13%であった。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

東京都議会議員選挙の投票の有無－地区

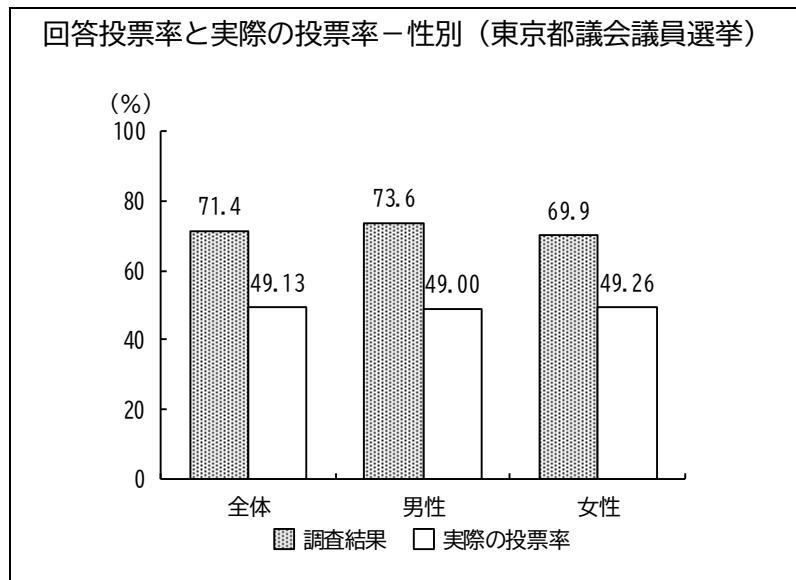
地区でみると、「投票した」は南砂地区で8割近く、白河・小松橋地区、豊洲地区、大島地区で7割台半ばとなっている。



回答投票率と実際の投票率－性別

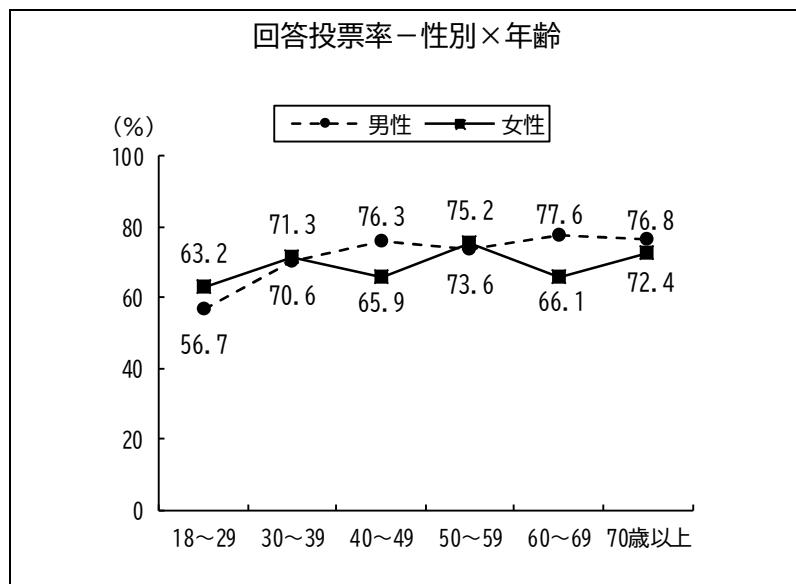
性別でみると、実際の投票率は男女で大きな差はみられないが、調査結果は男性の方が女性より3.7ポイント高くなっている。

実際の投票率の平均をみると、東京都議会議員選挙は男性49.00%、女性49.26%となっている。



回答投票率－性別×年齢

性別×年齢でみると、40～49歳、60歳以上は男性の方が女性より投票率が高く、特に60～69歳では男性の方が女性より11.5ポイント高くなっている。一方、それ以外の年齢では女性の方が男性より高く、18～29歳は女性の方が6.5ポイント高くなっている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

調査結果による推定投票率－性別×年齢

実際の平均投票率は東京都議会議員選挙が49.13%であり、今回の調査結果(71.4%)とは22.27ポイントの差がある。

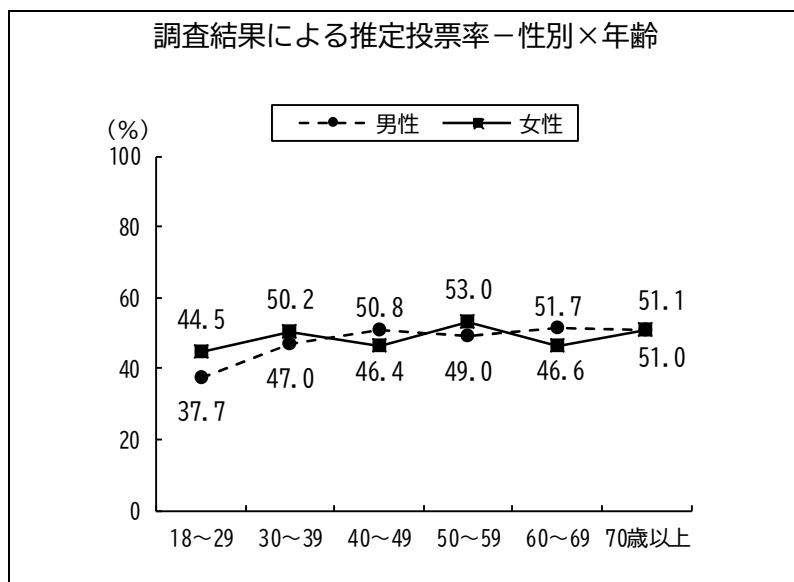
このような形式の質問で、回答が実際の結果と差異が生じることが多いのは、世論調査の回答者は、世論調査に協力しなかった人に比べて区政への関心度が相対的に高いと考えられるため、回答者全体に占める投票した人の割合も高くなることが要因のひとつと考えられる。これらの要因は世論調査では避けがたいものであるが、結果の数値を一定の値としてみる限り、大きな支障はないと考えられる。そこで、性別×年齢による分析を正確にするため、下記の式による補正係数を算出した。

実際の投票率との比較と補正係数（東京都議会議員選挙）

	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率	
調査結果による投票率	71.4 %	男性 0.6658	49.00% 73.6%
実際の投票率	49.13%	女性 0.7047	49.26% 69.9%
		全体 0.6881	49.13% 71.4%

それぞれの性別の補正係数を各年齢層に掛け合わせて、性別×年齢の推定投票率を求める以下のようになる。なお、グラフ中の数値については、小数点第2位を四捨五入した。

推定投票率をみると、男性18～29歳で最も低く37.7%、女性50～59歳で最も高く53.0%となっている。

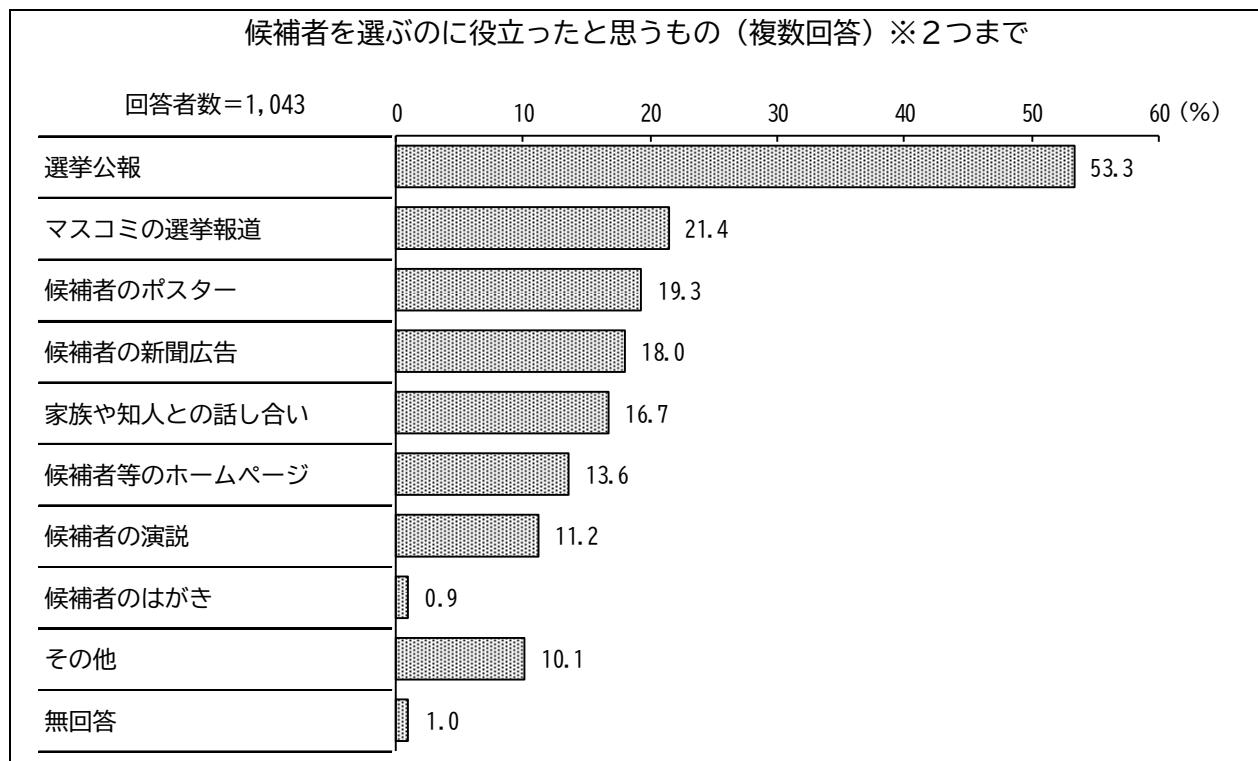


(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

◇「選挙公報」が5割を超える

問16-1 (回答者数=1,043)	(問16で、「1 投票した」とお答えの方に)			
	あなたが、候補者を選ぶのに役立ったと思うものを、次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。			
1 選挙公報	53.3%	6 マスコミの選挙報道	21.4%	
2 候補者のポスター	19.3%	7 家族や知人との話し合い	16.7%	
3 候補者のはがき	0.9%	8 候補者等のホームページ	13.6%	
4 候補者の演説	11.2%	9 その他	10.1%	
5 候補者の新聞広告	18.0%	無回答	1.0%	

令和7年6月の東京都議会議員選挙に「投票した」と答えた方（1,043人）に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」（53.3%）が5割を超えて最も多く、次いで「マスコミの選挙報道」（21.4%）、「候補者のポスター」（19.3%）と続いている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

候補者を選ぶのに役立ったと思うもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、女性は「候補者の新聞広告」が第2位となっている。

性別×年齢でみると、男女ともに「選挙公報」が第1位となっており、男女ともに70歳以上ではほぼ6割となっている。

候補者を選ぶのに役立ったと思うもの－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

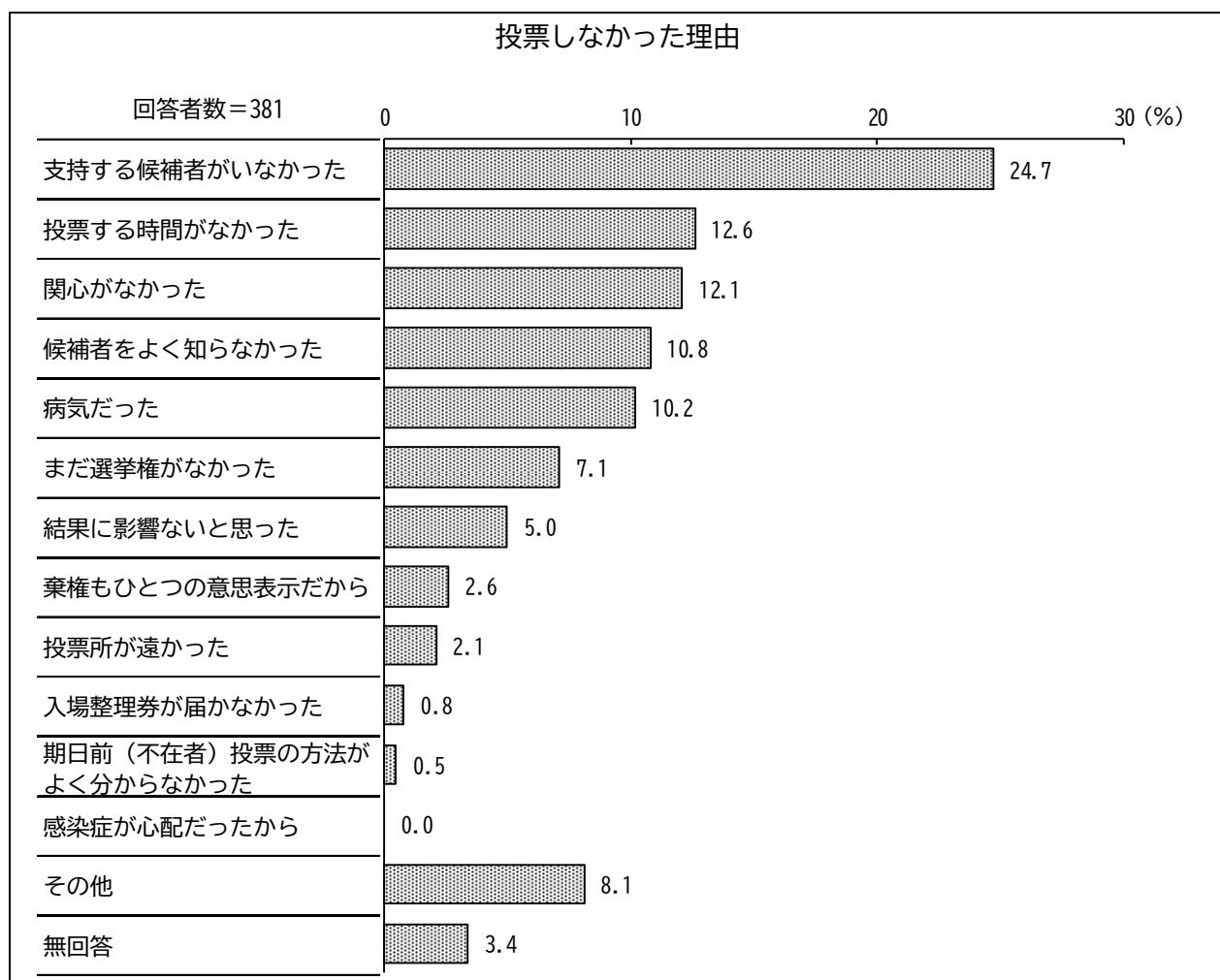
		回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	(%)
全体		1,043	選挙公報 53.3	マスコミの選挙報道 21.4	候補者のポスター 19.3	候補者の新聞広告 18.0	家族や知人との話し合い 16.7	
性別	男性	471	選挙公報 53.5	マスコミの選挙報道 23.4	候補者のポスター 20.2	候補者等のホームページ 15.1	候補者の新聞広告 14.0	
	女性	557	選挙公報 53.5	候補者の新聞広告 21.7	マスコミの選挙報道 19.7	家族や知人との話し合い 19.2	候補者のポスター 19.0	
	その他	5	選挙公報 40.0	マスコミの選挙報道/家族や知人との話し合い/候補者等のホームページ			20.0	
年齢	18～29歳	82	選挙公報 42.7	候補者等のホームページ 20.7	候補者のポスター/マスコミの選挙報道/家族や知人との話し合い 19.5			
	30～39歳	147	選挙公報 48.3	候補者等のホームページ 25.9	候補者の新聞広告 15.6	家族や知人との話し合い 15.0	マスコミの選挙報道 13.6	
	40～49歳	185	選挙公報 51.9	候補者等のホームページ 19.5	候補者のポスター/候補者の新聞広告 17.8		家族や知人との話し合い 16.2	
	50～59歳	204	選挙公報 55.9	候補者のポスター 21.6	マスコミの選挙報道/家族や知人との話し合い 18.1		候補者の新聞広告 16.2	
	60～69歳	164	選挙公報 53.7	マスコミの選挙報道 28.7	候補者のポスター/候補者の新聞広告 19.5		家族や知人との話し合い 17.7	
	70歳以上	248	選挙公報 59.3	マスコミの選挙報道 29.8	候補者のポスター 22.6	候補者の新聞広告 19.8	家族や知人との話し合い 16.9	
男性×年齢	18～29歳	34	選挙公報 47.1	候補者の新聞広告/マスコミの選挙報道/候補者等のホームページ 20.6			候補者のポスター 17.6	
	30～39歳	60	選挙公報 45.0	マスコミの選挙報道 20.0	候補者のポスター/候補者等のホームページ 16.7		候補者の演説/候補者の新聞広告/家族や知人との話し合い 13.3	
	40～49歳	100	選挙公報 48.0	候補者等のホームページ 26.0	家族や知人との話し合い 16.0	候補者のポスター/マスコミの選挙報道 15.0		
	50～59歳	92	選挙公報 56.5	候補者のポスター 22.8	マスコミの選挙報道 17.4	候補者等のホームページ 16.3	家族や知人との話し合い 14.1	
	60～69歳	76	選挙公報 59.2	マスコミの選挙報道 31.6	候補者のポスター 23.7	家族や知人との話し合い 14.5	候補者の演説/候補者の新聞広告 13.2	
	70歳以上	106	選挙公報 59.4	マスコミの選挙報道 34.0	候補者のポスター 22.6	候補者の演説 15.1	候補者の新聞広告 14.2	
女性×年齢	18～29歳	48	選挙公報 39.6	候補者のポスター/候補者等のホームページ 20.8	候補者の新聞広告/マスコミの選挙報道/家族や知人との話し合い 18.8			
	30～39歳	87	選挙公報 50.6	候補者等のホームページ 32.2	候補者の新聞広告 17.2	家族や知人との話し合い 16.1	候補者のポスター 10.3	
	40～49歳	83	選挙公報 56.6	候補者の新聞広告 24.1	候補者のポスター 21.7	マスコミの選挙報道/家族や知人との話し合い 15.7		
	50～59歳	112	選挙公報 55.4	家族や知人との話し合い 21.4	候補者のポスター 20.5	候補者の新聞広告/マスコミの選挙報道 18.8		
	60～69歳	84	選挙公報 48.8	候補者の新聞広告 26.2	マスコミの選挙報道 25.0	家族や知人との話し合い 21.4	候補者のポスター/候補者の演説 16.7	
	70歳以上	142	選挙公報 59.2	マスコミの選挙報道 26.8	候補者の新聞広告 23.9	候補者のポスター 22.5	家族や知人との話し合い 20.4	

(3) 投票しなかった理由

◇「支持する候補者がいなかった」が2割台半ば

問16-2	(問16で、「2 投票しなかった」とお答えの方に)			
	あなたが、東京都議会議員選挙で投票しなかった理由を、次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。			
	(回答者数=381)			
1 支持する候補者がいなかった	24.7%	8 投票所が遠かった	2.1%	
2 候補者をよく知らなかった	10.8%	9 関心がなかった	12.1%	
3 結果に影響ないと思った	5.0%	10 期日前(不在者)投票の方法がよく分からなかった	0.5%	
4 弃権もひとつの意思表示だから	2.6%	11 入場整理券が届かなかった	0.8%	
5 投票する時間がなかった	12.6%	12 まだ選挙権がなかった	7.1%	
6 病気だった	10.2%	13 その他	8.1%	
7 感染症が心配だったから	0.0%	無回答	3.4%	

令和7年6月の東京都議会議員選挙に「投票しなかった」と答えた方（381人）に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」（24.7%）が2割台半ばで最も多く、次いで「投票する時間がなかった」（12.6%）、「関心がなかった」（12.1%）と続いている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「投票する時間がなかった」は女性の方が男性より7.8ポイント高くなっている。

年齢でみると、「支持する候補者がいなかった」は30歳以上で第1位となっており、60～69歳は4割を超えており、29歳以下は「投票する時間がなかった」が第1位となっている。

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

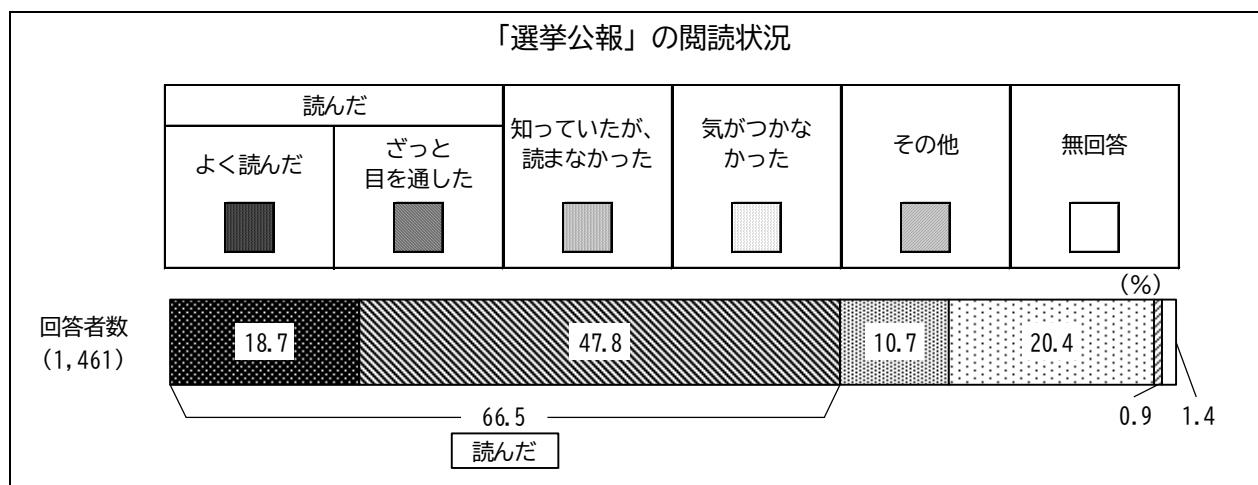
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		381	支持する候補者がいなかった 24.7	投票する時間がなかった 12.6	関心がなかった 12.1	候補者をよく知らなかった 10.8	病気だった 10.2	
性別	男性	156	支持する候補者がいなかった 25.0	関心がなかった 14.7	候補者をよく知らなかった 10.3	投票する時間がなかった/まだ選挙権がなかった 8.3		
	女性	217	支持する候補者がいなかった 24.4	投票する時間がなかった 16.1	候補者をよく知らなかった/病気だった 11.5	関心がなかった 10.6		
	その他	2	病気だった/期日前（不在者）投票の方法がよく分からなかった 50.0					
年齢	18～29歳	52	投票する時間がなかった 23.1	関心がなかった 17.3	支持する候補者がいなかった/まだ選挙権がなかった 15.4	候補者をよく知らなかった 11.5		
	30～39歳	59	支持する候補者がいなかった 18.6	投票する時間がなかった 16.9	関心がなかった 11.9	まだ選挙権がなかった 10.2	病気だった 8.5	
	40～49歳	73	支持する候補者がいなかった 20.5	関心がなかった 19.2	投票する時間がなかった 15.1	病気だった/まだ選挙権がなかった 11.0		
	50～59歳	62	支持する候補者がいなかった 21.0	候補者をよく知らなかった/投票する時間がなかった 17.7	関心がなかった 11.3	病気だった 8.1		
	60～69歳	60	支持する候補者がいなかった 43.3	候補者をよく知らなかった 13.3	病気だった 11.7	結果に影響ないと思った/投票する時間がなかった/関心がなかった 6.7		
	70歳以上	70	支持する候補者がいなかった 28.6	病気だった 15.7	候補者をよく知らなかった 12.9	棄権もひとつの意思表示だから/関心がなかった 7.1		
性別×年齢	18～29歳	24	関心がなかった 25.0	支持する候補者がいなかった/候補者をよく知らなかった/投票する時間がなかった /まだ選挙権がなかった			12.5	
	30～39歳	25	支持する候補者がいなかった 20.0	結果に影響ないと思った/投票する時間がなかった/まだ選挙権がなかった		病気だった/関心がなかった 12.0	8.0	
	40～49歳	30	支持する候補者がいなかった 26.7	関心がなかった 23.3	まだ選挙権がなかった 20.0	病気だった 6.7	投票する時間がなかった/期日前（不在者）投票の方法がよく分からなかった/入場整理券が届かなかった 3.3	
	50～59歳	30	支持する候補者がいなかった 23.3	候補者をよく知らなかった/関心がなかった 16.7	投票する時間がなかった 13.3	結果に影響ないと思った /棄権もひとつの意思表示だから 6.7		
	60～69歳	20	支持する候補者がいなかった 40.0	候補者をよく知らなかった 20.0	結果に影響ないと思った/投票する時間がなかった 10.0	棄権もひとつの意思表示だから/病気だった/関心がなかった 5.0		
	70歳以上	27	支持する候補者がいなかった 29.6	病気だった 18.5	棄権もひとつの意思表示だから 14.8	候補者をよく知らなかった/投票所が遠かった 11.1		
女性×年齢	18～29歳	27	投票する時間がなかった 33.3	支持する候補者がいなかった/まだ選挙権がなかった 18.5		候補者をよく知らなかった/関心がなかった 11.1		
	30～39歳	34	投票する時間がなかった 20.6	支持する候補者がいなかった 17.6	関心がなかった 14.7	病気だった/まだ選挙権がなかった 8.8		
	40～49歳	42	投票する時間がなかった 23.8	支持する候補者がいなかった/関心がなかった 16.7		病気だった 11.9	候補者をよく知らなかった/結果に影響ないと思った 9.5	
	50～59歳	32	投票する時間がなかった 21.9	支持する候補者がいなかった/候補者をよく知らなかった 18.8		病気だった 15.6	結果に影響ないと思った /関心がなかった/まだ選挙権がなかった 6.3	
	60～69歳	39	支持する候補者がいなかった 43.6	病気だった 15.4	候補者をよく知らなかった 10.3	関心がなかった 7.7	結果に影響ないと思った /投票する時間がなかった 5.1	
	70歳以上	43	支持する候補者がいなかった 27.9	候補者をよく知らなかった/病気だった 14.0		関心がなかった 7.0	結果に影響ないと 思った 4.7	

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は7割近く

問17	区の選挙管理委員会では、東京都議会議員選挙の「選挙公報」を各戸配布し、また、区内各施設や区内各駅に公報スタンドを設置しましたが、あなたはお読みになりましたか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=1,461)			
1 よく読んだ	18.7%	4 気がつかなかった	20.4%	
2 ざっと目を通した	47.8%	5 その他	0.9%	
3 知っていたが、読まなかった	10.7%	無回答	1.4%	

東京都議会議員選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(18.7%)と「ざっと目を通した」(47.8%)の2つを合わせた「読んだ」(66.5%)は7割近くとなっている。一方、「知っていたが、読まなかった」(10.7%)はほぼ1割、「気がつかなかった」(20.4%)は2割となっている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

「選挙公報」の閲読状況－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男女による差はみられない。

性別×年齢でみると、「読んだ」は男女ともおおむね高い年齢ほど割合が高く、男性70歳以上で8割を超えており。一方、「気がつかなかった」は女性18～29歳で4割台半ばとなっている。

